

<自主研究>

---

---

# 平成 19 年能登半島地震についてのアンケート調査 調 査 報 告 書

---

---

平成 19 年 5 月

 **株式会社** サーベイリサーチセンター  
SURVEY RESEARCH CENTER CO.,LTD.

<自主研究>

---

---

平成 19 年能登半島地震についてのアンケート調査  
調 査 報 告 書

---

---

平成 19 年 5 月

 株式  
会社 サーベイリサーチセンター  
SURVEY RESEARCH CENTER CO.,LTD.

# 目 次

## I 調査概要

1 調査目的	1
2 調査設計	1
3 調査内容	1
4 集計にあたって	2
5 「平成19年(2007年)能登半島地震」について	2

## II 調査結果のまとめ

調査結果のまとめ(東洋大学社会学部教授 中村 功)	3
---------------------------	---

## III 回答者の属性

回答者の属性	5
--------	---

## IV 調査結果

1 地震発生時にいた場所	7
2 揺れている間の行動	8
3 避難の有無	10
4 地震当日、困ったこと	11
5 地震直後の情報入手	13
6 地震や津波に対する意識	16
7 地域の安全性	18
8 通信手段とその状況	20
9 安否確認	23
10 被害状況	26
11 地震への備え	30
12 緊急地震速報	36

## V 調査票(単純集計結果)

調査票(単純集計結果)	39
-------------	----

## VI 自由回答

自由回答	47
------	----

## 付 サーベイリサーチセンターの業務案内

# I 調查概要

# I. 調査概要

## 1 調査目的

2007年3月25日（日）9時42分頃に発生した「平成19年（2007年）能登半島地震」について、地震発生直後の住民の意識や行動を把握することで、今後の防災のあり方や住民の防災対策に役立てる基礎的な資料を提供すること。

## 2 調査設計

### ① 調査地域

石川県及び富山県内の震度5弱以上を観測した市町村

### ② 調査方法

インターネットアンケートパネルを対象としたWebによるクローズド調査

### ③ 調査対象者

調査対象地域に居住する20歳以上の男女

### ④ 回収数

504 サンプル

### ⑤ 調査期間

2007年3月29日（木）～4月2日（月）

### ⑥ 調査実施主体

株式会社サーベイリサーチセンター

## 3 調査内容

調査内容は以下の通り。

- ・地震発生時にいた場所
- ・揺れている間の行動
- ・避難の有無
- ・地震当日、困ったこと
- ・地震直後の情報入手
- ・地震や津波に対する意識
- ・地域の安全性
- ・通信手段とその状況
- ・安否確認
- ・被害状況
- ・地震への備え
- ・緊急地震速報

## 4 集計にあたって

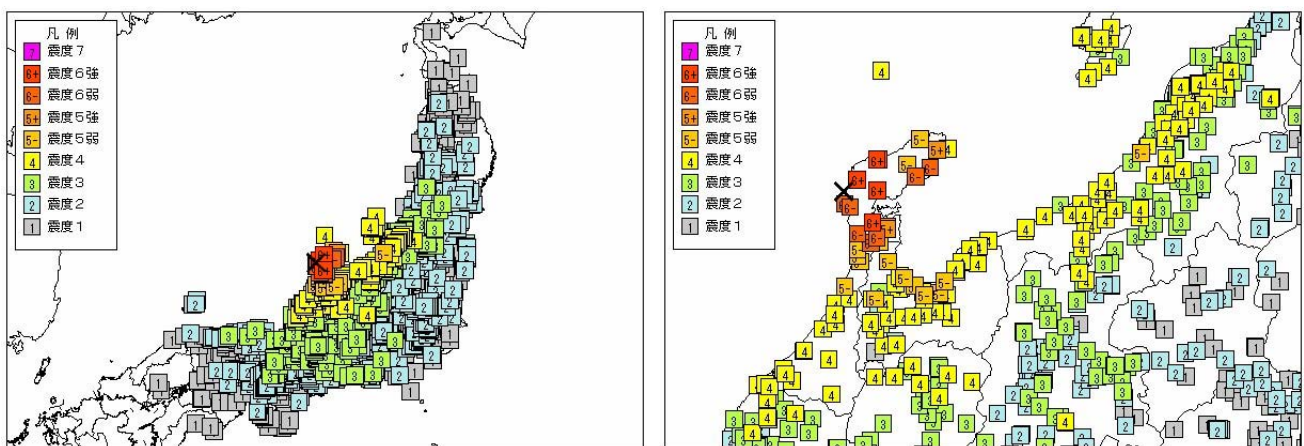
- 集計は、回答者数を 100%として算出し、小数点第 2 位を四捨五入している。このため、回答率の合計が、単数回答設問でも 100%にならない場合がある。
- グラフ中の「n」は基数で、その質問に回答すべき人数を表す。

## 5 「平成 19 年（2007 年）能登半島地震」について

3月25日（日）9時42分ころ、能登半島沖（輪島の西南西、約40km）の深さ約50kmを震源とするマグニチュード7.1（M速報値）の地震が発生した。この地震により、石川県の七尾市・輪島市・穴水町で震度6強を、石川県の志賀町・中能登町・能登町で震度6弱を観測するなど、北陸地方を中心に北海道から中国および四国地方にかけて震度5強～1を観測した。

また、この地震により、9時43分に石川県に「津波注意」の津波注意報が発表されており、25日11時10分現在、石川県の沿岸で津波が観測された。これまでに観測された津波の最大波は、珠洲市長橋で11時01分、金沢で11時00分に観測された0.2m。

気象庁によると、石川県で震度5弱以上の地震を観測したのは、2000年6月7日の石川県西方沖の地震（M6.2）で震度5弱を観測して以来であり、また、この付近の地震で津波予報を発表したのは、1993年2月7日に発生した能登半島沖の地震（M6.6）以来で、このときは輪島港で24cmの津波を観測している。



（震度分布図は気象庁資料より）

### ●本調査で対象とした震度5弱以上を観測した地域（石川県・富山県のみ）

震度 6 強：	石川県	能登七尾市	輪島市	穴水町			
震度 6 弱：	石川県	志賀町	中能登町	能登町			
震度 5 強：	石川県	珠洲市					
震度 5 弱：	富山県	富山市	滑川市	舟橋村	氷見市	小矢部市	射水市
	石川県	加賀羽咋市	宝達志水町	かほく市			

## Ⅱ 調査結果のまとめ

## II. 調査結果のまとめ

東洋大学社会学部教授 中村 功

### 1 継続的調査からみえてくるもの

サーベイリサーチセンターでは 2003 年の宮城県沖以来、5 回ウェブによる被災住民調査を行ってきた。インターネット調査の限界はあるものの、同じ方式でほぼ同じ質問を繰り返し聞いてきたことには、少なからぬ意義があるといえるだろう。

表 1 は阪神大震災以来の地震概要と調査の結果を表したものである。それによると、たとえば家具の固定率が 2003 年の宮城県北部地震に比べて 2005 年宮城県沖地震の際には伸びていることや、それに比べると福岡県西方沖や今回の能登半島地震では、その数字がかなり少ないことがみてとれる。それにより各地の防災意識の差がはっきりわかるのである。

表 1 阪神大震災以来の地震概要と web 調査結果 (網掛けはサーベイリサーチセンター調査より)

地震	最大震度	死者 (うち災害死)	負傷者 (うち重症者)	住家 全壊	大地震の 可能性有	携帯 通じず	家具 固定率	最も 困った事
2000 年鳥取県西部	6 強	0	182	435				
2001 年芸予 (参考 1)	6 弱	2 (2)	288	70		66.3	8.6	電話不通
2003 年宮城県沖	6 弱	0	174 (25)	2		73.5		電話不通
2003 年宮城県北部	6 強	0	677 (51)	1,276		16.7	21.5	何もなし
2004 年中越 (参考 2)	7	67 (31)	4,805 (636)	3,175		62.2	6.2	停電
2005 年宮城県沖	6 弱	0	100 (12)	1		54.0	39.1	携帯不通
2005 年福岡西方沖	6 弱	1 (1)	1,087 (76)	133	12.6	57.4	6.6	携帯不通
2007 年能登半島	6 強	1 (1)	327 (29)	553	18.9	48.0	11.5	携帯不通

地震概要は内閣府資料 (2007 年 5 月時点) より  
(参考 1) 東京大学調査 (参考 2) 内閣府川口町一般住民調査

### 2 未警戒地域における典型的な震度 6 の地震

阪神大震災以来、震度 6 強を記録した地震は今回で 3 回目である。地震の被害状況からみると、今回の地震は実に平均的な震度 6 強の地震であったといえる。すなわち、2000 年の鳥取県西部地震では 435 戸の住宅が全壊し、死者は 0 で、182 名の負傷者が出た。一方今回の能登半島地震では 553 戸が全壊し、死者が 1 名、負傷者が 327 名であった。震度 6 強の地震のわりには被害が少なかったのではないかと考えるむきもあるようだが、このように比較すると両者の被害は大変似ており、今回の被害が特段に少なかったとはいえない。一方 2003 年の宮城県北部地震では震度 6 の地震が 3 回連続して発生したために、



## II. 調査結果のまとめ

死者はいなかったものの、全壊家屋やけが人の数が多くなっている。

また未警戒区域で起きたという点も、これまでの地震と共通点がある。文部科学省の地震調査研究推進本部が作成している「全国を概観した地震動予測値図」（2006年版）によると、能登半島輪島付近では、「今後30年以内に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率」が0.1%未満と、全国でも最も低いカテゴリーに区分されている。周辺の地域では1729年と1993年にマグニチュード6.6程度の地震が発生しているが、1600年以降マグニチュード7以上の地震は記録されていない。科学的なレベルでも、能登半島はあまり警戒されていなかった地域といえるだろう。

住民の意識を聞いても同様のことがいえる。今回の調査で「この地域に大きな地震が起きると思っていたか」とたずねたところ、「思っていた」が3.6%、「ある程度思っていた」が15.3%、両者あわせても合計18.9%であった。逆に言えば8割以上の人は地震が起こるとは考えていなかったのである。同様の傾向は福岡県西方沖地震の際にもみられた。すなわち福岡県調査でも「ある程度思っていた」以上の人が12.6%と、地震を予想しなかった人が多かったのである。

その延長として、今回の調査でも地震対策の遅れがみられた。たとえば地震前から家具の固定をしていた人は11.5%と少なかった。福岡県調査では6.6%であったから、福岡よりは高いが、宮城県北部地震時の39.1%に比べると低いといえる。

一方、地震当日困ったことを聞いたところ、ここでも他の震度6の地震と同様の傾向がみられた。すなわち最も多くの人困ったこととしてあげたのが携帯電話の不通(58.7%)といった通信困難であった。中越地震など震度7クラスとなると、停電が多くなるのとは対照的である。また通信の疎通度についても他の地震と同様の傾向が見られた。すなわち携帯電話では利用した人の約半数(48.0%)がまったく使えなかったとしている。この数字自体は福岡県西方沖のときより若干低い、携帯メールではこの数字が23.7%と低くなっている。災害時には携帯電話音声は大変つながりにくくなるが、携帯メールはそれよりつながりやすいのである。

### 3 緊急地震速報について

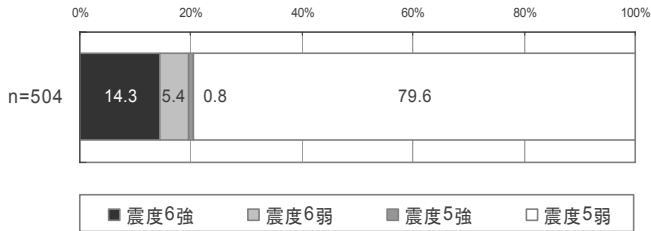
今年9月から緊急地震速報が一般の人々にも伝達されることになっているが、今回の地震ではその点についても聞いている。まず緊急地震速報の認知度だが、知っているとしたのは29.2%、名前だけは知っているとした人が31.3%であった。4割の人はまだ知らなかったが、運用が開始される前の防災情報としては、よく知られているといえ、人々の関心が高いことがうかがえる。

一方、大地震が来るといふ情報で何ができたと思うか、をたずねた。最も多いのは「火を消す」(56.7%)と「落ちたり、倒れてくるものから離れる」(55.0%)、ついで「お年寄りや子供をかばう」(43.1%)であった。また、学校などでよく教えられる「机にもぐる」は25.8%であった。この数字を見ると、緊急地震速報時に行動指示を出すとしたら、「机にもぐる」より「落ちたり、倒れてくるものから離れる」という指示のほうがよいかもしれない。

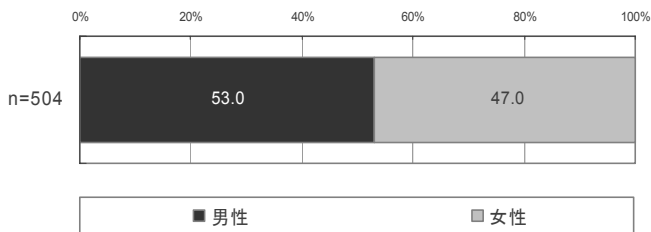
### Ⅲ 回答者の属性

# Ⅲ. 回答者の属性

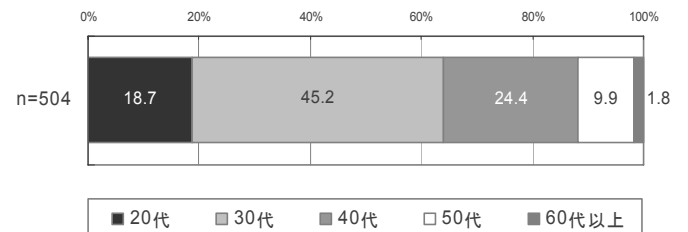
(経験した震度) 回答者居住市町村の気象庁発表震度で区分



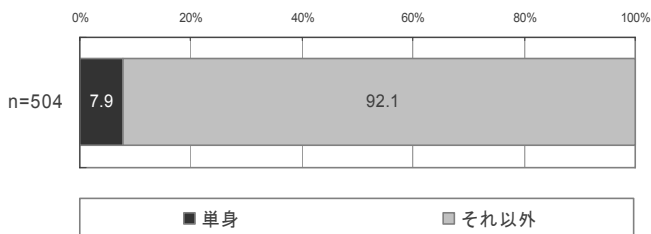
(性別)



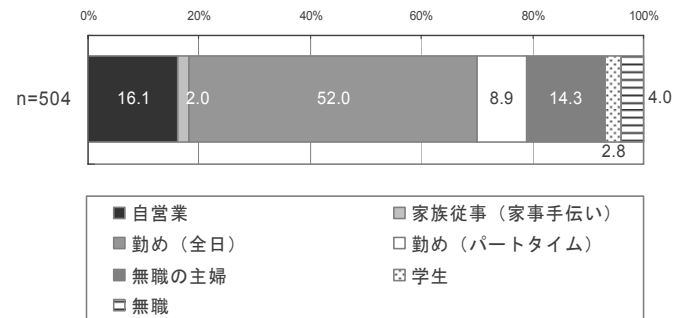
(年齢)



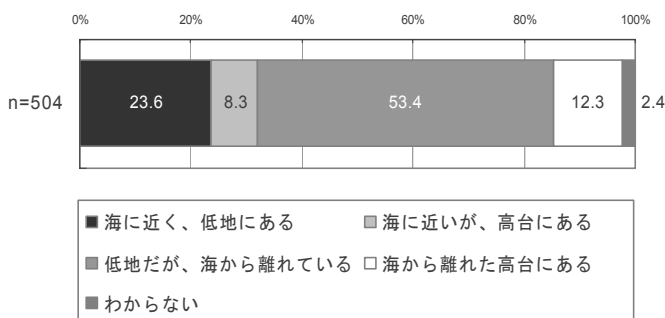
(家族形態)



(職業)



(居住地特性)



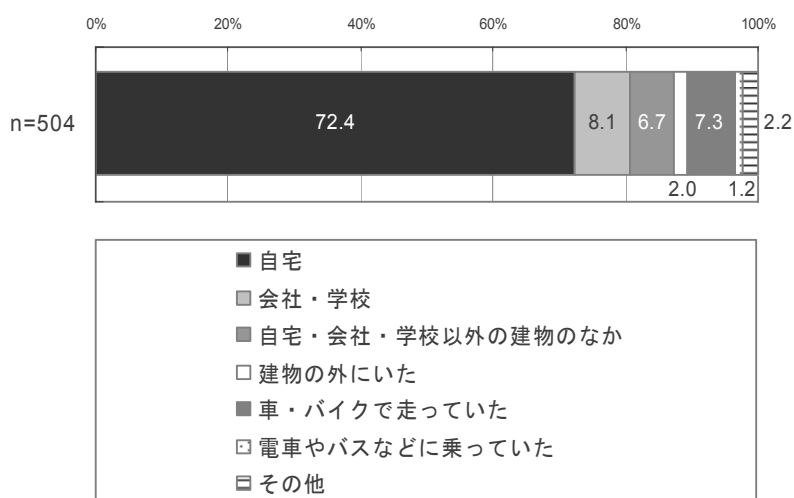
## IV 調查結果

## IV. 調査結果

### 1 地震発生時にいた場所

屋内が 9 割弱、「自宅」はそのうち 7 割強

地震発生時、あなたはどこにいましたか。

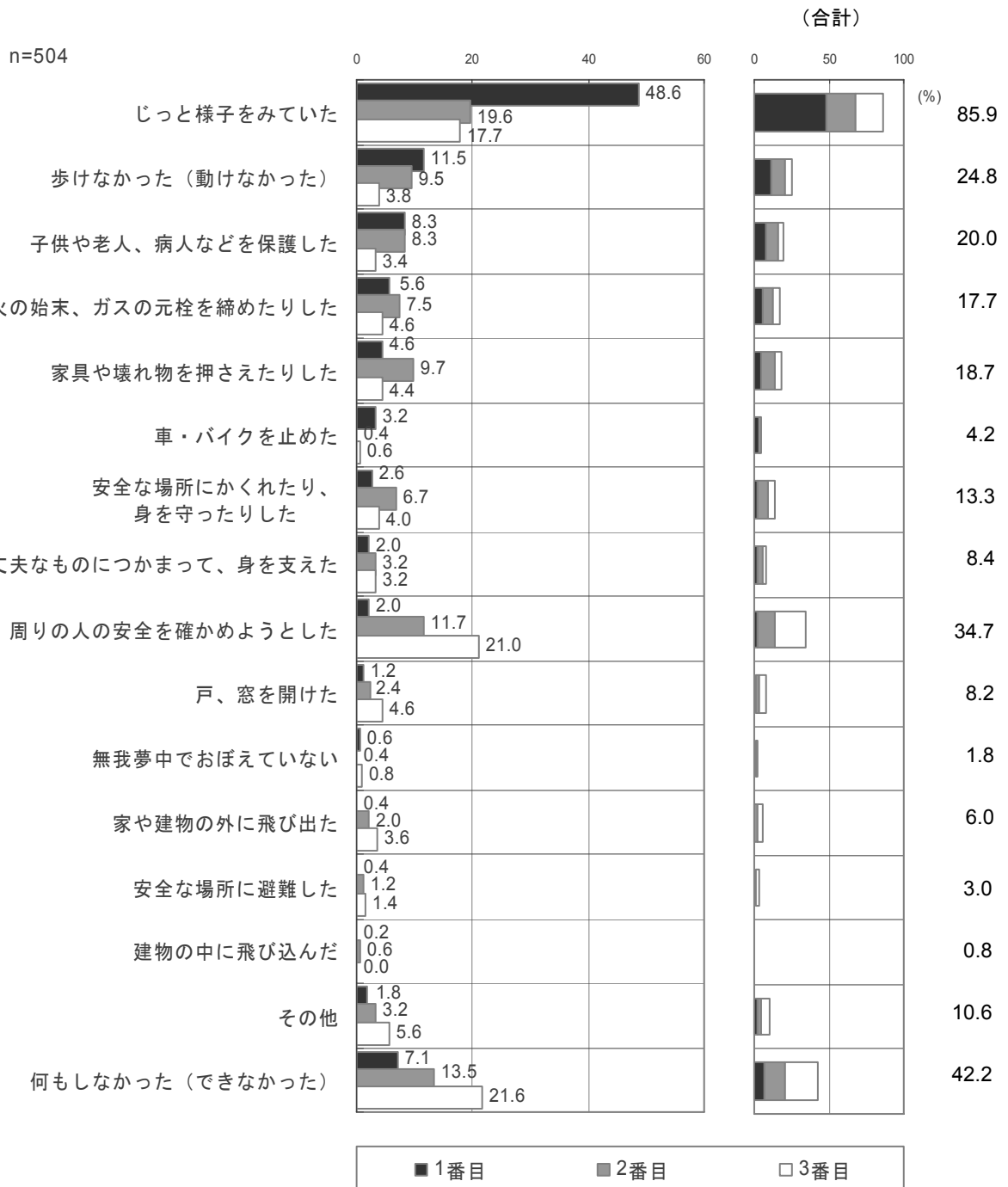


地震発生時にいた場所は、今回の地震が日曜日の午前中に発生したこともあり、「自宅」が 72.4%と最も高く 7 割強を占めた。また、「会社・学校」(8.1%)、「自宅・会社・学校以外の建物のなか」(6.7%)を合わせると、9 割弱が屋内にいたことになる。

## 2 揺れている間の行動

### 最初の行動「じっと様子を見ていた」が5割弱

地震が起こってから揺れがおさまるまでの間、とっさにどんなことができましたか。(最初にしたものから順に3つまで)



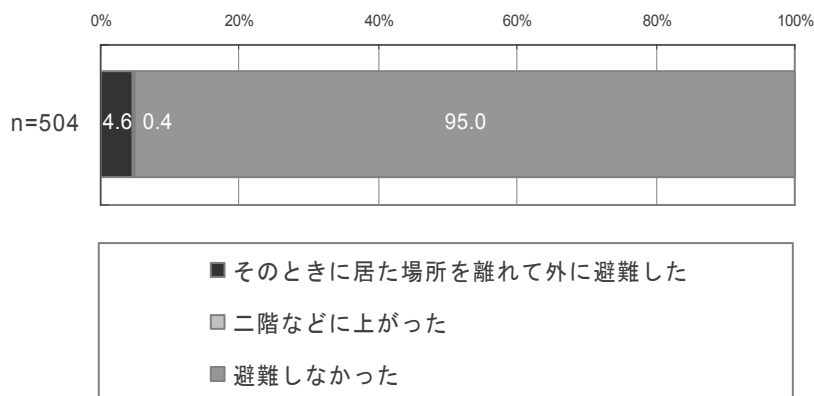
揺れがおさまるまでの間に出来た最初の行動としては、「じっと様子をみていた」が**48.6%**と最も高く半数ほどを占め、次いで「歩けなかった(動けなかった)」(**11.5%**)、「子供や老人、病人などを保護した」(**8.3%**)などであった。

次に出来た行動としても「じっと様子をみていた」が**19.6%**と最も高いが、「周りの人の安全を確かめようとした」が**11.7%**と次いで高くなっており、**3**番目に出来た行動としては**21.0%**と最も高くなった。

## 3 避難の有無

「そのときに居た場所を離れて外に避難した」が4.6%

今回の地震後、あなたは津波を警戒して、避難しましたか。



[ 震度別集計 ] (回答者居住市町村の気象庁発表震度で区分)

	調査数	たを 離れ て外 に居 た 避 難 し 所	二 階 な ど に 上 が っ た	避 難 し な か っ た
全体	504	4.6	0.4	95.0
震度6強	72	13.9	-	86.1
震度6弱	27	7.4	-	92.6
震度5強	4	25.0	-	75.0
震度5弱	401	2.5	0.5	97.0

※ 「震度5強」については、調査数（基数）が小さいため参考にとどめる。

津波を警戒して避難したかどうかを尋ねたところ、「そのときに居た場所を離れて外に避難した」は4.6%であった。「二階などに上がった」は0.4%、「避難しなかった」は95.0%であった。

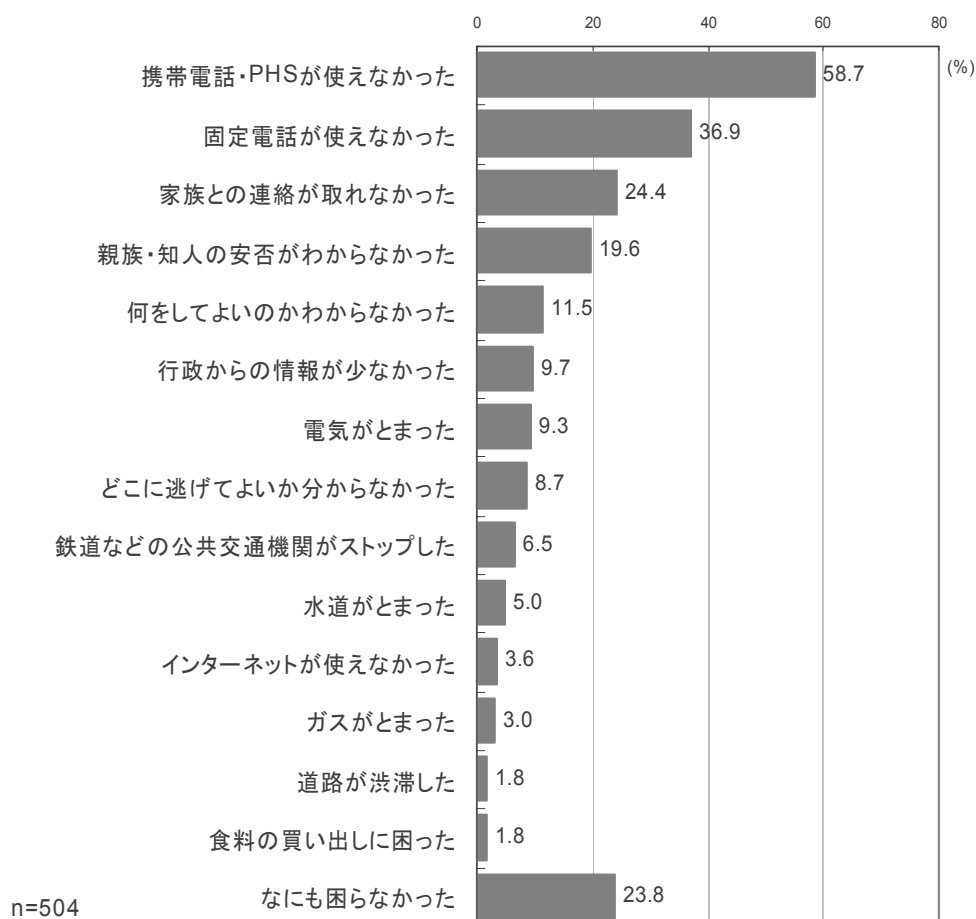
震度別にみると、「そのときに居た場所を離れて外に避難した」は震度6強の市町村で13.9%と1割強となった。



## 4 地震当日、困ったこと

「携帯電話・PHSが使えなかった」「固定電話が使えなかった」が上位

地震当日、あなたにとって困ったことは何ですか。(いくつでもチェック)



[ 震度別集計 ] (回答者居住市町村の気象庁発表震度で区分)

	調査数	どこに逃げてよいか	行政からの情報が少なかった	鉄道などの公共交通機関がストップした	道路が渋滞した	電気がとまった	ガスがとまった	水道がとまった	固定電話が使えなかった	携帯電話・PHSが使えなかった	インターネットが使えなかった	食料の買い出しに困った	何をしようかわからなかった	家族との連絡が取れなかった	親族・知人の安否がわからなかった	なにも困らなかった
全体	504	8.7	9.7	6.5	1.8	9.3	3.0	5.0	36.9	58.7	3.6	1.8	11.5	24.4	19.6	23.8
震度6強	72	18.1	16.7	6.9	6.9	25.0	8.3	29.2	54.2	77.8	4.2	9.7	18.1	41.7	38.9	5.6
震度6弱	27	7.4	3.7	7.4	7.4	22.2	-	11.1	48.1	74.1	11.1	-	-	44.4	29.6	7.4
震度5強	4	25.0	50.0	-	-	75.0	-	-	100.0	100.0	50.0	-	-	-	25.0	-
震度5弱	401	7.0	8.5	6.5	0.5	5.0	2.2	0.2	32.4	53.9	2.5	0.5	11.2	20.2	15.5	28.4

※ 「震度5強」については、調査数(基数)が小さいため参考にとどめる。

#### IV. 調査結果

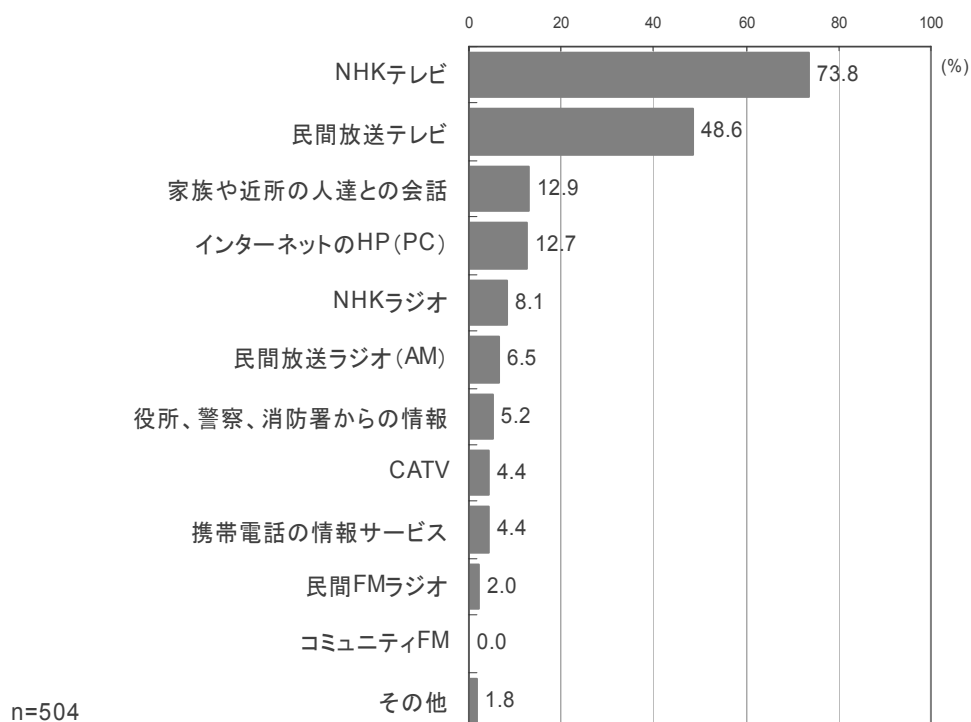
地震当日困ったこととしては、「携帯電話・PHS が使えなくなった」が 58.7%と最も高く 6 割弱を占め、次いで「固定電話が使えなくなった」(36.9%)、「家族との連絡が取れなかった」(24.4%)、「親族・知人の安否がわからなかった」(19.6%)の順であり、通信手段が使えなかったことが上位であった。

震度別にみると、震度 6 強と震度 6 弱の市町村では上位の項目は全体の結果と同じであるが、例えば震度 6 強で「携帯電話・PHS が使えなくなった」が 77.8%、「固定電話が使えなくなった」が 54.2%というように、全体の割合よりも 10~20 ポイント程度高くなった。なお、「なにも困らなかった」は震度 6 強ではわずか 5.6%、震度 6 弱でも 7.4%であった。

## 5 地震直後の情報入手

「NHK テレビ」が7割強、「民間放送テレビ」は5割弱

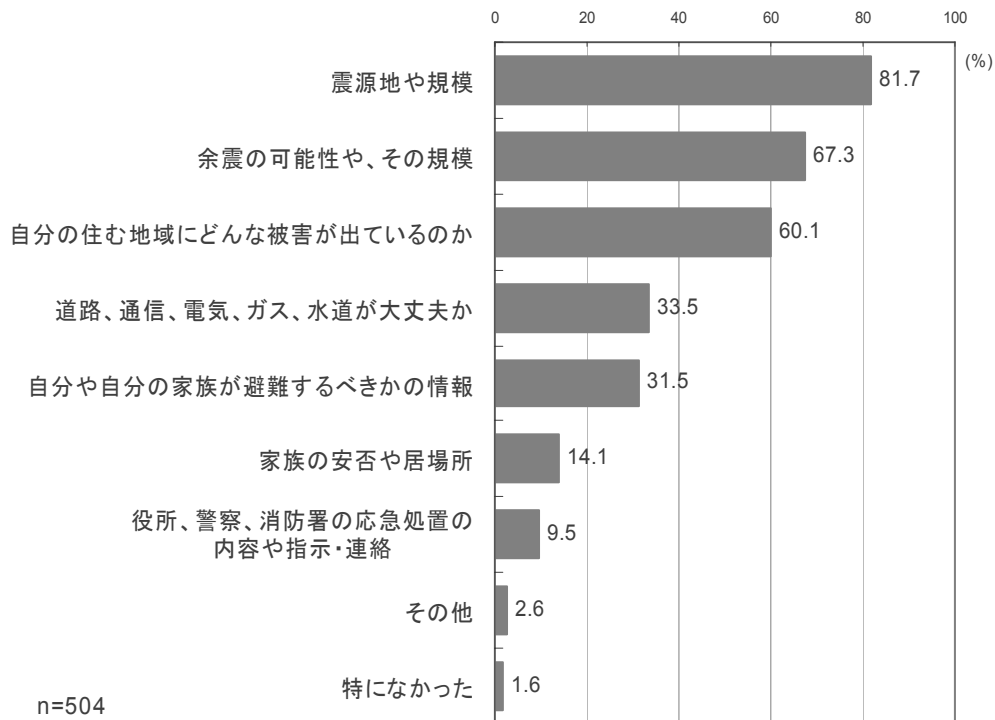
地震の後、災害の情報をどこから入手しましたか。(いくつでもチェック)



地震後の情報入手については、「NHK テレビ」が73.8%と最も高く7割強、次いで「民間放送テレビ」が48.6%と5割弱を占め、テレビが上位であった。

「震源地や規模」が 8 割強

地震直後、あなたはどのようなことを知りたかったですか。(いくつでもチェック)



[ 震度別集計 ] (回答者居住市町村の気象庁発表震度で区分)

	調査数	震源地や規模	余震の可能性や、その規模	避難するべきか家族の情報	自分の住む地域にどんな被害が出ているのか	家族の安否や居場所	役所、警察、消防署の応急処置の内容や指示・連絡	道路、通信、電気、ガス、水道が大丈夫か	その他	特になかった
全体	504	81.7	67.3	31.5	60.1	14.1	9.5	33.5	2.6	1.6
震度6強	72	75.0	76.4	27.8	79.2	16.7	16.7	55.6	1.4	-
震度6弱	27	88.9	59.3	29.6	66.7	18.5	18.5	51.9	11.1	-
震度5強	4	100.0	100.0	-	75.0	-	-	50.0	-	-
震度5弱	401	82.3	65.8	32.7	56.1	13.5	7.7	28.2	2.2	2.0

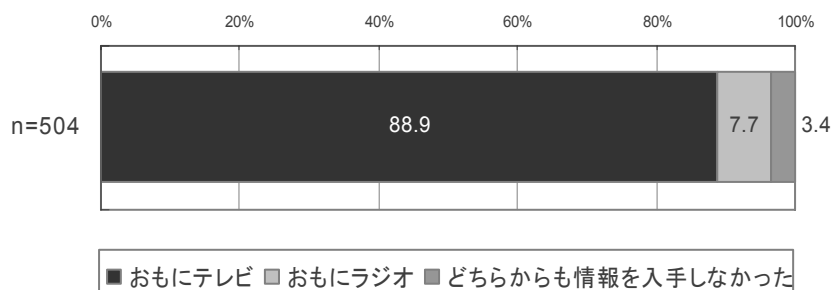
※ 「震度5強」については、調査数(数)がさいため参考にとどめる。

地震直後に知りたかった情報としては、「震源地や規模」が 81.7%と最も高く 8 割強を占め、次いで「余震の可能性や、その規模」(67.3%)、「自分の住む地域にどんな被害が出ているのか」(60.1%) などであった。

震度別にみると、震度 6 強の市町村では「自分の住む地域にどんな被害が出ているのか」が 79.2%と最も高く、次いで「余震の可能性や、その規模」が 76.4%、「震源地や規模」は 75.0%であった。

## 「おもにテレビ」が9割弱

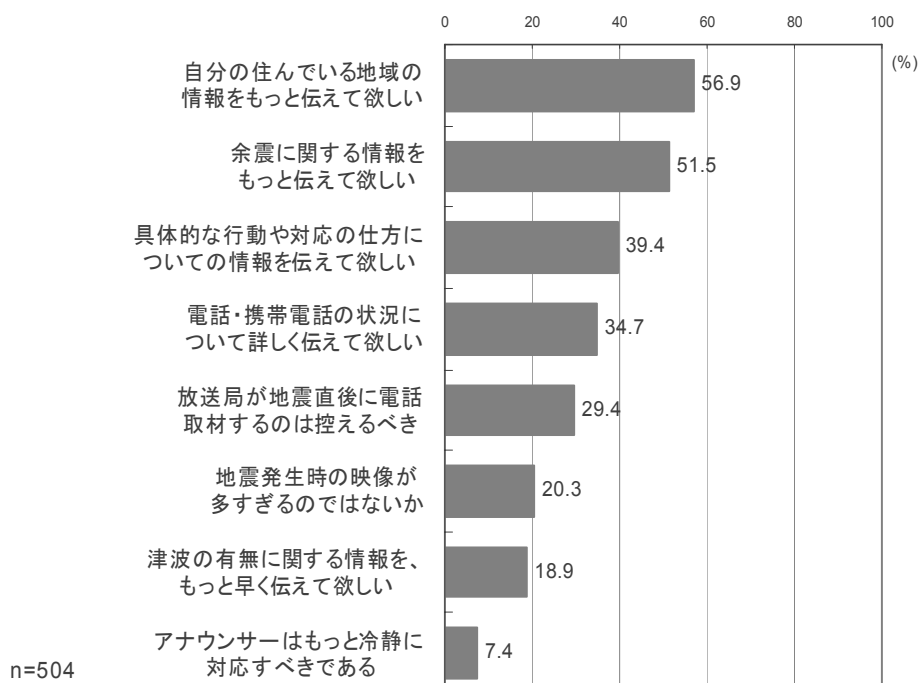
地震の直後、地震に関する情報源はおもにテレビでしたか、それともラジオでしたか。



地震直後の情報源については、「おもにテレビ」が88.9%と9割弱を占めた。

## 「自分の住んでいる地域の情報」が5割台半ば、「余震に関する情報」が過半数

テレビ・ラジオからの情報を、どのように感じましたか。(いくつでもチェック)

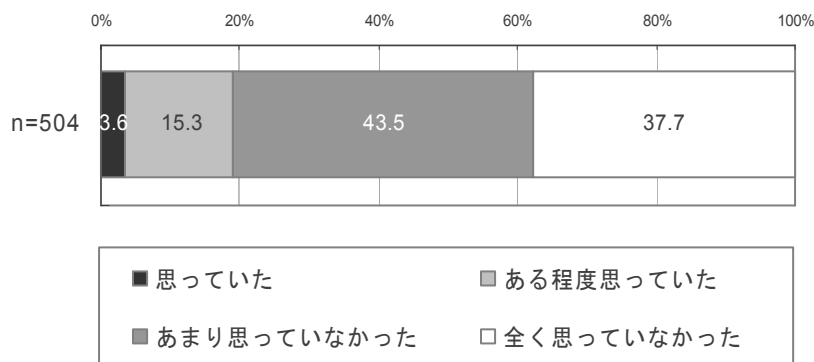


テレビ・ラジオからの情報について、「自分の住んでいる地域の情報をもっと伝えて欲しい」が56.9%と最も高く5割台半ばを占め、次いで「余震に関する情報をもっと伝えて欲しい」(51.5%)が半数を超えた。

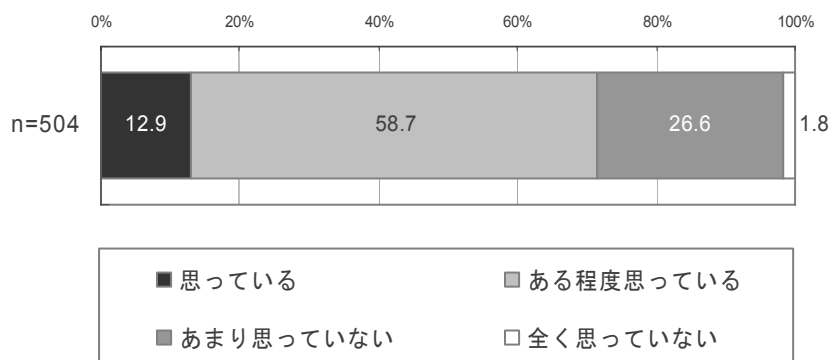
## 6 地震や津波に対する意識

## 大地震発生は8割強が想定外、将来の大地震発生は7割強

あなたは、これまで、この地域で今回の「能登半島地震」のような大きな地震が起こると思っていましたか。



あなたは、将来、この地域で今回の「能登半島地震」のような大きな地震が起こると思いますか。

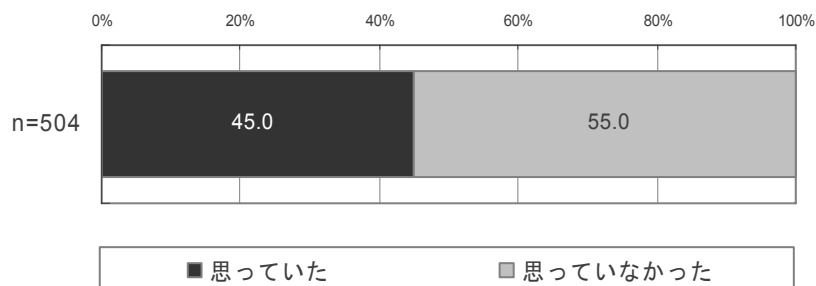


今回のような大地震が居住する地域で発生する可能性について、「あまり思っていなかった」が43.5%と最も高く4割強を占め、次いで「全く思っていなかった」が37.7%となっており、これらを合わせると8割強が発生するとは思っていなかった。

一方、将来大地震が発生する可能性については、(発生すると)「ある程度思っている」が58.7%と最も高く6割弱を占めた。「思っている」(12.9%)を合わせると7割強である。

## 津波に警戒「思っていなかった」が5割台半ば

あなたは地震の時には、津波に警戒しなくてはならないと思っていましたか。

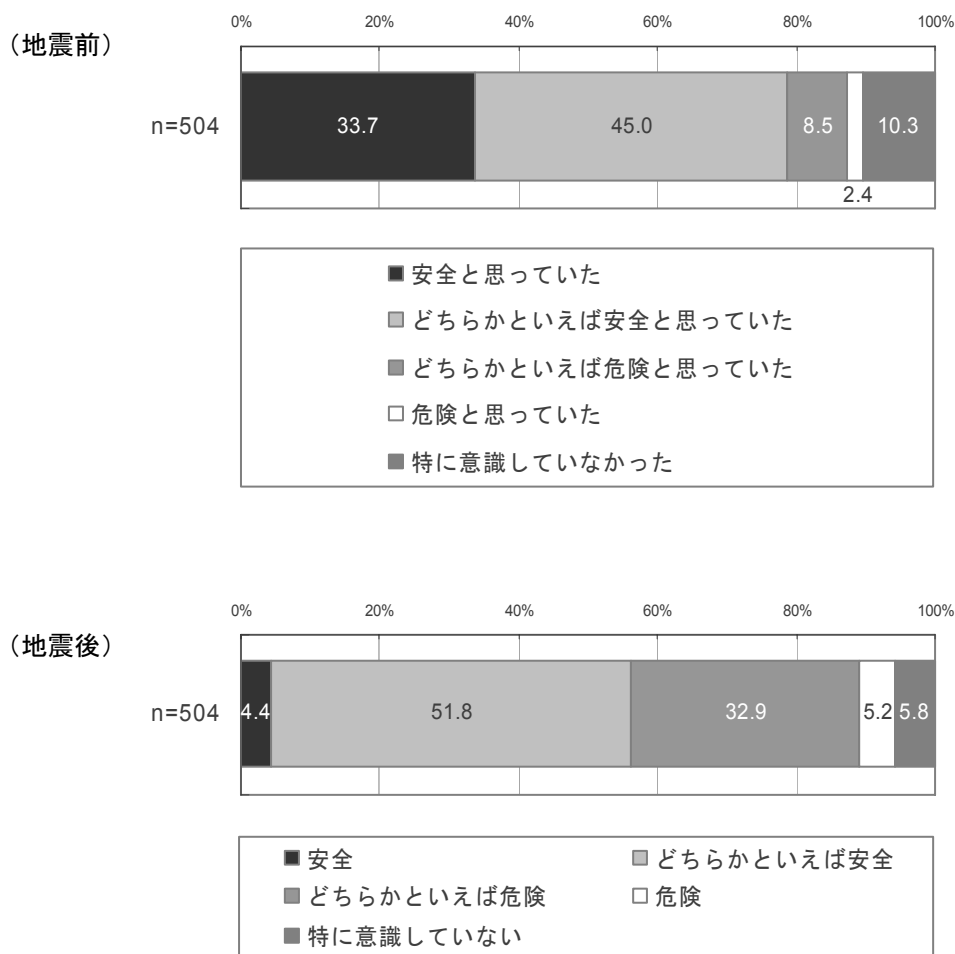


地震が発生した際の津波に対する警戒については、「思っていた」が45.0%、「思っていなかった」は55.0%であった。

## 7 地域の安全性

居住地域が「安全」、地震前 3 割強、地震後はわずか 4.4%

あなたの住んでいる地域は、地震に対して安全だと感じていますか。それとも危険だと感じていますか。(地震前と地震後、それぞれひとつずつチェック)



居住する地域の安全性について、どう思っているかを地震前後で尋ねた。

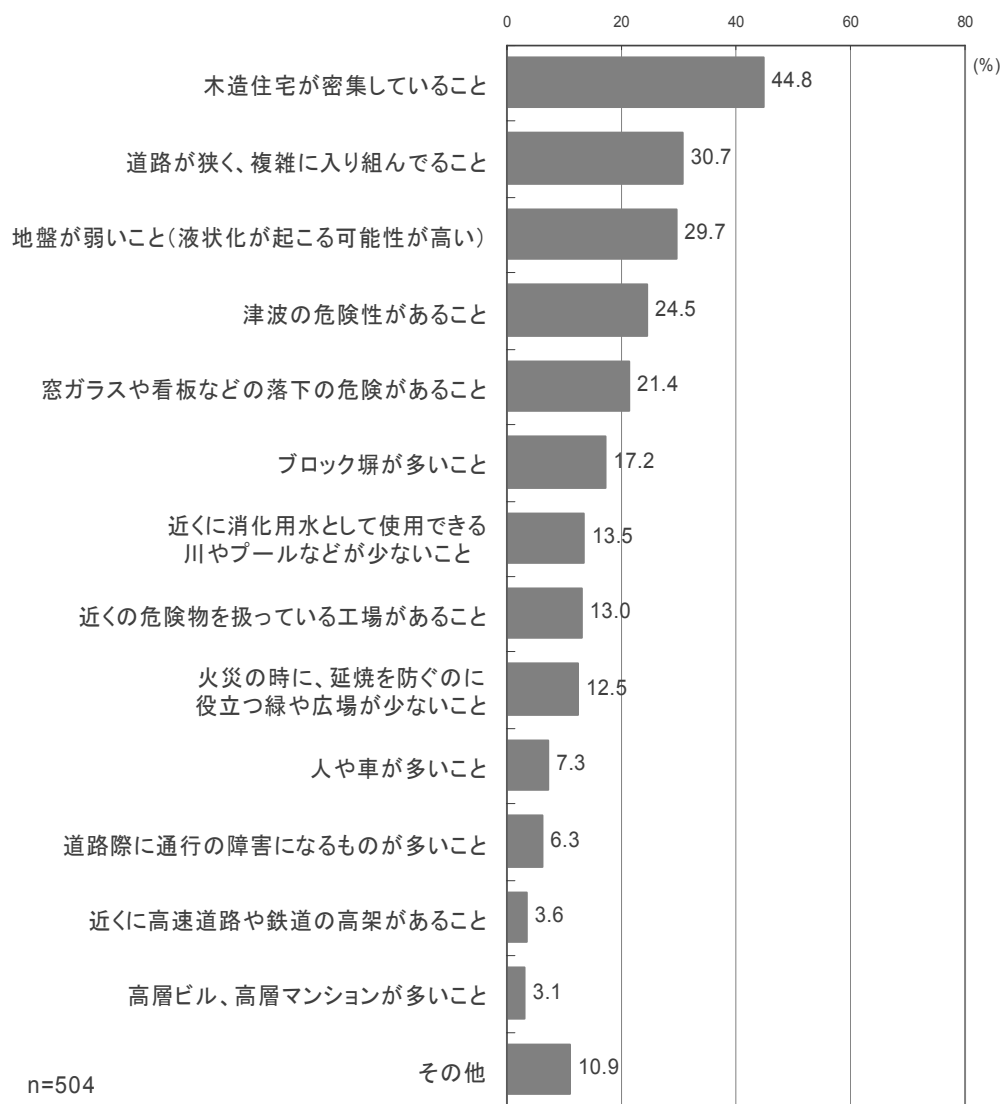
地震前は、「どちらかといえば安全と思っていた」が 45.0%と最も高く、次いで「安全と思っていた」が 33.7%となっており、合計すると 8 割弱は危険を感じていなかった。また、「特に意識していなかった」が 10.3%と 1 割を超えていた。

一方、地震後は、「どちらかといえば安全」が 51.8%と最も高く過半数を占めるものの、「安全」はわずか 4.4%となり（地震前と比べて 29 ポイント減）、「どちらかといえば危険」（32.9%）、「危険」（5.2%）を合わせると 4 割弱が危険を感じると回答した。



## 「木造住宅の密集」が4割台半ば

この地域はどのような点が危険だと思いますか。(3つまでチェック)

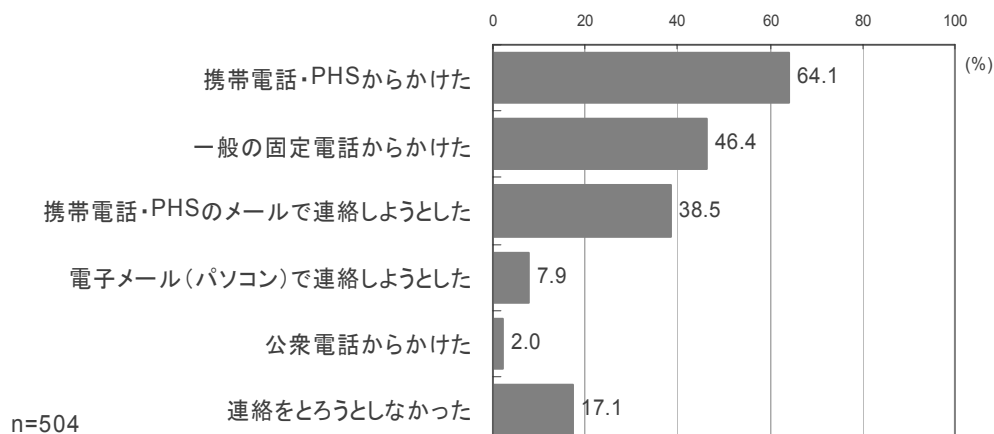


居住する地域の危険な点としては、「木造住宅が密集していること」が44.8%と最も高く、次いで「道路が狭く、複雑に入り組んでいること」(30.7%)、「地盤が弱いこと(液状化が起こる可能性が高い)」(29.7%)などであった。「津波の危険性があること」は24.5%であった。

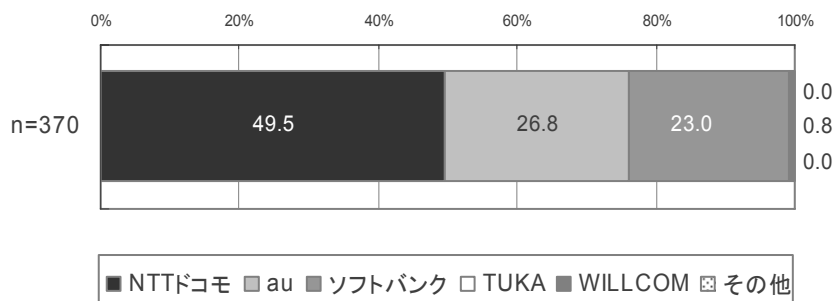
## 8 通信手段とその状況

## 連絡の手段、「携帯電話・PHS」が6割台半ば

地震当日、あなたは誰かに連絡を取ろうとしましたか。(いくつでもチェック)



(携帯電話・PHSのキャリア)

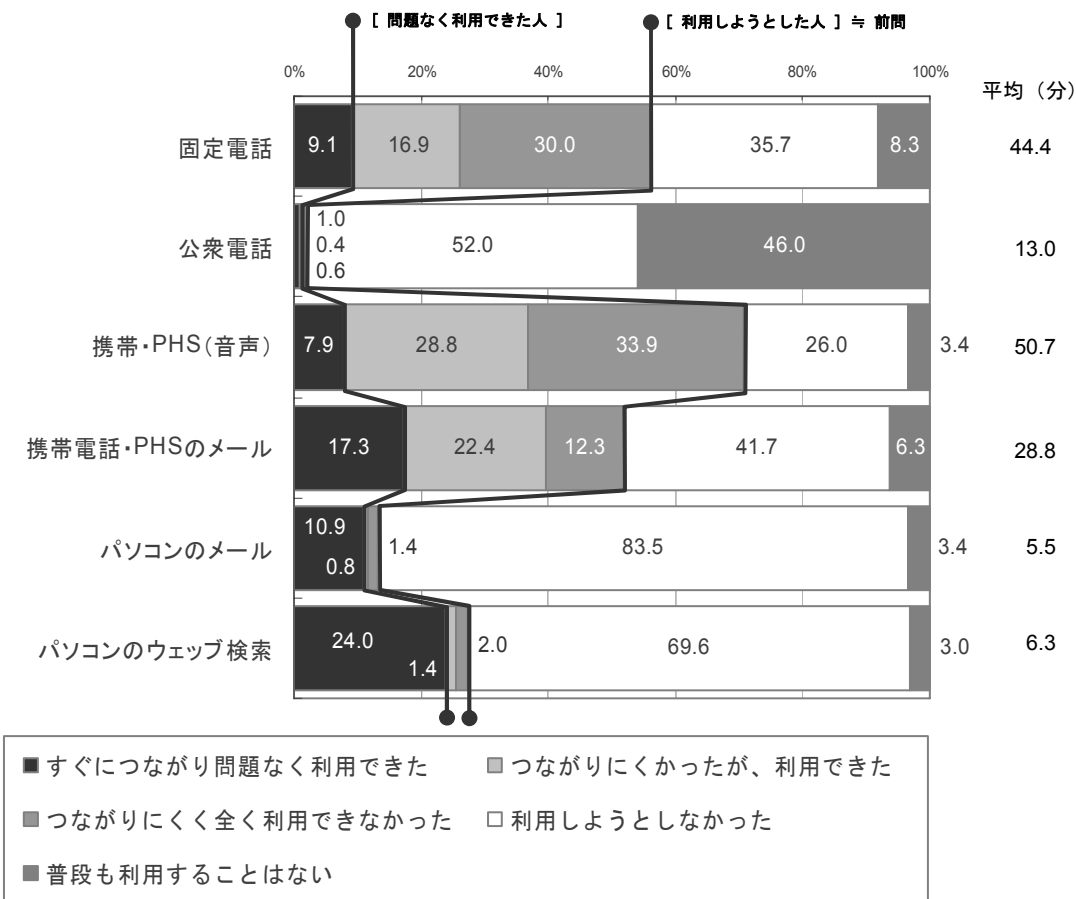


地震当日連絡を取ろうとした通信手段としては、「携帯電話・PHS からかけた」が 64.1%と最も高く 6割台半ばを占め、次いで「一般の固定電話からかけた」(46.4%)、「携帯電話・PHS のメールで連絡しようとした」(38.5%) の順であった。

なお、「携帯電話・PHS からかけた」「携帯電話・PHS のメールで連絡しようとした」と回答した人に対して、そのキャリアを尋ねたところ、「NTT ドコモ」が 49.5%と最も高く 5割弱を占め、「au」(26.8%)、「ソフトバンク」(23.0%) の順であった。

「すぐつながる」、携帯電話・PHS（音声）で7.9%、携帯電話・PHSのメールで17.3%

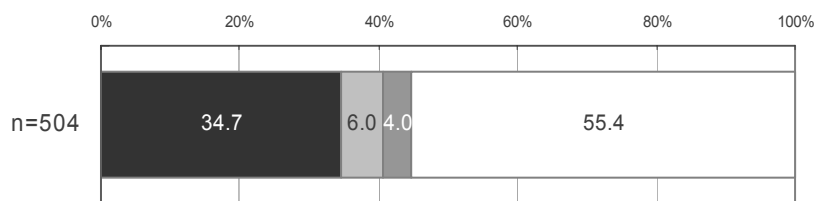
地震直後（2～3時間以内）にあなたが利用しようとした通信手段はどのくらいつながりましたか（それぞれひとつずつ）。また、それぞれの通信手段を利用し始めてから、つながった時間を分単位で具体的にお答えください。



地震直後の通信手段のつながり具合について、通信手段ごとに尋ねたところ、「すぐにつながり問題なく利用できた」は携帯電話・PHSのメールで17.3%と最も高く、次いでパソコンのメールで10.9%、固定電話で9.1%などとなった。利用しようとした人（「すぐにつながり問題なく利用できた」「つながりにくかったが、利用できた」「つながりにくく全く利用できなかった」の合計）との関係で考えると、携帯電話・PHS（音声）でのつながりにくさがわかる。利用しようとした人7割強に対して、「すぐにつながり問題なく利用できた」はわずか7.9%である。一方、パソコンのメールとウェブ検索では、利用しようとした人と「すぐにつながり問題なく利用できた」人の乖離が小さく、地震直後も機能していたようである。

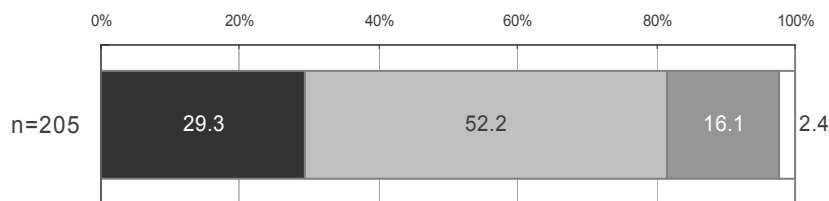
「地震に関するインターネット情報を入手した」が3割台半ば

インターネット（携帯電話・PHS含む）から地震に関する情報を入手しましたか。



- 地震に関するインターネット情報を入手できた
- インターネットにアクセスしたが、欲しい情報を得られなかった
- インターネットにアクセスしようとしたが、つながらなかった
- インターネット情報を得ようとは思わなかった

その情報は役に立ちましたか。



- 非常に役に立った
- 多少役に立った
- あまり役に立たなかった
- 役に立たなかった

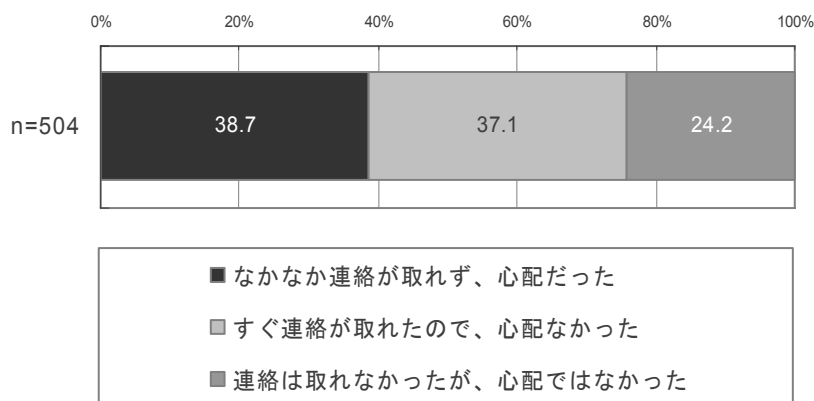
インターネットからの情報入手については、「地震に関するインターネット情報を入手できた」が34.7%と3割台半ばであった。なお、「インターネット情報を得ようとは思わなかった」が55.4%と5割台半ばを占めた。

また、「地震に関するインターネット情報を入手できた」と回答した人に対して、その有用性を尋ねたところ、「多少役に立った」が52.2%と最も高く過半数を占め、「非常に役に立った」(29.3%)を合わせると8割強が役に立ったとしている。

## 9 安否確認

## 「なかなか連絡とれず」が4割弱

地震当日、家族や知人と連絡が取れず、安否が心配でしたか。



[ 震度別集計 ] (回答者居住市町村の気象庁発表震度で区分)

	調査数	なかなか心配だった連絡が取れ	すぐ連絡が取れたので	連絡は取れなかったが心配ではなかった
全体	504	38.7	37.1	24.2
震度6強	72	62.5	23.6	13.9
震度6弱	27	55.6	33.3	11.1
震度5強	4	25.0	25.0	50.0
震度5弱	401	33.4	39.9	26.7

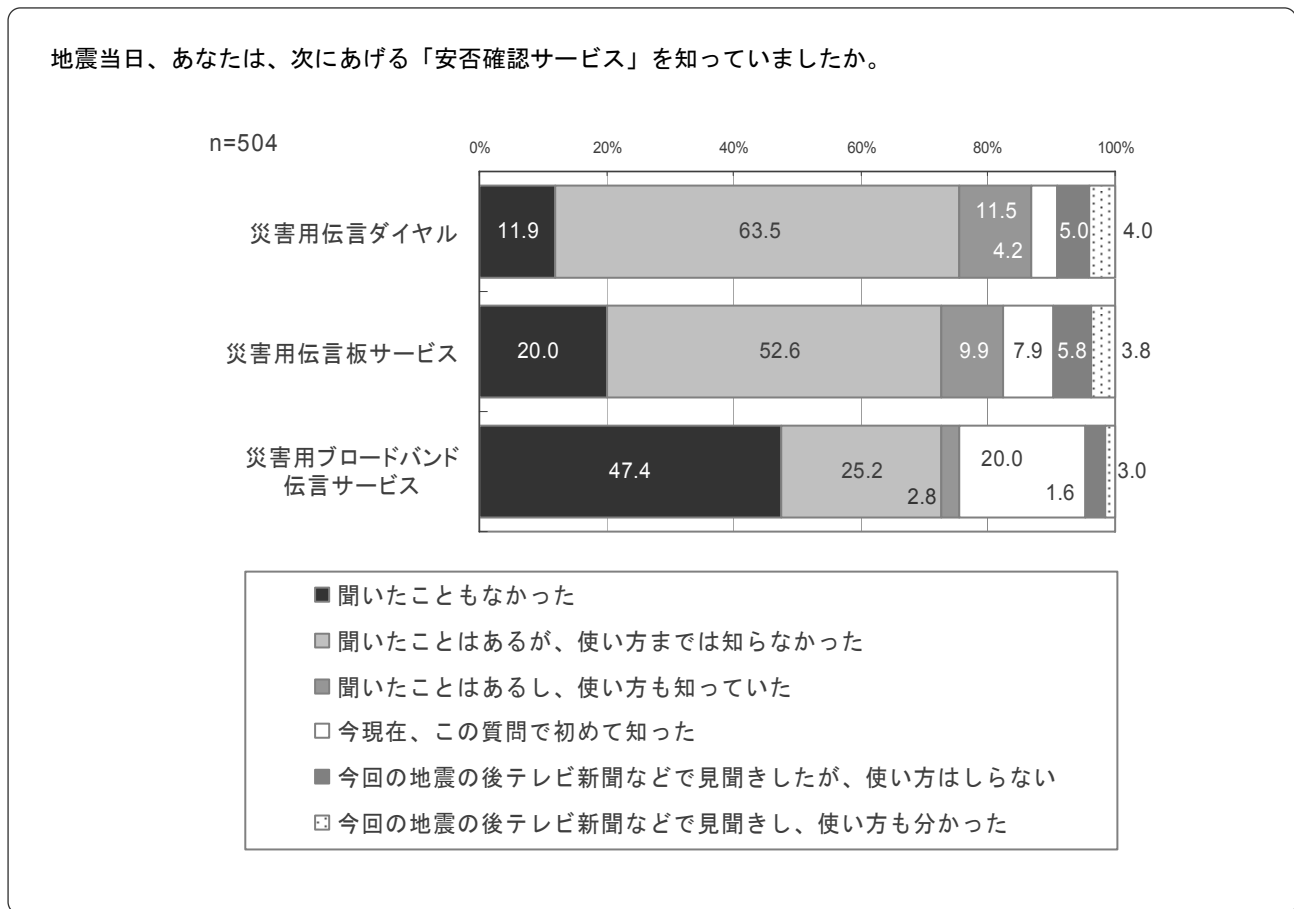
※ 「震度5強」については、調査数(基数)が小さいため参考にとどめる。

地震当日の家族などの安否についての心配については、「なかなか連絡が取れず、心配だった」が**38.7%**と最も高く4割弱であった。一方、「すぐ連絡がとれたので、心配なかった」は**37.1%**、「連絡は取れなかったが、心配ではなかった」が**24.2%**であった。

震度別にみると、震度6強の市町村では「なかなか連絡が取れず、心配だった」が**62.5%**と高く6割強、震度6弱でも**55.6%**と5割台半ばを占め、全体に比べて**17~24**ポイントも高くなった。

#### IV. 調査結果

### 災害用伝言ダイヤル（171）の地震前認知率は6割強、伝言板サービスで過半数



安否確認サービスの認知度について、災害用伝言ダイヤル（171）、災害用伝言板サービス（携帯電話）、災害用ブロードバンド伝言サービス（web171）ごとに尋ねた。

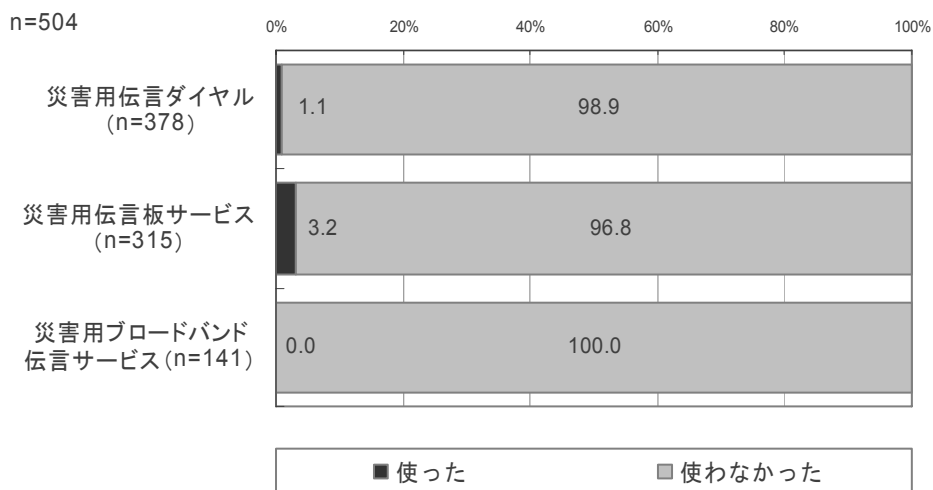
まず、災害用伝言ダイヤル（171）については、「聞いたことはあるが、使い方までは知らなかった」が63.5%と最も高く6割強を占めた。「聞いたことはあるし、使い方も知っていた」は11.5%と1割強であった。

災害用伝言板サービス（携帯電話）についても、「聞いたことはあるが、使い方までは知らなかった」が52.6%と最も高く過半数を占め、災害用伝言ダイヤル（171）と同様の傾向がみられる。

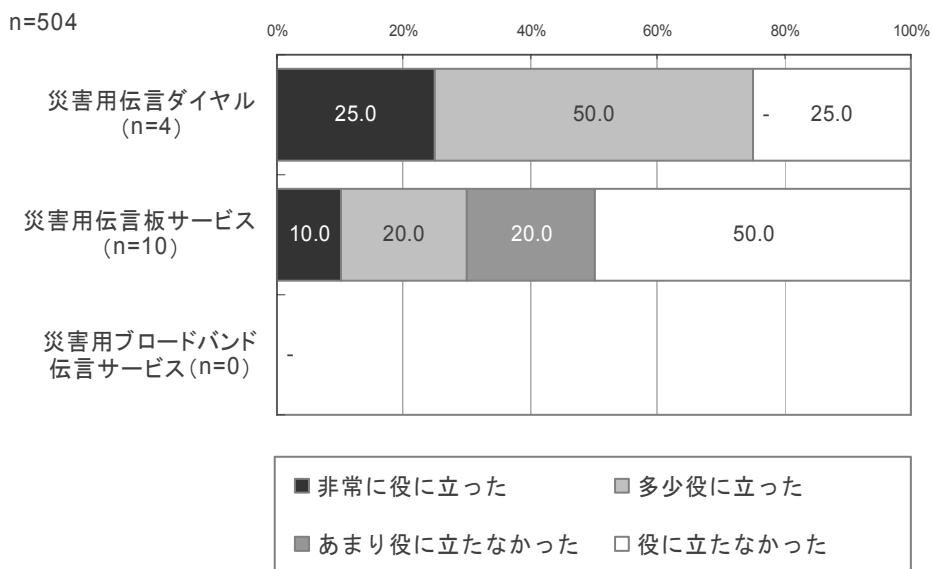
最後に災害用ブロードバンド伝言サービス（web171）についてであるが、「聞いたこともなかった」が47.4%と最も高く5割弱を占めた。「今現在、この質問で初めて知った」が20.0%と2割となった。

どの安否確認サービスでも「使わなかった」が大半

あなたは、今回の地震で「安否確認サービス」を使いましたか。



「安否確認サービス」は役に立ちましたか。

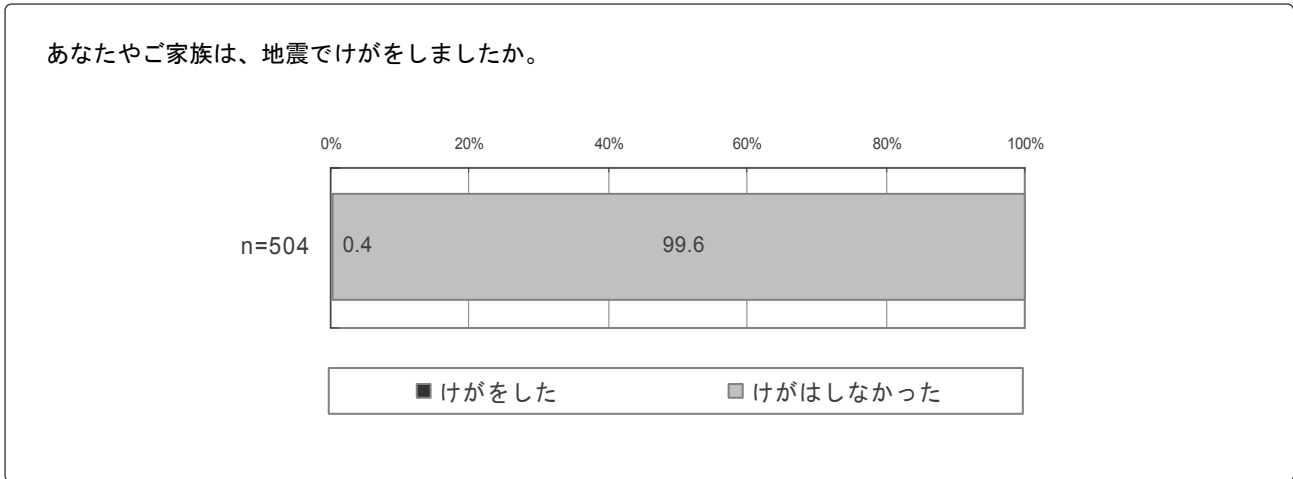


地震当日の時点で安否確認サービスを知っていた回答者に対して、その使用率を尋ねたところ、「使った」は災害用伝言ダイヤル（171）で 1.1%、災害用伝言板サービス（携帯電話）で 3.2%、災害用ブロードバンド伝言サービス（web171）で全くいなかった。

次に、安否確認サービスを使った回答者に対して、役に立ったか尋ねたところ、「非常に役に立った」は災害用伝言ダイヤル（171）で 25.0%、災害用伝言板サービス（携帯電話）では 10.0%であった。災害用伝言ダイヤル（171）では「多少役に立った」が 50.0%と最も高く、一方、災害用伝言板サービス（携帯電話）では「役に立たなかった」が 50.0%と最も高くなった。

## 10 被害状況

回答者の中で「けがをした」は0.4%

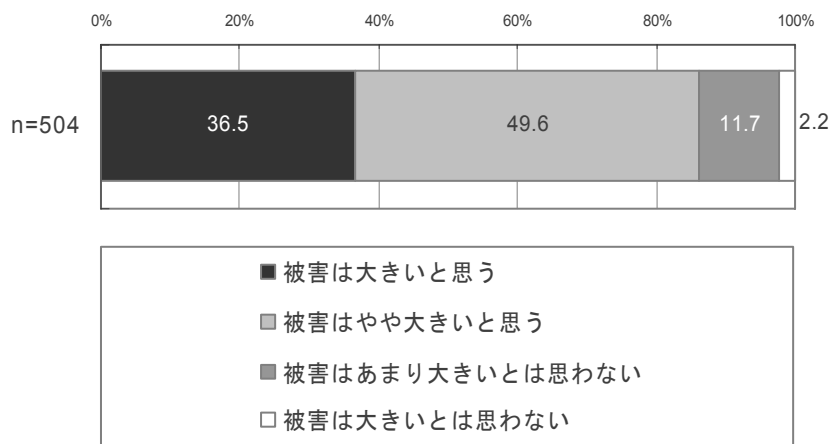


回答者自身や家族が今回の地震で怪我をしたかどうかを尋ねたところ、「けがをした」は0.4%であった。また、どのように怪我をしたかについては、「家具の転倒」とのことであった。



## 「被害は大きい」が3割台半ば、「やや大きい」が5割弱

今回の地震の被害についてどう思いますか。



[ 震度別集計 ] (回答者居住市町村の気象庁発表震度で区分)

	調査数	被害は大きいと思う	被害はやや大きいと思う	被害はあまり大きいとは思わない	被害は大きいとは思わない
全体	504	36.5	49.6	11.7	2.2
震度6強	72	55.6	41.7	2.8	-
震度6弱	27	29.6	51.9	18.5	-
震度5強	4	75.0	-	25.0	-
震度5弱	401	33.2	51.4	12.7	2.7

※ 「震度5強」については、調査数（基数）が小さいため参考にとどめる。

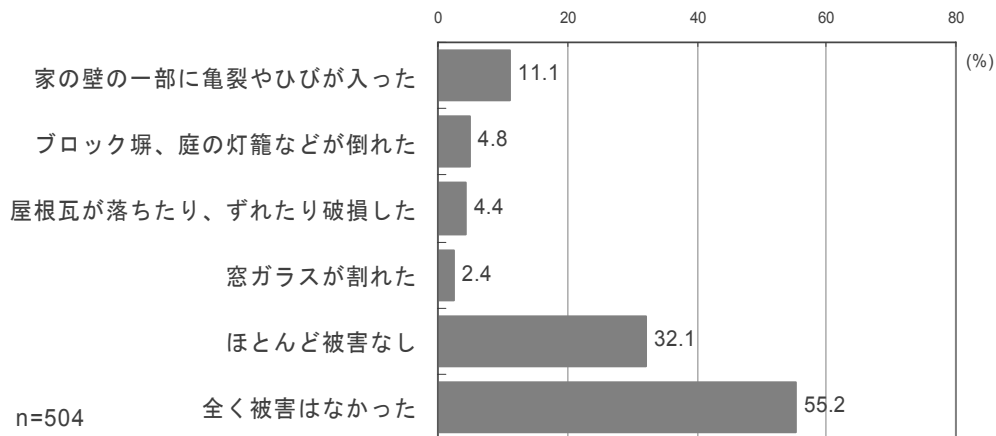
今回の地震については、「被害はやや大きいと思う」が49.6%と最も高く5割弱を占め、次いで「被害は大きいと思う」が36.5%であり、これらを合わせた8割台半ばは被害が大きいとの認識であった。

震度別にみると、震度6強の市町村では「被害は大きいと思う」が55.6%と最も高く5割台半ばを占め、次いで「被害はやや大きいと思う」が41.7%であった。

#### IV. 調査結果

### 「壁に亀裂やひび」が1割強

お宅では家屋（建物）に被害がありましたか。



[ 震度別集計 ] (回答者居住市町村の気象庁発表震度で区分)

	調査数	ずれた瓦が破損したり、	窓ガラスが割れた	家の壁の一部に亀裂やひびが入った	ブロック塀、庭の灯籠などが倒れた	ほとんど被害なし	全く被害はなかった
全体	504	4.4	2.4	11.1	4.8	32.1	55.2
震度6強	72	19.4	11.1	50.0	20.8	38.9	5.6
震度6弱	27	18.5	7.4	37.0	3.7	44.4	18.5
震度5強	4	-	-	25.0	-	50.0	25.0
震度5弱	401	0.7	0.5	2.2	2.0	29.9	66.8

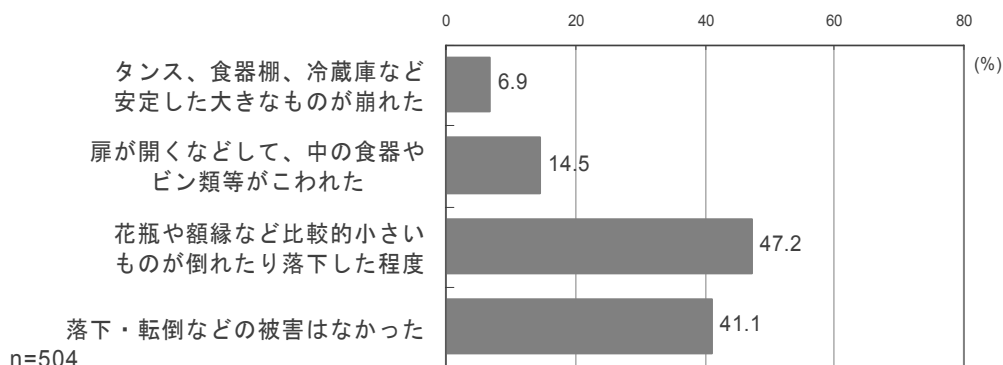
※ 「震度5強」については、調査数（数）が小さいため参考にとどめる。

自宅の被害については、「全く被害はなかった」が55.2%と最も高く5割台半ばを占め、次いで「ほとんど被害なし」が32.1%であった。一方、「家の壁の一部に亀裂やひびが入った」が11.1%と1割強であった。

震度別にみると、震度6強の市町村では「家の壁の一部に亀裂やひびが入った」が50.0%と最も高く半数を占めた。「ブロック塀、庭の灯籠などが倒れた」が20.8%と2割となった。

## 「花瓶等の転倒・落下」が5割弱

では家具などの家の中はどのような状況でしたか。



[ 震度別集計 ] (回答者居住市町村の気象庁発表震度で区分)

	調査数	タンス、食器棚、冷蔵庫など安定した大きなものが崩れた	扉が開くなどして、中の食器やビン類等がこわれた	花瓶や額縁など比較的小さいものが倒れたり落下した程度	落下・転倒などの被害はなかった
全体	504	6.9	14.5	47.2	41.1
震度6強	72	37.5	37.5	44.4	8.3
震度6弱	27	18.5	44.4	63.0	7.4
震度5強	4	-	25.0	75.0	-
震度5弱	401	0.7	8.2	46.4	49.6

※ 「震度5強」については、調査数（基数）が小さいため参考にとどめる。

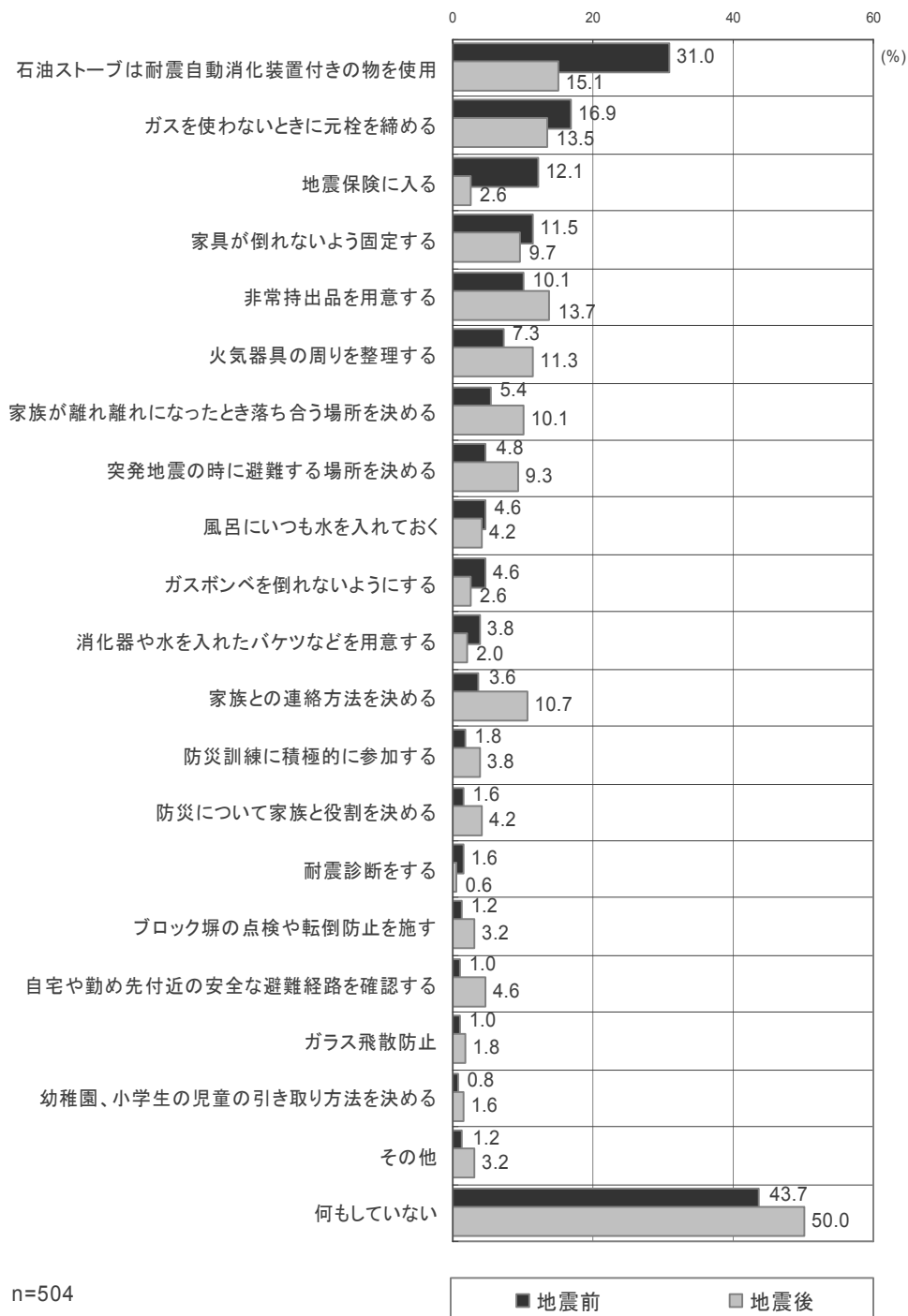
家の中の状況については、「花瓶や額縁など比較的小さいものが倒れたり落下した程度」が**47.2%**と最も高く**5割弱**を占め、次いで「扉が開くなどして、中の食器やビン類等がこわれた」(**14.5%**)などであった。なお、「落下・転倒などの被害はなかった」は**41.1%**と**4割強**であった。

震度別にみると、「花瓶や額縁など比較的小さいものが倒れたり落下した程度」は震度**6弱**の市町村で**63.0%**と高くなった。「落下・転倒などの被害はなかった」は震度**6強**で**8.3%**、震度**6弱**では**7.4%**であった。震度**6強**では「タンス、食器棚、冷蔵庫など安定した大きなものが崩れた」、「扉が開くなどして、中の食器やビン類等がこわれた」がともに**37.5%**と**4割弱**を占め、震度**6弱**でも「タンス、食器棚、冷蔵庫など安定した大きなものが崩れた」が**18.5%**と**2割弱**、「扉が開くなどして、中の食器やビン類等がこわれた」が**44.4%**と**4割強**となった。

## 11 地震への備え

「何もしていない」が、地震前4割強、地震後も5割

次にあげるものの中で、地震に備えてお宅で行っているものはありますか。(地震前と地震後、それぞれいくつでもチェック)



[ 震度別集計 ] (回答者居住市町村の気象庁発表震度で区分)

●地震前

	調査数	役割を決めた	防災について家族と決めた	家族との連絡方法を決めた	突発地震の時に避難する場所を決めた	家族が離れ落ち合う場所を決めた	家族が離れ落ち合う場所を決めた	自宅や勤め先付近の安全な避難経路を確認した	ガスを使わないときに元栓を締めるようにした	火器具の周りを整理するようにした	石油ストーブは、耐震自動消火装置付きの物を使用	風呂にいつも水を入れるようにした	消化器や水を入れたバケツなどを用意するようになった	決めた	幼稚園、小学生の児童の引き取り方法を決めた	ガラス飛散防止をした	ガスボンベを倒れないようにした	家具が倒れないよう固定した	ブロック塀の点検や転倒防止を施した
全体	504	1.6	3.6	4.8	5.4	1.0	16.9	7.3	31.0	4.6	3.8	0.8	1.0	4.6	11.5	1.2			
震度6強	72	1.4	5.6	9.7	6.9	2.8	22.2	8.3	45.8	5.6	6.9	-	1.4	12.5	13.9	1.4			
震度6弱	27	-	-	-	-	-	37.0	18.5	40.7	7.4	3.7	3.7	-	11.1	7.4	-			
震度5強	4	-	-	-	-	-	50.0	25.0	50.0	-	-	-	-	-	25.0	-			
震度5弱	401	1.7	3.5	4.2	5.5	0.7	14.2	6.2	27.4	4.2	3.2	0.7	1.0	2.7	11.2	1.2			

	調査数	参加しようと考えている	防災訓練に積極的に参加しようと考えている	非常持出品を用意した	耐震診断をした	地震保険に入った	その他	何もしていない
全体	504	1.8	10.1	1.6	12.1	1.2	43.7	
震度6強	72	1.4	2.8	1.4	11.1	-	36.1	
震度6弱	27	3.7	3.7	3.7	11.1	-	33.3	
震度5強	4	-	-	25.0	-	-	50.0	
震度5弱	401	1.7	11.7	1.5	12.5	1.5	45.6	

●地震後

	調査数	役割を決めた	防災について家族と決めた	家族との連絡方法を決めた	突発地震の時に避難する場所を決めた	家族が離れ落ち合う場所を決めた	家族が離れ落ち合う場所を決めた	自宅や勤め先付近の安全な避難経路を確認した	ガスを使わないときに元栓を締めるようにした	火器具の周りを整理するようにした	石油ストーブは、耐震自動消火装置付きの物を使用	風呂にいつも水を入れるようにした	消化器や水を入れたバケツなどを用意するようになった	決めた	幼稚園、小学生の児童の引き取り方法を決めた	ガラス飛散防止をした	ガスボンベを倒れないようにした	家具が倒れないよう固定した	ブロック塀の点検や転倒防止を施した
全体	504	4.2	10.7	9.3	10.1	4.6	13.5	11.3	15.1	4.2	2.0	1.6	1.8	2.6	9.7	3.2			
震度6強	72	5.6	9.7	8.3	9.7	11.1	19.4	20.8	30.6	11.1	8.3	2.8	4.2	9.7	18.1	8.3			
震度6弱	27	-	11.1	-	11.1	3.7	22.2	11.1	14.8	3.7	3.7	3.7	3.7	7.4	-	3.7			
震度5強	4	-	-	50.0	25.0	25.0	25.0	-	25.0	-	-	-	-	-	25.0	-			
震度5弱	401	4.2	11.0	9.7	10.0	3.2	11.7	9.7	12.2	3.0	0.7	1.2	1.2	1.0	8.7	2.2			

	調査数	参加しようと考えている	防災訓練に積極的に参加しようと考えている	非常持出品を用意した	耐震診断をした	地震保険に入った	その他	何もしていない
全体	504	3.8	13.7	0.6	2.6	3.2	50.0	
震度6強	72	5.6	20.8	2.8	5.6	-	30.6	
震度6弱	27	7.4	3.7	3.7	-	7.4	44.4	
震度5強	4	-	50.0	-	-	-	50.0	
震度5弱	401	3.2	12.7	-	2.2	3.5	53.9	

※ 「震度5強」については、調査数(基数)が小さいため参考にとどめる。

#### IV. 調査結果

地震対策として行っていたことを地震の前後で尋ねた。

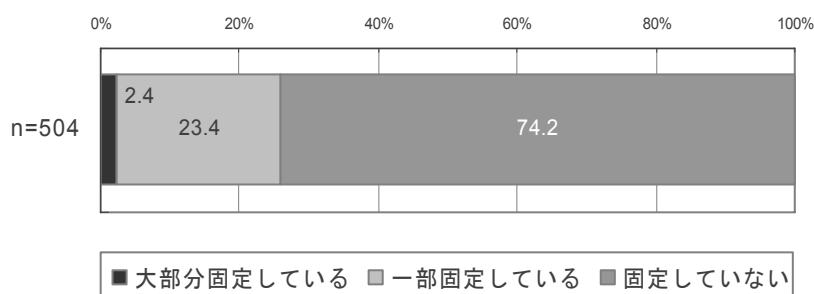
地震前は、「何もしていない」が**43.7%**と最も高く**4割強**であった。つまり何かしらの対策をしていたのは**5割台半ば**である。具体的には、「石油ストーブは耐震自動消火装置付の物を使用」が**31.0%**で最も高かった。

地震後についても「何もしていない」は**50.0%**と最も高く半数となり、地震前よりも高くなった。具体的な対策でも、「石油ストーブは耐震自動消火装置付の物を使用」が**15.1%**と最も高く、次いで「非常持出品を用意する」(**13.7%**)、「ガスを使わないときに元栓を締める」(**13.5%**)の順であった。

地震後の対策について震度別にみると、「何もしていない」は震度が大きくなるにつれて割合が低くなった。震度**5弱**の市町村で**53.9%**、震度**5強**で**50.0%**、震度**6弱**で**44.4%**、震度**6強**で**30.6%**である。なお、震度**6強**では「石油ストーブは耐震自動消火装置付の物を使用」が**30.6%**と**3割強**、「火気器具の周りを整理するようにした」「非常持出品を用意する」がともに**20.8%**と**2割**を超えた。

### 家具の固定は2割台半ば

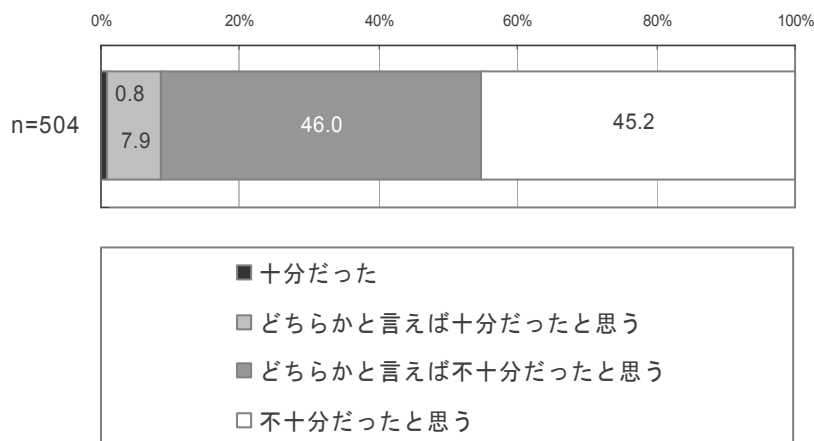
お宅では、地震に備えて家具の固定をしていますか。



地震に備えて家具の固定をしているか尋ねたところ、「大部分固定している」が**2.4%**、「一部固定している」が**23.4%**であり、固定しているのはおよそ**4人に1人**の割合であった。

## 備え不十分が9割強

お宅の地震などへの備えは十分だったと思いますか。



[ 震度別集計 ] (回答者居住市町村の気象庁発表震度で区分)

	調査数	十分だった	どちらかと言えば十分だったと思う	どちらかと言えば不十分だったと思う	不十分だったと思う
全体	504	0.8	7.9	46.0	45.2
震度6強	72	2.8	11.1	36.1	50.0
震度6弱	27	3.7	3.7	66.7	25.9
震度5強	4	-	-	75.0	25.0
震度5弱	401	0.2	7.7	46.1	45.9

※ 「震度5強」については、調査数（基数）が小さいため参考にとどめる。

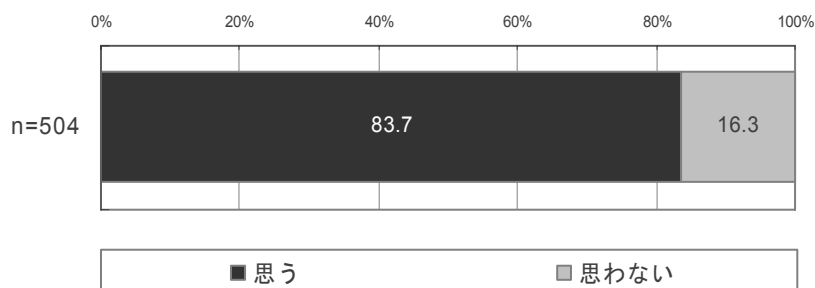
地震などへの備えについて評価してもらったところ、「どちらかと言えば不十分だったと思う」が46.0%と最も高く、次いで「不十分だったと思う」も45.2%であり、9割強が不十分との評価であった。

震度別にみると、震度6強の市町村では「不十分だったと思う」が50.0%と半数を占めたが、全体と比べて大きな差はなかった。

#### IV. 調査結果

### 今後、防災準備をしようと「思う」が8割強

今回の地震を通じて、今後、防災の準備をしようと思いませんか。



[ 震度別集計 ] (回答者居住市町村の気象庁発表震度で区分)

	調査数	思う	思わない
全体	504	83.7	16.3
震度6強	72	83.3	16.7
震度6弱	27	85.2	14.8
震度5強	4	100.0	-
震度5弱	401	83.5	16.5

※ 「震度5強」については、調査数(基数)が小さいため参考にとどめる。

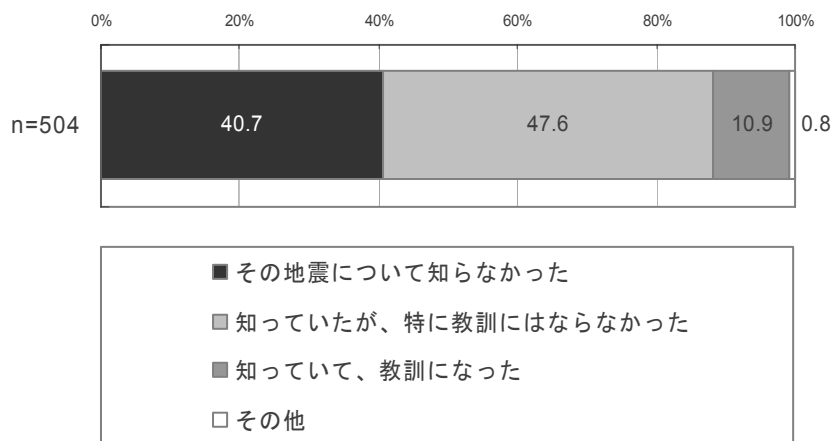
今回の地震を経験して、今後、防災準備をしようと思うか尋ねたところ、「思う」は83.7%と8割強を占め、「思わない」は16.3%であった。

震度別でも同様の傾向であった。



## 「教訓になった」は1割強、「その地震知らない」が4割強

平成5（1993）年2月の能登半島沖の地震（M6.6）の経験は、教訓となりましたか。

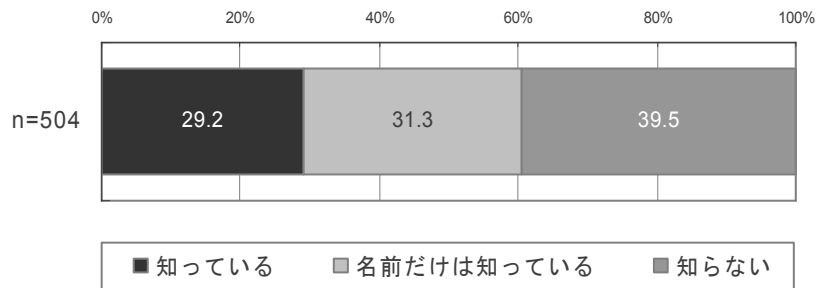


今回の調査対象地域では、今から10年以上前の平成5年（1993年）に、今回と同じく能登半島沖を震源とする地震（M6.6）が発生しているが、その経験が今回の教訓になったかを尋ねたところ、その地震を「知っていたが、特に教訓にはならなかった」が47.6%と最も高く5割弱を占めた。「知っていて、教訓になった」は10.9%と1割強であった。なお、「その地震について知らなかった」は40.7%にも上った。

## 12 緊急地震速報

「知っている」は3割弱、「名前だけ」を合わせると6割

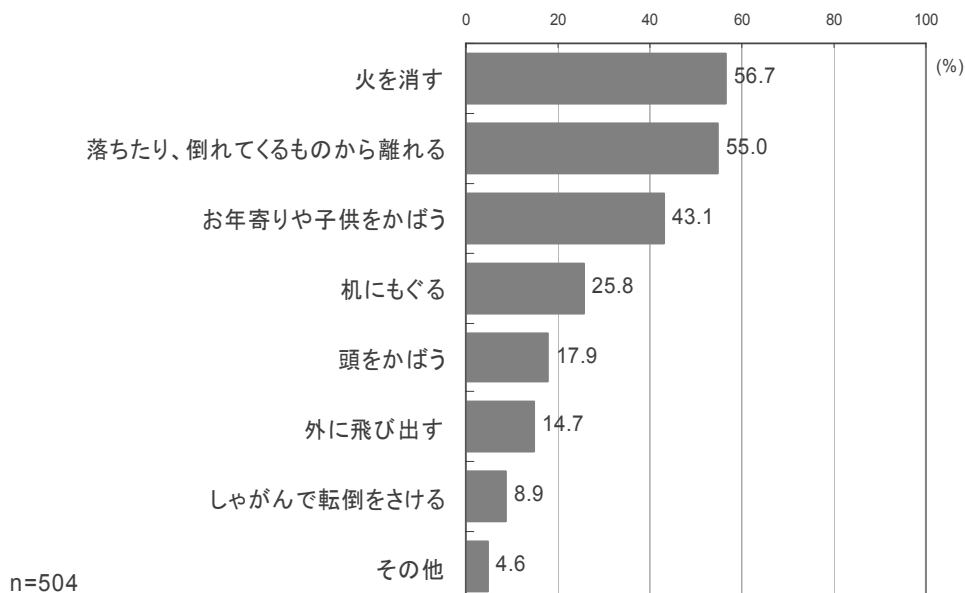
「緊急地震速報」をご存知ですか。



本年（平成19年）9月より本格運用が予定されている「緊急地震速報」についてその認知を尋ねたところ、「知っている」は29.2%と3割弱、「名前だけは知っている」が31.3%と3割強であった。一方、「知らない」は39.5%と最も高くなっており4割弱を占めた。

「火を消す」「落ちたり、倒れてくるものから離れる」が5割台半ば

もし、大揺れの10秒くらい前に、大地震が来るという情報を入手できたら、あなたは何ができたと思いますか。  
(いくつでもチェック)



[ 震度別集計 ] (回答者居住市町村の気象庁発表震度で区分)

	調査数	机にもぐる	外に飛び出す	しゃがんで転倒をさける	落ちたり、倒れてくるものから離れる	頭をかばう	火を消す	お年寄りや子供をかばう	その他
全体	504	25.8	14.7	8.9	55.0	17.9	56.7	43.1	4.6
震度6強	72	18.1	23.6	6.9	62.5	19.4	59.7	51.4	6.9
震度6弱	27	25.9	11.1	-	70.4	22.2	55.6	44.4	11.1
震度5強	4	-	50.0	-	50.0	-	50.0	25.0	-
震度5弱	401	27.4	13.0	10.0	52.6	17.5	56.4	41.6	3.7

※ 「震度5強」については、調査数(基数)が小さいため参考にとどめる。

もし、大揺れの10秒くらい前に、「大地震が来る」という情報を入手できたとしたら、何が出来たかを尋ねたところ、「火を消す」が56.7%と最も高く5割台半ばを占め、「落ちたり、倒れたりするものから離れる」が55.0%と僅差が続いている。次いで「お年寄りや子どもをかばう」(43.1%)、「机にもぐる」(25.8%)の順であった。

震度別でも同様の傾向であった。

## **V 調査票(単純集計結果)**

# V. 調査票（単純集計結果）

（単位：％）

## 平成 19 年（2007 年）能登半島地震に関するアンケート調査

今回のアンケートは、石川県内・富山県内にお住まいの方にお伺いいたします。

F1.あなたのお住まいは。

	n=504
石川県七尾市	8.9
石川県輪島市	4.4
石川県穴水町	1.0
石川県志賀町	1.0
石川県中能登町	2.8
石川県能登町	1.6
石川県珠洲市	0.8
石川県羽咋市	2.0
石川県宝達志水町	2.0
石川県かほく市	7.1
富山県富山市	48.4
富山県滑川市	5.0
富山県舟橋村	-
富山県氷見市	2.8
富山県小矢部市	2.4
富山県射水市	9.9

F2.あなたの性別と年齢は。

	n=504
男性・20代	5.8
男性・30代	22.8
男性・40代	17.7
男性・50代	5.8
男性・60代以上	1.0
女性・20代	12.9
女性・30代	22.4
女性・40代	6.7
女性・50代	4.2
女性・60代以上	0.8

F3.あなたの職業は。

	n=504
自営業	16.1
家族従業（家事手伝い）	2.0
勤め（全日）	52.0
勤め（パートタイム）	8.9
無職の主婦	14.3
学生	2.8
無職	4.0

F4.お宅は、どのようなところにありますか。

	n=504
海に近く、低地にある	23.6
海に近いが、高台にある	8.3
低地だが、海から離れている	53.4
海から離れた高台にある	12.3
わからない	2.4

F5.あなたのお宅の家族形態を教えてください。

	n=504
単身	7.9
それ以外	92.1

## V. 調査票（単純集計結果）

3月25日（日）9時42分頃、能登半島沖を震源とするマグニチュード6.9の地震が発生しました。

Q1.地震発生時、あなたはどこにいましたか。

	n=504
自宅にいた	72.4
会社・学校にいた	8.1
上記（自宅・会社・学校）以外の建物の中にいた	6.7
建物の外にいた	2.0
車・バイクで走っていた	7.3
電車やバスなどに乗っていた	1.2
その他（具体的に）	2.2

Q2.あなたやご家族は、地震でけがをしましたか

	n=504
けがをした	0.4
けがはしなかった	99.6

けがをした人にお聞きします

Q2a.どのようにしてけがをしたのですか

	n=2
家具の転倒	100.0
照明等の落下	-
壁・天井等建材の落下	-
ガラスや食器の落下	-
塀など屋外の石材・ブロック	-
自動販売機の転倒	-
看板・ベランダの転倒・落下	-
熱湯・油などによるやけど	-
その他（具体的に）	-

Q3.地震が起こってから揺れがおさまるまでの間、とっさにどんなことができましたか（最初にしたものから順に3つまで）。

	Q3sq1 (1番目) n=504	Q3sq2 (2番目) n=504	Q3sq3 (3番目) n=504
じっと様子を見ていた	48.6	19.6	17.7
歩けなかった（動けなかった）	11.5	9.5	3.8
火の始末をしたり、ガスの元栓を締めたりした	5.6	7.5	4.6
家具や壊れ物を押さえたりした	4.6	9.7	4.4
安全な場所にかくれたり、身を守ったりした	2.6	6.7	4.0
頑丈なものにつかまって身を支えた	2.0	3.2	3.2
子供や老人、病人などを保護した	8.3	8.3	3.4
戸、窓などを開けた	1.2	2.4	4.6
家や建物の外に飛び出した	0.4	2.0	3.6
建物の中に飛び込んだ	0.2	0.6	-
安全な場所に避難した	0.4	1.2	1.4
車・バイクを止めた	3.2	0.4	0.6
まわりの人の安全を確かめようとした	2.0	11.7	21.0
無我夢中でおぼえていない	0.6	0.4	0.8
その他（具体的に）	1.8	3.2	5.6
何もしなかった（できなかった）	7.1	13.5	21.6

Q4.今回の地震後、あなたは津波を警戒して、避難しましたか

	n=504
そのときに居た場所を離れて外に避難した	4.6
二階などに上がった	0.4
避難しなかった	95.0

Q5.地震当日、あなたにとって困ったことは何ですか。（いくつでもチェック）

	n=504
どこに逃げてよいか分からなかった	8.7
行政からの情報が少なかった	9.7
鉄道などの公共交通機関がストップした	6.5
道路が渋滞した	1.8
電気がとまった	9.3
ガスがとまった	3.0
水道がとまった	5.0
固定電話が使えなかった	36.9
携帯電話・PHSが使えなかった	58.7
インターネットが使えなかった	3.6
食料の買い出しに困った	1.8
何をしてもよいかわからなかった	11.5
家族との連絡が取れなかった	24.4
親戚・知人の安否がわからなかった	19.6
何も困らなかった	23.8

Q6.地震の後、災害の情報をどこから入手しましたか。（いくつでもチェック）

	n=504
NHK テレビ	73.8
NHK ラジオ	8.1
民間放送テレビ	48.6
民間放送ラジオ（AM）	6.5
民間FM ラジオ	2.0
コミュニティFM放送	-
CATV	4.4
インターネットのホームページ（パソコン）（具体的に）	12.7
携帯電話の情報サービス（Iモード、Ezwebなど）	4.4
家族や近所の人たちとの会話	12.9
役所、警察、消防署からの情報	5.2
その他（具体的に）	1.8

Q7.地震直後、あなたはどのようなことを知りたかったですか。（いくつでもチェック）

	n=504
今回の地震についての震源地や規模などの情報	81.7
今後の余震の可能性や、その規模	67.3
自分や自分の家族が避難すべきかどうかという情報	31.5
自分の住む地域にどんな被害が起こっているかについての情報	60.1
家に戻らない家族の安否や居場所	14.1
役所、警察、消防署の応急処置の内容や指示・連絡	9.5
道路、通信、電気、ガス、水道が大丈夫かといった情報	33.5
その他	2.6
特になかった	1.6

Q8.あなたは、これまで、この地域で今回の「能登半島地震」のような大きな地震が起こると思っていましたか。

	n=504
思っていた	3.6
ある程度思っていた	15.3
あまり思っていなかった	43.5
まったく思っていなかった	37.7

Q9.あなたは、将来、この地域で今回の「能登半島地震」のような大きな地震が起こると思いますか。

	n=504
思っている	12.9
ある程度思っている	58.7
あまり思っていない	26.6
まったく思っていない	1.8

V. 調査票（単純集計結果）

Q10.あなたは地震の時には、津波に警戒しなくてはならないと思っていましたか。

	n=504
思っていた	45.0
思っていなかった	55.0

Q11.あなたの住んでいる地域は、地震に対して安全だと感じていますか。それとも危険だと感じていますか。（地震前と地震後、それぞれひとつずつチェック）

Q11sq1.（地震前）

	n=504
安全と思っていた	33.7
どちらかといえば安全と思っていた	45.0
どちらかといえば危険と思っていた	8.5
危険と思っていた	2.4
特に意識していなかった	10.3

Q11sq2.(地震後)

	n=504
安全と思っている	4.4
どちらかといえば安全	51.8
どちらかといえば危険	32.9
危険	5.2
特に意識していない	5.8

Q12.この地域はどのような点が危険だと思いますか。（3つまでチェック）

	n=192
木造住宅が密集していること	44.8
ブロック塀が多いこと	17.2
道路が狭く、複雑に入り組んでいること	30.7
道路際に通行の障害となるものが多いこと	6.3
窓ガラスや看板などの落下の危険があること	21.4
近くに危険物を扱っている工場があること	13.0
地盤が弱いこと（液状化が起こる可能性が高い）	29.7
津波の危険性があること	24.5
火災の時に、延焼を防ぐのに役立つ緑や広場が少ないこと	12.5
近くに消火用水として使用できる川やプールなどがないこと	13.5
高層ビル、高層マンションが多いこと	3.1
人や車が多いこと	7.3
近くに高速道路や鉄道の高架があること	3.6
その他（具体的に）	10.9

Q13.何か困ったことはありましたか。どんなことでも結構です。ご自由にお書きください。

Q14.地震当日、あなたは誰かに連絡を取ろうとしましたか。（いくつでもチェック）

	n=504
一般の固定電話からかけた	46.4
公衆電話からかけた	2.0
携帯電話・PHSからかけた	64.1
携帯電話・PHSのメールで連絡しようとした	38.5
電子メール（パソコン）で連絡しようとした	7.9
連絡をとろうとしなかった	17.1

Q14a.連絡をした（しようとした）携帯電話・PHSの通信会社は、どちらの会社ですか。

	n=370
NTT ドコモ	49.5
au	26.8
ソフトバンク	23.0
TUKA	-
WILLCOM	0.8
その他（具体的に）	-



Q15.地震直後（2～3時間以内）にあなたが利用しようとした通信手段はどのくらいつながりましたか（それぞれひとつずつ）。また、それぞれの通信手段を利用始めてから、つながった時間を分単位で具体的にお答えください。

Q15sq1.（固定電話）

	n=504	つながるまでの 所要時間（分）
すぐにつながり問題なく利用できた	9.1	44.4
つながりにくかったが、利用できた	16.9	
つながりにくく全く利用できなかった	30.0	
利用しようとしなかった	35.7	
普段も利用することはない	8.3	

Q15sq2.（公衆電話）

	n=504	つながるまでの 所要時間（分）
すぐにつながり問題なく利用できた	1.0	13.0
つながりにくかったが、利用できた	0.4	
つながりにくく全く利用できなかった	0.6	
利用しようとしなかった	52.0	
普段も利用することはない	46.0	

Q15sq3.（携帯電話・PHS（音声））

	n=504	つながるまでの 所要時間（分）
すぐにつながり問題なく利用できた	7.9	50.7
つながりにくかったが、利用できた	28.8	
つながりにくく全く利用できなかった	33.9	
利用しようとしなかった	26.0	
普段も利用することはない	3.4	

Q15sq4.（携帯電話・PHSのメール）

	n=504	つながるまでの 所要時間（分）
すぐにつながり問題なく利用できた	17.3	28.8
つながりにくかったが、利用できた	22.4	
つながりにくく全く利用できなかった	12.3	
利用しようとしなかった	41.7	
普段も利用することはない	6.3	

Q15sq5.（パソコンのメール）

	n=504	つながるまでの 所要時間（分）
すぐにつながり問題なく利用できた	10.9	5.5
つながりにくかったが、利用できた	0.8	
つながりにくく全く利用できなかった	1.4	
利用しようとしなかった	83.5	
普段も利用することはない	3.4	

Q15sq6.（パソコンのウェブ検索）

	n=504	つながるまでの 所要時間（分）
すぐにつながり問題なく利用できた	24.0	6.3
つながりにくかったが、利用できた	1.4	
つながりにくく全く利用できなかった	2.0	
利用しようとしなかった	69.6	
普段も利用することはない	3.0	

Q16.インターネット（携帯電話・PHS含む）から地震に関する情報を入手しましたか。

	n=504
地震に関するインターネット情報を入手できた	34.7
インターネットにアクセスしたが、欲しい情報を得られなかった	6.0
インターネットにアクセスしようとしたが、つながらなかった	4.0
インターネット情報を得ようと思わなかった	55.4

V. 調査票（単純集計結果）

Q17.その情報は役に立ちましたか。

	n=205
非常に役に立った	29.3
多少役に立った	52.2
あまり役に立たなかった	16.1
役に立たなかった	2.4

Q18.地震当日、家族や知人と連絡が取れず、安否が心配でしたか。

	n=504
なかなか連絡が取れず、心配だった	38.7
すぐ連絡が取れたので、心配なかった	37.1
連絡は取れなかったが、心配ではなかった	24.2

Q19.地震当日、あなたは、次にあげる「安否確認サービス」を知っていましたか。

	聞いたこと もなかった	聞いたこと はあるが、 使い方まで は知らなかつ た	聞いたこと はあるし、 使い方も知 っていた	今現在、こ の質問で初 めて知った	今回の地震 の後、テレ ビ・新聞な どで見聞き したが、使 い方までは 知らなかつ た	今回の地震 の後、テレ ビ・新聞な どで見聞き して、使い 方も分かつ た
災害用伝言ダイヤル (171)	11.9	63.5	11.5	4.2	5.0	4.0
災害用伝言板サービス (携帯)	20.0	52.6	9.9	7.9	5.8	3.8
災害用ブロードバンド 伝言サービス (web171)	47.4	25.2	2.8	20.0	3.0	1.6

Q19sq1.あなたは、今回の地震で「安否確認サービス」を使いましたか。

	使った	使わなかつ た
災害用伝言ダイヤル (171)	1.1	98.9
災害用伝言板サービス (携帯)	3.2	96.8
災害用ブロードバンド 伝言サービス (web171)	-	100.0

Q19sq2.「安否確認サービス」は役に立ちましたか。

	非常に役に 立った	多少役に立 った	あまり役に 立たなかつ た	役に立たな かった
災害用伝言ダイヤル (171)	25.0	50.0	-	25.0
災害用伝言板サービス (携帯)	10.0	20.0	20.0	50.0
災害用ブロードバンド 伝言サービス (web171)	-	-	-	-

Q20.地震の直後、地震に関する情報源はおもにテレビでしたか、それともラジオでしたか。

	n=504
おもにテレビ	88.9
おもにラジオ	7.7
どちらからも情報を入手しなかった	3.4

Q20sq1.テレビ・ラジオからの情報を、どのように感じましたか。（いくつでもチェック）

	n=487
津波の有無に関する情報を、もっと早く伝えてほしい	18.9
具体的にどのような行動や対応をとればよいかという情報を、もっと伝えてほしい	39.4
情報を伝えるアナウンサーやキャスターは、もっと冷静に対応するべきである	7.4
自分の住んでいる地域の情報を、もっと多く伝えてほしい	56.9
電話・携帯電話の状況について、もっと詳しく伝えてほしい	34.7
放送局が、地震直後に被害のあった市町村役場や消防署などに 電話取材をするのは、控えるべきである	29.4
地震発生時の映像が多すぎるのではないか	20.3
余震に関する情報を、もっと伝えてほしい	51.5

Q21. 今回の地震の被害についてどう思いますか。

	n=504
被害は大きいと思う	36.5
被害はやや大きいと思う	49.6
被害はあまり大きいとは思わない	11.7
被害は大きいとは思わない	2.2

Q22. 今回の地震を通じて、今後、防災の準備をしようと思いませんか。

	n=504
思う	83.7
思わない	16.3

Q23. お宅では家屋（建物）に被害がありましたか。

	n=504
屋根瓦が落ちたり、ずれたり破損した	4.4
窓ガラスがわれた	2.4
家の壁の一部にひびや亀裂が入った	11.1
ブロック塀、庭の灯籠などが倒れた	4.8
ほとんど被害はなかった	32.1
全く被害はなかった	55.2

Q24. では家具などの家の中はどのような状況でしたか。

	n=504
タンス、食器棚、冷蔵庫、ステレオなど安定した大きなものが崩れた	6.9
倒れはしなかったが、扉が開くなどして、中の食器やビン類等がこわれた	14.5
花瓶や額縁、人形ケースなど比較的小さいものが倒れたり落下した程度	47.2
落下・転倒などの被害はなかった	41.1

Q25. お宅では、地震に備えて家具の固定をしていますか。

	n=504
大部分固定している	2.4
一部固定している	23.4
固定していない	74.2

Q26. 次にあげるものの中で、地震に備えてお宅で行っているものはありますか。（地震前と地震後、それぞれいくつでもチェック）

	Sq1 (地震前) n=504	Sq2 (地震後) n=504
防災について家族と役割を決めていた	1.6	4.2
家族との連絡方法を決めていた	3.6	10.7
突発地震の時に避難する場所を決めていた	4.8	9.3
家族が離れ離れになったとき落ち合う場所を決めていた	5.4	10.1
自宅や勤め先付近の安全な避難経路を確認していた	1.0	4.6
ガスを使わないときに元栓を締めていた	16.9	13.5
火気器具のまわりを整理していた	7.3	11.3
石油ストーブは、耐震自動消化装置付の物を使用していた	31.0	15.1
風呂にいつも水を入れていた	4.6	4.2
消火器や水をいれたバケツなどを用意していた	3.8	2.0
幼稚園、小学生の児童の引取り方法を決めていた	0.8	1.6
ガラス飛散防止をしていた	1.0	1.8
ガスボンベを倒れないようにしていた	4.6	2.6
家具が倒れないように固定していた	11.5	9.7
ブロック塀の点検や転倒防止を施していた	1.2	3.2
防災訓練に積極的に参加していた	1.8	3.8
非常持出品を用意していた	10.1	13.7
耐震診断をした	1.6	0.6
地震保険に入っていた	12.1	2.6
その他	1.2	3.2
何もしていなかった	43.7	50.0

V. 調査票（単純集計結果）

Q27.お宅の地震などへの備えは十分だったと思いますか。

	n=504
十分だった	0.8
どちらかといえば十分だったと思う	7.9
どちらかといえば不十分だったと思う	46.0
不十分だったと思う	45.2

Q28.平成5（1993）年2月の能登半島沖の地震（M6.6）の経験は、教訓となりましたか。

	n=504
その地震について知らなかった	40.7
知っていたが、特に教訓にはならなかった	47.6
知っていて、教訓になった	10.9
その他	0.8

Q29.今回の地震にあわれて、ご家庭や地域の地震対策で、どんなことが大切だと感じましたか（自由回答）。

Q30.「緊急地震速報」をご存知ですか。

	n=504
知っている	29.2
名前だけは知っている	31.3
知らない	39.5

Q31.もし、大揺れの10秒くらい前に、大地震が来るという情報を入手できたら、あなたは何ができたと思いますか。あてはまるものをいくつでも選んでください。

	n=504
机にもぐる	25.8
外に飛び出す	14.7
しゃがんで転倒をさける	8.9
落ちたり、倒れてくるものから離れる	55.0
頭をかばう	17.9
火を消す	56.7
お年寄りや子供をかばう	43.1
その他（具体的に）	4.6

以上で質問は終了です。ご回答はサーバに送信されました。  
長時間アンケートにご協力いただき、誠にありがとうございました。

## VI 自由回答

# VI. 文字回答一覧

Q1.地震発生時、あなたはどこにいましたか。(その他)

震度	性別	年齢	文字回答
震度 6 強	男性	30 代	図書館
震度 6 強	女性	30 代	保育園にいた
震度 6 弱	男性	30 代	病院にいた
震度 6 弱	女性	40 代	コインランドリー
震度 5 弱	男性	20 代	能登食祭市場
震度 5 弱	男性	30 代	駐車場で停車している車の中にいた
震度 5 弱	男性	40 代	体育館
震度 5 弱	男性	50 代	川底すくいで川の中
震度 5 弱	女性	30 代	神社の境内
震度 5 弱	女性	40 代	駐車場で車内
震度 5 弱	女性	40 代	実家

Q3.地震が起きてから揺れがおさまるまでの間、とっさにどんなことができましたか。(その他)

(1 番目)

震度	性別	年齢	文字回答
震度 6 弱	女性	20 代	本震発生時、金沢にいたので気付かなかった
震度 5 弱	男性	20 代	寝ていた
震度 5 弱	男性	30 代	寝てた。
震度 5 弱	男性	40 代	走行中だったので運転に集中した。
震度 5 弱	男性	40 代	気がつかなかった
震度 5 弱	男性	60 代以上	一級河川にかかる橋上を車で通過中突然車が左右に振れた
震度 5 弱	女性	30 代	よくわからなかった
震度 5 弱	女性	30 代	気が付かなかった
震度 5 弱	女性	40 代	気が付かなかったので

(2 番目)

震度	性別	年齢	文字回答
震度 6 強	男性	30 代	停電のため携帯ラジオを入れた
震度 6 強	男性	40 代	車がパンクしたと思い車を点検した
震度 6 強	女性	20 代	ラジオを聞いた
震度 6 強	女性	40 代	外に持ち出す手荷物をまとめた
震度 5 弱	男性	20 代	寝ていた
震度 5 弱	男性	20 代	上から何か落ちてこないか確認した
震度 5 弱	男性	30 代	家の状況を確認
震度 5 弱	男性	30 代	揺れが激しかったので起きて様子を見た。
震度 5 弱	男性	40 代	外の様子を見た
震度 5 弱	男性	40 代	地震中は車の異常か風のせいではと考えた
震度 5 弱	男性	40 代	気がつかなかった
震度 5 弱	男性	40 代	家の中の被害確認
震度 5 弱	男性	50 代	警報個所のチェックをした
震度 5 弱	男性	60 代以上	直進するのが困難となり車速を落とした
震度 5 弱	女性	40 代	TV で震源地を確認した

(3 番目)

震度	性別	年齢	文字回答
震度 6 強	女性	20 代	車のラジオをつけた
震度 6 強	女性	20 代	家族に電話
震度 6 強	女性	20 代	ラジオを探した
震度 6 強	女性	30 代	テレビを見た
震度 6 弱	男性	30 代	消防団活動に出た
震度 6 弱	男性	30 代	起床したばかりだったのでトイレで小便をした
震度 6 弱	男性	40 代	安全を確認しながら外に出た
震度 6 弱	女性	20 代	起きて立った
震度 6 弱	女性	20 代	自宅へ戻った
震度 5 弱	男性	20 代	テレビなどで情報の確認
震度 5 弱	男性	20 代	寝ていた
震度 5 弱	男性	30 代	被害の確認
震度 5 弱	男性	30 代	出勤
震度 5 弱	男性	30 代	また寝た。
震度 5 弱	男性	30 代	周囲の状態を確認
震度 5 弱	男性	40 代	テレビを見た
震度 5 弱	男性	40 代	橋を横断中だったので車・橋に異常がないか考えた。
震度 5 弱	男性	40 代	テレビを見た
震度 5 弱	男性	40 代	気がつかなかった
震度 5 弱	男性	40 代	TV

## VI. 文字回答一覧

震度	性別	年齢	文字回答
震度 5 弱	男性	40 代	家の周りの被害確認
震度 5 弱	男性	50 代	室内犬を落ち着かせた。
震度 5 弱	男性	60 代以上	車速を 10Km 落とし振れに対応しているうちに振れは治まった
震度 5 弱	女性	30 代	テレビをつけた
震度 5 弱	女性	30 代	TVを見た
震度 5 弱	女性	40 代	テレビをつけた
震度 5 弱	女性	40 代	寝ていた
震度 5 弱	女性	40 代	お祈りをした

### Q6.地震の後、災害の情報をどこから入手しましたか。(その他)

震度	性別	年齢	文字回答
震度 6 強	女性	20 代	車のラジオ
震度 6 弱	男性	40 代	会社上司・同僚からの会話
震度 6 弱	女性	20 代	母からの電話
震度 6 弱	女性	30 代	友人から携帯にメールがきた
震度 6 弱	女性	30 代	行政無線
震度 5 弱	男性	30 代	車の TV
震度 5 弱	男性	40 代	カーナビのテレビ
震度 5 弱	女性	20 代	立ち寄ったお店
震度 5 弱	女性	20 代	車のテレビ

### Q12.この地域はどのような点が危険だと思いますか。(その他)

震度	性別	年齢	文字回答
震度 6 強	女性	30 代	土砂くずれ
震度 6 弱	女性	20 代	原発に近いこと
震度 5 弱	男性	30 代	一級河川の河川敷が近い
震度 5 弱	男性	30 代	地震に対する備えが希薄
震度 5 弱	男性	30 代	築 100 年以上の家だから
震度 5 弱	男性	30 代	この地区の人は地震を体験したことがない
震度 5 弱	男性	30 代	原発
震度 5 弱	男性	40 代	お年寄りが多い地域であること
震度 5 弱	男性	40 代	洪水
震度 5 弱	男性	40 代	河川の崩壊
震度 5 弱	男性	60 代以上	自宅は海岸線から 3Km 離れているが、津波の規模によっては被害を受ける可能性の有無が不明
震度 5 弱	女性	20 代	家の真裏に古く高さのある食品会社営業所がある
震度 5 弱	女性	20 代	若い人があまりいない地域が多い
震度 5 弱	女性	30 代	すぐ横に川が流れている
震度 5 弱	女性	30 代	地震に対して危機感が薄い県民性
震度 5 弱	女性	30 代	電線の鉄塔が近くにある。
震度 5 弱	女性	30 代	山のふもと
震度 5 弱	女性	40 代	家が古い

### Q13.何か困ったことはありませんでしたか。(自由回答)

震度	性別	年齢	文字回答
震度 6 強	男性	20 代	緊急時の避難場所が遠すぎる
震度 6 強	男性	20 代	電気が数分止まったこと。
震度 6 強	男性	20 代	電話が繋がらなかった
震度 6 強	男性	30 代	災害時は連絡のやりとりが上手くできない。情報伝達の確かさがネックだと思います。
震度 6 強	男性	30 代	地震直後、水道が出ていると安心していましたが、その後、水道制限?断水の工事?のせいか数時間後には断水となった。水が出ると安心していたら危険と思った(水は出るうちに貯めておくべきと思った)
震度 6 強	男性	30 代	今も断水で困ってます。上下水道で困ってます
震度 6 強	男性	30 代	ライフラインの特に電気がすぐに復旧したので色々(テレビ、インターネット)調べることが出来た。電気は絶対必要だと思いました。
震度 6 強	男性	30 代	液晶テレビやパソコンが破損したがメーカー修理が高額でとても修理に出せない。家電メーカーの対応の悪さと遅さ。固定電話も携帯電話も家族と連絡がとれなかった点。
震度 6 強	男性	30 代	公務員なので地震後は職場に行っただけで家がどう困っていたかわからない。
震度 6 強	男性	30 代	会社のシステムがダウンし、次の日業務不能になる寸前だった
震度 6 強	男性	30 代	賃金が遅配となった
震度 6 強	男性	30 代	事務所のブロック塀と看板が傾いた。修理や補償が気になる。
震度 6 強	男性	30 代	自宅の被害が少なく、地震の規模のわりには困らなかった。
震度 6 強	男性	30 代	水が無い、情報の伝達が悪い。
震度 6 強	男性	30 代	水の確保
震度 6 強	男性	40 代	食器が散乱し、非常に危険な状態になった。家族の安否、携帯が不通
震度 6 強	男性	40 代	停電したので情報等が入手できなかった。
震度 6 強	男性	40 代	マンション 9 階に住んでいるのですぐに避難できない
震度 6 強	男性	40 代	後片付けが面倒だった。
震度 6 強	男性	40 代	和倉温泉の被害が大きいので、経済の停滞が心配
震度 6 強	男性	40 代	一時的に水が止まったこと。また、情報が伝わりにくく、困った。

震度	性別	年齢	文字回答
震度 6 強	男性	40 代	あちこち通行止め。電話が通じない。(特に携帯) 余震が多くて炊事、食事が出来なかった。
震度 6 強	男性	40 代	自宅建物の破損状況がわからない(建築専門家しか判らない箇所)。食料不足でこまった。携帯電話等、不通で i モード災害伝言板は、使用したことなかったのわからない。
震度 6 強	男性	40 代	電話が通じない
震度 6 強	男性	40 代	七尾の和倉温泉というところで働いていますが旅館の損害も多くまたキャンセルが続出して仕事が半減した。旅館の完全復旧まで億単位のお金がかかると言う事で給料の減額等あるのではないかと心配です。
震度 6 強	男性	40 代	とにかく詳細な情報が欲しかった
震度 6 強	男性	40 代	地震直後は震源地や地震規模も判らず、津波を大変心配した。電気復旧まで 10~15 分以上もかかり、その間は津波が到来しないか大変不安だった。足が不自由な為、一人では避難も出来ず、ただ運頼みだった。
震度 6 強	男性	50 代	タンスや本棚は必ず倒れるのでその対策はしっかりする必要がある。灯籠や墓など背の高いものも倒れます。吊り下げ型の電気は破損します。
震度 6 強	男性	50 代	地震直後の情報が有ればいいと思う
震度 6 強	男性	50 代	住むのには問題ないような状態ではあるが、屋根瓦や戸や壁などが被害にあつてこれから自前で直してゆかないといけないということは大変な被害なのである。もちろん大きく壊れた人は大変でしょうが、小さいものが沢山重なった状態の人が沢山居ると思うが、これらの人には何も援助がない状態です。
震度 6 強	男性	50 代	震源近くの輪島、門前、穴水などは、被害が大きい処で、大変だと思います。瓦屋根の修復を早くしてもらいたいが、瓦屋さんは忙しく順番を待つほか、ありません。
震度 6 強	女性	20 代	地震当日の 25 日の夜 7 時以降は、地震災害のニュースがほとんどなくスケート等の TV 番組が流れていたんです。余震があれば速報程度に流れたぐらいだったので、当日ぐらいは番組を中止してでも情報を流して欲しかったです。
震度 6 強	女性	20 代	停電になり、電話もテレビも使えなかったので家族との連絡に時間がかかった
震度 6 強	女性	20 代	余震が多い
震度 6 強	女性	20 代	何よりも携帯電話が使えなかったことに困った。電気はすぐもどったし、水道も使えたが、水道管破裂と聞いたり、近くで断水だったり、不安はあった。車で移動しようにも、道路が割れているからかみんなゆっくりだし、たまに大きな余震がくるのも怖かった
震度 6 強	女性	20 代	家の水槽などがほぼ壊滅した。復旧までに時間もお金もかかる。私財への援助も必要だと思った。
震度 6 強	女性	20 代	水道水が茶色で少ししか出なかった。飲料水に困った
震度 6 強	女性	20 代	とにかく携帯など電話が繋がらない事が困りました。
震度 6 強	女性	30 代	水道が 2 日間でなくて困ったことや親戚の人達となかなか連絡が取れなかった
震度 6 強	女性	30 代	停電
震度 6 強	女性	30 代	携帯が使えない
震度 6 強	女性	30 代	幸い自宅は地震直後の停電のみだったので道路に亀裂ができたりしてどこにいても怖いです
震度 6 強	女性	30 代	地震保険に加入して建物に被害があつたのに、保険会社にいろんな理由を言われ払ってくれそうにない
震度 6 強	女性	30 代	片付け。
震度 6 強	女性	30 代	家族と連絡が取れなかったこと
震度 6 強	女性	30 代	地震のあつた日に選挙のお願いに来た人が 2 人もいた。非常識。選挙くらい 1 ヶ月でも延ばしてほしいです。それか候補者だけが頑張ればいいのでは。後片付けや余震が続中、田舎特有の選挙運動が始まり事務所に呼び出されるたびに、今一番やらなければいけないことは何なのか腹が立ってくる。これを無視していかなければ今後の生活に響くのでしかたなく選挙運動に参加しなければいけないなんて、なんだか情けないです。ニュースで新たな問題発生です。などといって投票所がないと言っていました。こんなことが問題なのか、選挙を今することが問題なのか、不思議でなりません。
震度 6 強	女性	30 代	私の家は、5 階建ての団地です。2 棟ありますが、どこに誰が、どんな人が、住んでいるのか、わからなかったことと、もしものときの、情報をどこから、入手すればいいのかが、わからなかったことです。
震度 6 強	女性	30 代	当日は家に一人であり、家族への電話も不通、混線となり、テレビでの遅い情報しかなく、周囲の状況がわからなかった。
震度 6 強	女性	30 代	能登有料道路が通行止めになったこと。
震度 6 強	女性	30 代	幸いに被害は無かったので、現在のところ何も困っていませんが、今後またこのようなことが起こった時に、家族との連絡や安否の確認の方法をどうすればいいのかわかりません。今回は回線が繋がらずに大変でしたので。
震度 6 強	女性	30 代	地震で子供の通う保育園にも被害があつたこと
震度 6 強	女性	30 代	町内放送で役場や消防の連絡が聞こえるが、聞き取りにくく不安だった。
震度 6 強	女性	40 代	携帯電話が繋がらず、家族の安否の確認に時間がかかった。
震度 6 強	女性	40 代	水は出るが飲料水として使えないので困った。ペットボトルの飲料水が何本かストックしてあつたが、これがなかったらと思うとライフラインの確保が最優先ということを改めて考えさせられた。全倒壊扱いの証明を受けた後の処理方法(仮設住宅や仮住居の斡旋など)を迅速に対応してほしい。
震度 6 強	女性	40 代	コンビニの商品が入ってこなかったこと
震度 6 強	女性	40 代	家屋の調査にすぐ来て欲しかった
震度 6 強	女性	40 代	地震発生時自宅に一人であったので、外出していたり、仕事に行っている家族や実家の両親と、なかなか連絡が取れないのが一番困りました。又、停電の為情報がすぐにわからなかった事も、困りました。
震度 6 強	女性	40 代	水道が断水していた事。市役所からの情報が、複数のヘリの音でまったく聞こえなかった事。



VI. 文字回答一覧

震度	性別	年齢	文字回答
震度 6 強	女性	50 代	水が出なくてお風呂に入れなかった。
震度 6 強	女性	50 代	ペットを飼っているの
震度 6 強	女性	50 代	スーパーの水売り場が、長いレジで大変と、タクシーが 3 日後も使えませんでした。
震度 6 弱	男性	30 代	部屋の片付けが大変で困った。部屋の戸が閉まりにくくなった
震度 6 弱	男性	30 代	地震で仕事のペースが乱れている
震度 6 弱	男性	30 代	仕事がサービス業だが、地震の影響で客が減っている。
震度 6 弱	男性	30 代	家族が不安な状態
震度 6 弱	男性	40 代	仕事に影響が出た
震度 6 弱	男性	40 代	不在だった家族との連絡が取れなかったこと
震度 6 弱	男性	40 代	会社と契約していた立体駐車場のエレベーターが停止してしまい、8 階まで階段を上った。家屋は損壊しなかったが、家の中は物品が散乱していて掃除が大変だった。ボイラーの耐震装置が働いたが、解除方法が判らず、説明書を捜すのに時間が掛かった。余震の度にドキッとして、落ち着かなかった。
震度 6 弱	男性	50 代	建物にヒビが出来たこと。
震度 6 弱	女性	20 代	お風呂に入れれないのが困りました。
震度 6 弱	女性	20 代	一時、停電になった事。一時的なので、すぐ復旧しましたが。
震度 6 弱	女性	20 代	後片付け。お掃除。
震度 6 弱	女性	20 代	逃げる時の手段や場所がはっきり分からなかったこと。おじいちゃん、おばあちゃん、小さい子供が二人いるので避難する時を考えると荷物が多くなること。
震度 6 弱	女性	20 代	有料道路
震度 6 弱	女性	30 代	携帯電話が繋がらなかった
震度 6 弱	女性	30 代	電話や携帯電話が繋がらなかったことが困りました。
震度 6 弱	女性	30 代	電話などが通じないので、心配にもなるので、精神的な支えがほしいと思った。
震度 6 弱	女性	30 代	子供の精神的不安
震度 6 弱	女性	40 代	住んでいる場所は山間部なので津波の心配はなかったが、地すべり地帯なので近くの山に亀裂が発見され余震や大雨が心配です。
震度 6 弱	女性	40 代	リアルタイムな情報が得られにくかった。
震度 6 弱	女性	50 代	建物にヒビが入った。
震度 5 強	男性	40 代	停電になったので、携帯のラジオを探すのに手間取った。
震度 5 強	男性	60 代以上	海にも近く、震源地にも近い事から、一番の心配は津波情報であるが、防災放送が開こえ難い場所にある為、いち早い情報が入らない。高台に登る為には急斜面の道路を登らなければならないが、高齢者が多くしかも一人暮らしの方も多いのでその人たちを連れて素早く登れるか心配であった。
震度 5 強	女性	20 代	とにかく家族との連絡が取れなかった。子ども 2 人のときの出来事、そして、初めての災害に突然のことで何をしても良いのか分からず、オロオロしてしまった。でも、地域の警報対応は早かったと思えました。そのため、津波警報も早期にわかり、助かりました。とにかく、連絡がとりづらくなっていたことが一番の不安要因となりました。
震度 5 弱	男性	20 代	電話がつながりにくかった
震度 5 弱	男性	20 代	電話がほとんどつながらなかった。地域のスピーカー放送がなかなか始まらなかった。
震度 5 弱	男性	20 代	テレビの上においてあったプリンタが落下し壊れた。棚に入れていた本が散乱し片付けに時間がかかった
震度 5 弱	男性	20 代	携帯や固定電話から電話をかけてもつながらなかったこと。
震度 5 弱	男性	20 代	電気が止まった。荷物が崩れた。
震度 5 弱	男性	20 代	物が棚から落ちたりした
震度 5 弱	男性	20 代	これだけの地震があったにも関わらず、富山の人々には危機意識がまだ植え付けられていないと感じるので、さらなる防災に関する啓発活動を行うべきだと思います。
震度 5 弱	男性	20 代	電話が復旧するまでに時間がかかりすぎ。基地局が少ない?
震度 5 弱	男性	20 代	携帯がつながりにくかったこと
震度 5 弱	男性	20 代	連絡がとれない
震度 5 弱	男性	20 代	携帯や家の電話が繋がらず、家族や親戚に安否が確認できなかった。
震度 5 弱	男性	20 代	報道ほど氷見地区影響がなく、全国からメール、電話がきました。自分の所が大丈夫だと、あまり実感がなく、報道のすごさが感じられた。
震度 5 弱	男性	20 代	地震の情報を得るまでに時間がかかった。(会社にいたため)
震度 5 弱	男性	20 代	電話が輻輳して利用できないこと
震度 5 弱	男性	20 代	携帯がつながらなかった
震度 5 弱	男性	30 代	携帯電話が使用できず、家族の安否が心配でした。
震度 5 弱	男性	30 代	どこの建物でもエレベーターが使用出来なかった。
震度 5 弱	男性	30 代	車で走っていたので、何が起きたのか最初は分からなかった。
震度 5 弱	男性	30 代	携帯電話がまったく使えませんでした。
震度 5 弱	男性	30 代	エレベーターが止まった
震度 5 弱	男性	30 代	携帯電話が繋がりにくく、社内連絡などに苦労した。
震度 5 弱	男性	30 代	被害状況をもう少し早く知りたかった。
震度 5 弱	男性	30 代	固定電話、携帯電話の不通
震度 5 弱	男性	30 代	どうすればよいかわからなかった
震度 5 弱	男性	30 代	我が家だけでなく近所では建物の倒壊や、断水、停電などの被害はほぼ皆無だったので特に困ることは無かった。逆に親戚から無事の確認の電話をかけてきていたが、全くつながらなく夕方から夜にかけてようやく電話が通じる様になって安否確認に困っていたようだ。
震度 5 弱	男性	30 代	家具等の転倒防止
震度 5 弱	男性	30 代	携帯電話、固定電話とも不通になり、緊急な連絡等が出来なかった。
震度 5 弱	男性	30 代	エレベーターが使えなかった。

震度	性別	年齢	文字回答
震度 5 弱	男性	30 代	会社で被害が出て製造が停止した
震度 5 弱	男性	30 代	とにかく電話が繋がらない。特に光電話は最低!
震度 5 弱	男性	30 代	仕事で家の外に出ていて、携帯に固定電話がまったく通じなく家族の安否が心配だった。30 年間生きていて一番の地震だった。
震度 5 弱	男性	30 代	設置が悪い電化製品が棚から落下した。
震度 5 弱	男性	30 代	地震発生時には、業務上の勤めを優先しなければならないので、家庭や友人に対しての心配に悩まされる。
震度 5 弱	男性	30 代	地震に対する意識が低い地域であり、特に個人での地震・災害対策が不十分で、なにをどうすればよいのか分からなかった。
震度 5 弱	男性	30 代	固定電話も携帯も、メールでさえつながらなくて家族の安否や他の地区の状況が把握できなかった。余震の規模などの情報もなく、対応の困った。
震度 5 弱	男性	30 代	前日の土曜日に、私の勤務する会社の事務所に、NTT 西日本の「フレッツ光プレミアムファミリータイプ」を開通させ、付加サービスの「ひかり電話オフィスタイプ」(メタル回線からの番号ポータビリティ)を NTT 製ビジネスホン αGX-L に収容させる工事を私自身が自分で開通工事をしたばかりでした。地震直後全通話回線が不通になったので、もしこれが翌日まで続く事があれば、NTT 西日本から緊急の NTT 通信インフラの災害復旧工事依頼が入った場合、弊社参加の災害復旧に多大な影響があると焦りました。また以前、私が営業、販売、工事した「ひかり電話」サービスを加入されているエンドユーザ様にごのようにお詫びしてよいかとも思いました。去年、NTT 西日本側で「ひかり電話」サービスの運用事故が起こった時も、直後にエンドユーザ様から大変お叱りを受けましたが、NTT 西日本からの運用事故の報道発表が大々的にニュースにもなり、矛先がすぐに変りました。今回は北陸限定で、メタル回線(アナログ回線、INS64 回線)には影響が少なく、尚且つマスコミが地震しか報道していないため、災害の影響で「ひかり電話」がダウンしている事は、一般の「ひかり電話」加入者方には理解してもらえないのではないかと考えておりました。不幸中の幸いは、地震発生が日曜日であった事で、翌日にははっきり復旧したと言う事です。
震度 5 弱	男性	30 代	部屋のガンダムが倒れて壊れた
震度 5 弱	男性	30 代	震度 5 弱の地震があった割にはその後みんな普通にお店を営業したり仕事をしたりしているのがおかしい。もう地震がこないと思う根拠がないはずなのに。
震度 5 弱	男性	30 代	JR が止まった。
震度 5 弱	男性	30 代	CATV の情報皆無。
震度 5 弱	男性	30 代	亡くなった方のご冥福をお祈りすると共に、携帯電話での緊急連絡(110/119)を最優先接続になるようにして頂きたい。つまり地震発生から 2 時間は、携帯電話に制限を掛けたい。掛かっては来るが、緊急連絡以外は掛けれないなど・・・。
震度 5 弱	男性	30 代	家族、親類との連絡が取れないことが、本当に困った
震度 5 弱	男性	30 代	携帯電話が全然使えなかった
震度 5 弱	男性	30 代	電話が利用できなくなっていた。
震度 5 弱	男性	30 代	ちょっとでも揺れると「地震か!?!」と神経過敏になった。
震度 5 弱	男性	30 代	どこに逃げるのが一番安全なのかわからない
震度 5 弱	男性	30 代	公共交通機関の対応の悪さが目についた
震度 5 弱	男性	30 代	親戚への電話が通じにくかった
震度 5 弱	男性	30 代	固定電話、携帯電話が全く使えなく家族や知人の安否確認が出来なかったこと。停電になりテレビからの情報が得られなかった事。
震度 5 弱	男性	30 代	携帯電話が繋がらない
震度 5 弱	男性	30 代	滑川市の防災放送があるまで 50 分かかった。何のための防災放送なのかかわからない。信用ができない地域、危機管理にそなえていないことがよくわかった。
震度 5 弱	男性	30 代	庭の、灯籠が倒れました。
震度 5 弱	男性	30 代	固定電話も使用できなかったことが困った。
震度 5 弱	男性	30 代	固定・携帯にかかわらず、電話が繋がりにくい事が困りました。
震度 5 弱	男性	30 代	避難場所がわからない
震度 5 弱	男性	30 代	実家の親の安全確認がなかなか取れなかったのが(電話が混んでいて)一番、困りました
震度 5 弱	男性	30 代	余震が不安でしばらく家の中に入れなかった。停電していたのでテレビ等が使えず、状況が確認できなかった。震災直後のテレビからの情報は富山からの情報ばかりで石川の情報が入らなかった。しばらくしてから地震情報を見ようとテレビをつけた時 NHK では地震情報がほとんど出ていなかったので民放で確認した。
震度 5 弱	男性	30 代	地震酔いのような感じになり、不安感が多く感じられた。
震度 5 弱	男性	30 代	県や市、町内からのアナウンスが全く無かった。考えられません。電話が繋がらないので災害伝言ダイヤルの使えない老人との連絡が取れなかった。会社のダメージが大きく復旧に時間がかかります。富山の住宅メーカーは責任感が無いのか、建物に関する損傷確認の連絡もない。
震度 5 弱	男性	30 代	災害時の住民の連携に不安を感じた
震度 5 弱	男性	30 代	今後の地震の可能性や避難の有無など確認できなかった。
震度 5 弱	男性	30 代	携帯がぜんぜんつながらなかった
震度 5 弱	男性	40 代	PHS(ウィルコム) 同士(親に対しての連絡)は問題なくつながったが、それ以外(友人、会社など)がほぼ全滅で少し困った。
震度 5 弱	男性	40 代	道路が分断されて交通がストップした。
震度 5 弱	男性	40 代	携帯や電話が繋がらず不便だった
震度 5 弱	男性	40 代	電話・メールが繋がりにくかった。
震度 5 弱	男性	40 代	地震がおさまっても、身体が揺れているような感じがしばらく続いた
震度 5 弱	男性	40 代	勤務先の店で CAT が使えず売上がたたなかったケースが何件もあった。
震度 5 弱	男性	40 代	もう少し震度が大きかったら会社設備に被害があったかもしれない

VI. 文字回答一覧

震度	性別	年齢	文字回答
震度 5 弱	男性	40 代	マンションに住んでいるがエレベーターが止まって中々動かなかった
震度 5 弱	男性	40 代	大きな地震とは無縁の地方と思っていたので、家具類の落下防止策をとってなかったの で、特に 2 階の家具のズレや家具や棚の物の落下がひどかった。インテリアのクリスタル や陶器製の置物やビン等が落下粉々になったり、メガネのレンズが割れたりと片付け作業 が大変だった。今回の地震の時間がよかったのか、周辺含め火災の発生がなかったのは不 幸中の幸いではなかるうか。
震度 5 弱	男性	40 代	自分の部屋の敷居と床の隙間が少し開いた。
震度 5 弱	男性	40 代	避難方法が分からなかった
震度 5 弱	男性	40 代	電話がつながらなくなった
震度 5 弱	男性	40 代	公用と私用の線引き
震度 5 弱	男性	40 代	電話がつながらない
震度 5 弱	男性	40 代	適切な情報が、入るのが遅かった。
震度 5 弱	男性	40 代	電話が通じにくい。特に携帯は数時間使用不能だった
震度 5 弱	男性	40 代	電話回線が制限され、電話がつながりにくくなった。
震度 5 弱	男性	40 代	公共交通機関の運行情報がハッキリしない
震度 5 弱	男性	40 代	正確な情報の伝達。通信 (tel) の確保。
震度 5 弱	男性	40 代	連休中に能登の方へ行く予定だったので、被害が気になった。
震度 5 弱	男性	40 代	電話が通じないのには困った。
震度 5 弱	男性	40 代	石川県に住む親と連絡がつかなかったこと
震度 5 弱	男性	40 代	いまだに余震が多いが、逃げるわけにも行かない。今度おおきのが来たときの体制は？
震度 5 弱	男性	40 代	携帯が使えなかった
震度 5 弱	男性	40 代	電話がつながらなかったこと
震度 5 弱	男性	40 代	会社からの連絡が届かなかった (緊急メール)
震度 5 弱	男性	40 代	電話などが使いにくくなり、親戚、知人との連絡が取れなかった。
震度 5 弱	男性	40 代	携帯電話が使用出来なかった事に驚きました。
震度 5 弱	男性	40 代	電話が繋がらないのは困る
震度 5 弱	男性	40 代	マンションの耐震強度が心配だ
震度 5 弱	男性	40 代	これまで地震を体験したことのない母はパニックになっていた
震度 5 弱	男性	40 代	今の家が古いので、新しい (耐震性のある) 家がいいなあと感じている。
震度 5 弱	男性	40 代	携帯が通じなかった
震度 5 弱	男性	40 代	ガスがマイコン型メーターで自動停止して復旧方法の問い合わせに時間がかかった。
震度 5 弱	男性	40 代	高速道路が通行止めになった。しかし、それほど困りはしなかった。もう少し揺れが酷か ったら困ってたかもしれない。
震度 5 弱	男性	40 代	被災地の避難場所には、いつもお年寄りの映像ばかり放送される。社会人になった、お 子さんのいるお年寄りもたくさんいるはずなのに・・・。日本は、独り立ちする社会より も、お年寄りと一緒に生活する家族社会をめざして、子供の教育を考えていくべきだと思 った。
震度 5 弱	男性	40 代	家が古いので倒壊するのではないかと不安を解消するすべがなかったこと。
震度 5 弱	男性	40 代	携帯電話や固定電話がつながりにくく、携帯メールも時間がかかった。
震度 5 弱	男性	40 代	地震の揺れに対してトラウマが来ているような気がする。良く、揺れを感じる
震度 5 弱	男性	40 代	報道関係の情報で、各局で言っている事がばらばらなので、実際どれが正しいのか、混乱 する事があった。
震度 5 弱	男性	40 代	地震後に、コミュニティでの会合が必要だと思った。
震度 5 弱	男性	50 代	原子力発電所が心配 (情報の隠蔽)
震度 5 弱	男性	50 代	停電の間情報が入らず不安だった。
震度 5 弱	男性	50 代	電話と携帯メールが使えず、家族間の連絡がとれずに困った。
震度 5 弱	男性	50 代	賃貸の事務所の壁にひびが入りその補修を貸主がしてくれるのかどうか？
震度 5 弱	男性	50 代	母の体調が悪くなったが日曜日で緊急医療センターしか開業していなかった。満員で待ち 時間が長かった。
震度 5 弱	男性	50 代	地震後の情報が 4～5 分後にテレビに出たので情報伝達が遅いと思いました、日曜日と言 う事もあったせいかもしれません。
震度 5 弱	男性	50 代	家族・親戚との連絡がなかなかとれなかったこと
震度 5 弱	男性	50 代	金沢への電話が 2 時間つながらなかった
震度 5 弱	男性	50 代	とにかく電話が繋がらないため安否確認が出来なかった。
震度 5 弱	男性	50 代	停電
震度 5 弱	男性	50 代	家の内部に亀裂等が入ってないかわからない
震度 5 弱	男性	50 代	親戚が能登にあるので、安否が心配だったので電話が混んで通じなかった。富山の実家にも 通じなかった
震度 5 弱	男性	50 代	震源からはなれている事が分かり、困ったことはないのですが、震度 5 弱の中ですぐに安 全な場所に移動するにも動けないのが分かりました。一般に言われているほど行動に移れ ないものだと思います。小さい子供の確保に動いた人がいたと聞きましたが、よっぽど の事がない限り動かないと思います。津波の心配はしましたが、日頃この地域の海拔を知 っていましたので、大丈夫だと思っていました。
震度 5 弱	男性	50 代	富山県富山市と高岡市に双方に家が有り一時携帯電話・固定電話が使えなかった事。
震度 5 弱	男性	50 代	とにかく電話が通じなかったこと。固定も携帯 (2 種類) も、ほとんど通じなかった。NTT が発信規制をしたことは TV で知ったが、ニュースで解除されたこと知った後でも、ひかり 電話は通じなかった。
震度 5 弱	男性	50 代	2 日たって、電線が切れ停電した。
震度 5 弱	男性	60 代以上	保険に加入すべきか迷っている

震度	性別	年齢	文字回答
震度 5 弱	男性	60 代以上	丁度自宅が誰もいない状態で、工作中で直ぐに帰宅出来ず、揺れによる被害、火災発生の有無が 3 時間後帰宅するまで不明だったこと
震度 5 弱	女性	20 代	防災時の準備がまったくなされてないので、いざ避難する際に不安がある。今後はしっかり準備をしておきたい。
震度 5 弱	女性	20 代	電話が通じなかった
震度 5 弱	女性	20 代	電話がかかりづらくなった
震度 5 弱	女性	20 代	大事なものが棚から落ちてこわれショック
震度 5 弱	女性	20 代	携帯が使えなかった
震度 5 弱	女性	20 代	JR が運休になり電車が使えなかった。
震度 5 弱	女性	20 代	携帯がつながらなかつたこと
震度 5 弱	女性	20 代	被害にあったものを片付け始める時期に迷った
震度 5 弱	女性	20 代	テレビなどを載せているラックがすごく揺れて倒れてこないかすごく怖かった。
震度 5 弱	女性	20 代	地震がきたら何もできずに揺れが収まるまでじっとしていた。私と、2 歳、0 歳の子供がいたので一人で避難できるか不安になった。
震度 5 弱	女性	20 代	道路状況
震度 5 弱	女性	20 代	他県の友人達が心配しているほど被害もなく心配されることに困った。
震度 5 弱	女性	20 代	家のあちこちにひびが入った。
震度 5 弱	女性	20 代	携帯がつながりにくかつた
震度 5 弱	女性	20 代	直後に外出した。マンションのエレベーターが不調（変な音）だったので怖かつた。その後、立体駐車場のエレベーターが使えなかつた。
震度 5 弱	女性	20 代	電子レンジが床に落ちて、壁に穴があいた
震度 5 弱	女性	20 代	携帯がつながらなかつたこと。
震度 5 弱	女性	20 代	2 階にいたため揺れが大きく感じ、酔ってしまった。その後も余震が続いたので、ずっと体が揺られているように感じた。
震度 5 弱	女性	20 代	携帯がつながらず、家族の安否が 5 時間近く取れなかつた。
震度 5 弱	女性	20 代	棚の本が全部崩れて落ちた。
震度 5 弱	女性	20 代	電気が止まり情報を一切得られないのが困りました。
震度 5 弱	女性	20 代	携帯電話も固定電話も全然つながらなくて困った。
震度 5 弱	女性	20 代	地震に対する危機感があまりなく事態を軽く見ていた。テレビが壊れた。
震度 5 弱	女性	20 代	地震に対する避難方法や対処方法の知識が少なかつた。
震度 5 弱	女性	20 代	携帯が使えなかつたのがつらかつた
震度 5 弱	女性	20 代	特に被害はなかつたが、今後への不安感がある。地震当日は日曜で家族がみんなそろっていて良かったけど、もし今後またあのような地震で家族が別々の場所にいるという状況だったらどうしようかと思う。怖いです。
震度 5 弱	女性	20 代	休日だったので家族は家にいたが、一人暮らしの祖母と連絡がすぐとれなくて心配だったのが困った。
震度 5 弱	女性	20 代	携帯がつながらず、連絡が取れない事。余計不安になる。
震度 5 弱	女性	20 代	連絡がとりにくい。
震度 5 弱	女性	20 代	地震後に外出したショッピングセンターのエレベーターが止まっていて階段を使わなければいけなかつた。
震度 5 弱	女性	20 代	電話が通じなかつたこと。
震度 5 弱	女性	20 代	ガスがとまって困った
震度 5 弱	女性	20 代	自分の住んでいる高層アパートの耐震性がしっかりしているか不安だった
震度 5 弱	女性	20 代	こちらの方ではあまり被害は無かつたが、またいつ地震が起きるかもしれないと考えると不安だ。
震度 5 弱	女性	20 代	電話や携帯がつながらなかつた
震度 5 弱	女性	20 代	不動産会社をしているのですが、地震になじみがないので、耐震機能が付いている物件に住んでいる人がその装置の事を知らず（覚えておらず）「故障した」とか「解除の仕方が分からない」といった問い合わせが多かつた
震度 5 弱	女性	20 代	実家（能登）と連絡が取れなかつた。能登有料道路が一部使えなくなつたことで交通の便が悪くなつた。
震度 5 弱	女性	20 代	地震直後に電話がつながらなかつたこと
震度 5 弱	女性	20 代	余震が怖かつた。揺れで酔つたのか、不安とか精神的なものかはわからないけど、少し体調が悪くなつた。
震度 5 弱	女性	20 代	地震が起こつた際の対策が、すぐに頭に思い浮かばなかつた
震度 5 弱	女性	30 代	通行止めになつた道の情報はわかるが、迂回路の情報は出ていないように思う。道が崩れただけではなく、迂回路の情報も一緒に教えて欲しいと思いました。（テレビ・ラジオ・インターネット）
震度 5 弱	女性	30 代	現状とその後の行動をどうすればよいか明確な情報が入手できなかつたので不安な日を 2 日ほど過ごした
震度 5 弱	女性	30 代	電話がつながらなかつた事
震度 5 弱	女性	30 代	旅行が中止になつた。病院が混んでいた。
震度 5 弱	女性	30 代	宝達志水の辺りは大した被害もなく困つたと感じたことはありませんでした。
震度 5 弱	女性	30 代	棚の上に置いてあつた物が落ちた
震度 5 弱	女性	30 代	停電で家中の電化製品が使えなかつたこと。
震度 5 弱	女性	30 代	すぐに携帯電話や固定電話が使えなかつた
震度 5 弱	女性	30 代	携帯や TEL が繋がりにくい状態が続いたことによって身内の安否がとても不安になつた。何らかの形（特殊なサイレン等）で地震予告を知らせてくれればと思った。
震度 5 弱	女性	30 代	今回は休みもあつて家族と一緒にいられたのでよかったが、平日に起きた場合家族と一緒にいることが出来ないのが困る。

VI. 文字回答一覧

震度	性別	年齢	文字回答
震度 5 弱	女性	30 代	地震が発生してから半日たって携帯電話や通常の NTT 電話は普通に使用できるのに光電話が通じなかったこと
震度 5 弱	女性	30 代	携帯、固定電話ともにつながらなくなり出かけている家族の安否の確認ができなかった。それに伴い県外の親戚、友人などに電話につながらなくて心配したと言われました。この時代に何一つ通信手段がなくなるのは恐ろしいことだと思います。
震度 5 弱	女性	30 代	携帯や固定電話につながりにくく、実家の両親や兄弟と連絡が取れなかったのが不安だった。
震度 5 弱	女性	30 代	犬がおびえていた。神社の鳥居の一部が崩れた。外出していたので、携帯が繋がらずネットでの情報も取れなかったのが困った。
震度 5 弱	女性	30 代	金沢にいる両親の安否を確認しようと電話をかけたがなかなかつながらなかった
震度 5 弱	女性	30 代	電話が使えなかった。特に石川にかけるもの。
震度 5 弱	女性	30 代	休日家族の安否がすぐ確認できたのでよかった。困った点は通信手段がしばらく使えなかったことくらいです。
震度 5 弱	女性	30 代	災害保険に興味はでた
震度 5 弱	女性	30 代	輪島の実家と連絡が取れなかった
震度 5 弱	女性	30 代	固定電話につながりにくくて少し不自由でした。
震度 5 弱	女性	30 代	電話が通じなかった
震度 5 弱	女性	30 代	エレベーターが止まった
震度 5 弱	女性	30 代	地震対策をしていなかったのも、ものが散乱した
震度 5 弱	女性	30 代	石川に住む親族と連絡が取れなくて困った。また、震源が確定される前に全国ニュースで「富山市内」「富山放送局」の画像がたくさん流れたため、他地方の親族が「富山を中心とした大地震」と誤解し、携帯電話につながらなかったため、こちらは怪我一つなく物も大して壊れず電気・ガス・水道も生きていたのに、具合が悪くなるほど心配した人がある。テレビは他地方に与える影響を考えて放送して欲しい。
震度 5 弱	女性	30 代	もし、避難になっても何の用意も無く、どうしていいかわからなかった
震度 5 弱	女性	30 代	余震が気持ち悪い。
震度 5 弱	女性	30 代	外出していたので、家の事が気になったが、全く連絡がとれず困った。
震度 5 弱	女性	30 代	自分が住んでる建物が地震に強いタイプだと聞かされていたので、困った事はありませんでしたが、家族の一人が電話連絡が出来なかったと言っていました。(家の電話も携帯も)
震度 5 弱	女性	30 代	電話が繋がらないのが一番困った
震度 5 弱	女性	30 代	何をして良いかわからなかった
震度 5 弱	女性	30 代	とにかく、固定電話も携帯電話も繋がらなかったのが困った。
震度 5 弱	女性	30 代	携帯電話やメールにつながりにくかった事以外は特にありません。
震度 5 弱	女性	30 代	電話が繋がらなくて家族の安否確認に時間が掛かった事。
震度 5 弱	女性	30 代	電話が繋がらない
震度 5 弱	女性	30 代	隣県で大規模な地震があったにも関わらず、危機意識が低いなと感じました。
震度 5 弱	女性	30 代	電話につながりにくくなった
震度 5 弱	女性	30 代	揺れただけで被害はなかったのが、困ったことはなかった。
震度 5 弱	女性	30 代	長野の実家から携帯電話に連絡があったがしばらく繋がらなかったと聞いた。
震度 5 弱	女性	30 代	震源地近くで一人暮らししている人との連絡が取れない。
震度 5 弱	女性	30 代	他地域の方は結局他人事で無神経。
震度 5 弱	女性	30 代	携帯や電話が繋がらなかった
震度 5 弱	女性	30 代	避難すればいいのか何を留意すればいいのか戸惑った。
震度 5 弱	女性	30 代	地域に密着しているといいながら、CATV からの情報が全然機能していなかった。(ドラマが入っていた) 災害にはにぶいのではないかな?
震度 5 弱	女性	30 代	電話につながらず、身内の安否が確認できなかった
震度 5 弱	女性	30 代	携帯電話で家族との連絡を取りたいのに規制されていてつながりが悪かった。そういう状況の中、県外の友人や知人からの連絡が入ってきて、いちいち説明しなければならず、肝心の家族との連絡がおろそかになってしまった。災害掲示板の存在は知っていたが、使い慣れていないせいか利用しようとした時間帯が遅かった。
震度 5 弱	女性	30 代	日頃からの地震に対する意識が低かったのも、色々な備えがなかったこと。
震度 5 弱	女性	30 代	市町村合併の後なので、テレビ報道にできる地域の詳細な場所が分かりづらい。輪島市、志賀町、七尾市などだけでは、どこのことか不明。
震度 5 弱	女性	30 代	富山市の震度はそれほどではなかったのが、市内でも被害等は少なく地震後に生活に困る事はなかった。
震度 5 弱	女性	30 代	地震直後にすぐ実家と連絡を取ったのでよかったが、その後すぐに固定・携帯電話共に繋がりにくくなっていたので、友人との連絡がなかなか取れなかった。(Email は使えたのでメールで連絡をした。) 昔と違って公衆電話がほとんど無いので、いざという時に連絡が取れないのではないかなと思った。
震度 5 弱	女性	30 代	実家の両親の安否確認がしばらくとれなかったこと。
震度 5 弱	女性	30 代	電話が相手につながるまでに時間を要した。災害伝言ダイヤルを忘れていたので、放送などで知らせてくれればよかったと思う。
震度 5 弱	女性	30 代	とにかく携帯電話(ドコモ)が通じないことが不便でした。
震度 5 弱	女性	30 代	一人暮らしなので実家などに連絡を取りたいと思ってもなかなかそれができなかった。逆に不安になった。
震度 5 弱	女性	30 代	家族の安否のかくにんがすぐにできなかったのが、災害伝言ダイヤルはすぐに設置するようにしてほしい。
震度 5 弱	女性	30 代	緊急時の対応
震度 5 弱	女性	30 代	自宅のエレベーターが夕方まで使えなくて不便だった

震度	性別	年齢	文字回答
震度 5 弱	女性	30 代	固定電話は比較的すぐつながったが、携帯がつながらずなかなか連絡が取れない家族がいた。
震度 5 弱	女性	40 代	まだ家族が揃っている時間でよかったが、ばらばらなときは連絡が付けれるか、戻ってこれるか心配だ。
震度 5 弱	女性	40 代	家族の安否がわからなかった
震度 5 弱	女性	40 代	地震に対してあまりのも無防備で、認識がないことを痛感させられた。遅いけれど、地震に対しての情報警を（避難の仕方や、避難地区の確認）した。
震度 5 弱	女性	40 代	地震がいつまで続くか心配で、夜寝るのが怖い
震度 5 弱	女性	40 代	自宅にいて、小さな子供と年老いた祖母がいたので、その場でじっとしていることしかできませんでした。その後、すぐに仕事に向かいましたが、家の家族と離れなければならない不安があり、情報がほしかった。
震度 5 弱	女性	40 代	電話が通じず困った
震度 5 弱	女性	40 代	家族と連絡がとれなかった。事前の不勉強は自業自得なのだが、災害を報じるニュースの中で、災害時緊急ダイヤルの案内をもっとしてほしかった。
震度 5 弱	女性	40 代	地震が発生した日は、引越し当日だったのでガスの開栓が遅れた。（ガス会社のほうが立て込んでいたため）
震度 5 弱	女性	40 代	電話が使えなかった。
震度 5 弱	女性	40 代	県外に住む親族が電話が掛からないといいました。
震度 5 弱	女性	40 代	避難場所がよくわからない
震度 5 弱	女性	40 代	まさかという気持ちがあり防災の心得がなかったことと、防災グッズを買っておくべきだと後悔した。結果的には今回の地震での災害は何もなかったけれど
震度 5 弱	女性	40 代	こちらは被害がほとんどなかったので困っていることはありません。
震度 5 弱	女性	40 代	電話が通じなかったこと。
震度 5 弱	女性	40 代	とにかく家族の安否の確認が取れなくて困りました。
震度 5 弱	女性	40 代	でんわがつながらない
震度 5 弱	女性	40 代	建設業をしているが県から危機管理の伝達網が機能しなかった事。電話が混線して繋がらず意味がない。独自の伝達網を確保しなければいけないと思った。
震度 5 弱	女性	50 代	富山はたいした被害もなくよかったが固定電話も携帯もつながりづらくて連絡がなかなか取れなかったのもっとひどい被害が出たときが心配
震度 5 弱	女性	50 代	地震がおさまった後何をしていたのかかわからずボーっとしていた
震度 5 弱	女性	50 代	親戚が富山に来る途中で、携帯がつながらなかった。結局越後湯沢から帰ってもらった。
震度 5 弱	女性	50 代	最近光ファイバーと光電話に変えて、地震の時固定電話が使えなかったこと
震度 5 弱	女性	50 代	家族との連絡が直ぐ取れなかったことで心配な時間があった。
震度 5 弱	女性	50 代	上から物が落ちた程度で、大きな被害は無かったので、困った事は無い。
震度 5 弱	女性	50 代	久々の地震で怖かった。自分の住んでいる地域はこれまでは、災害が少ないため、災害に対する備えは殆どしていないし、蓄えも無いので今後これ以上の災害が起こった際、どうすれば良いのかとても不安である。ニュース等で被災された人々のことを報道しているが、行政としてしなければならないことが後回しにされているという思いを痛感する。
震度 5 弱	女性	50 代	知人への連絡が加入電話も携帯も取れず・・・安否も判らず・・・やっと繋がって無事だと判明して一安心しました。
震度 5 弱	女性	50 代	主人が仕事で居なく家に一人だったので大変怖かった。
震度 5 弱	女性	50 代	固定電話がつながりにくい
震度 5 弱	女性	50 代	電話がまったく通じなくなり、夜七時過ぎにやっとつながり、連絡がとれなくなり、本当に困った。家の電話壊れているのかとおもったくらいです。よその家はもっと早くつながったと言ってもらいました。
震度 5 弱	女性	60 代以上	IP 電話が地震後 7～8 時間通じず困った。
震度 5 弱	女性	60 代以上	固定電話が不通になり、原因を探るために、NTT に電話してもなかなか通じず、困った。
震度 5 弱	女性	60 代以上	電話がつながらない。固定電話は電柱が倒れたりして仕方がないと思うけど、携帯電話がきかないのはつらい。

Q29. 今回の地震にあわて、ご家庭や地域の地震対策で、どんなことが大切だと感じましたか。（自由回答）

震度	性別	年齢	文字回答
震度 6 強	男性	20 代	家具の固定
震度 6 強	男性	20 代	備えはした方がいい。灯籠は危険
震度 6 強	男性	20 代	家具の固定
震度 6 強	男性	20 代	会話
震度 6 強	男性	30 代	情報伝達の正確さと強化
震度 6 強	男性	30 代	家具固定、防災ラジオ、部屋の整理整頓
震度 6 強	男性	30 代	住んでいる所の地盤の弱さや家屋の耐震強度を知っておく事
震度 6 強	男性	30 代	家具や薄型テレビの転倒防止、能登半島でも大きな地震が起きるとの意識を持ちました。
震度 6 強	男性	30 代	2 次災害にならない様に努める心構え。家具等が転倒しない為の耐震対策の準備。
震度 6 強	男性	30 代	危険な場所の把握
震度 6 強	男性	30 代	地震保険に加入する必要性
震度 6 強	男性	30 代	食料、水の確保。電気が停電になった場合の時の対応。
震度 6 強	男性	30 代	家具の固定が最優先
震度 6 強	男性	30 代	お年寄りが多いので、安否を確認しあうことが必要
震度 6 強	男性	30 代	skype など、ネットで連絡を取り合えばいいと思った。
震度 6 強	男性	30 代	家具は固定する
震度 6 強	男性	40 代	緊急時に集まる場所を決める
震度 6 強	男性	40 代	隣近所での助け合い

VI. 文字回答一覧

震度	性別	年齢	文字回答
震度 6 強	男性	40 代	近所で力を合わせ助け合うべき
震度 6 強	男性	40 代	火事はさげたい
震度 6 強	男性	40 代	慌てず落ち着いて状況を把握してから行動することが大切
震度 6 強	男性	40 代	備え
震度 6 強	男性	40 代	お年寄りが多いので、普段からコミュニケーションが大切
震度 6 強	男性	40 代	いつでも地震が起こる可能性があると思って、普段から不安定な物を高いところに置かないなどの配慮をする必要がある。
震度 6 強	男性	40 代	発生後にどうやって連絡を取り合うかを決めておく
震度 6 強	男性	40 代	家屋の耐震対策。物の置き方。携帯電話会社の選択。
震度 6 強	男性	40 代	家族が外出（他地域）時に連絡できるようする。しかし災害時には通信が遮断されるであろう
震度 6 強	男性	40 代	地震に対する備えが大事。
震度 6 強	男性	40 代	家族が妻と二人なので子供や年寄りの心配がなくとくに感じなかった。
震度 6 強	男性	40 代	水が止まったときの備えがほとんどないことがわかった。水がないのが一番不便だと思ったから。
震度 6 強	男性	40 代	海岸線付近でもあり津波の避難経路を明確にして置くことが重要だと思う。
震度 6 強	男性	50 代	家具の転倒防止、家族間の連絡法、避難場所を決めておくといったこと、水の確保保存、防災グッズの備え
震度 6 強	男性	50 代	町内や隣同士の連帯が必要
震度 6 強	男性	50 代	直下に、これ以上大きいものが来たら、人間は全く無力だと思う。起きた時間帯、天候など条件により今回のものでもどうしようもない状態になるのではないだろうか。
震度 6 強	男性	50 代	被害が出た時の行動基準というものがいいと思った。
震度 6 強	男性	60 代以上	町内の連携を密に
震度 6 強	女性	20 代	もしもの時のために防災グッズは最低限用意しておかなければならないと感じました。
震度 6 強	女性	20 代	家族との災害時の連絡方法
震度 6 強	女性	20 代	「うちは大丈夫だろう」という意識は捨て、「うちでも起こるかもしれない」という意識を持って防災対策をしなければならぬと思った。
震度 6 強	女性	20 代	なにより、日本にいて地震がないところなんてないんだから、ここは安全という気でないこと。（能登有料道路の工事の仕方など）家庭や地域でも、忘れたところに災害は来るから、定期的に予防策を見直すすといふと思う
震度 6 強	女性	20 代	一緒に居て行動できること
震度 6 強	女性	20 代	非常食、飲料水の備えをつねにしておくべきだと思った。
震度 6 強	女性	20 代	家具を固定する
震度 6 強	女性	20 代	避難場所の確認
震度 6 強	女性	30 代	電気が無くても情報が得られるラジオの必要性
震度 6 強	女性	30 代	水が必要
震度 6 強	女性	30 代	地域アナウンスがとても聞こえにくいのでそれをどこの地域でも聞こえるように落ち着いたら市役所に問い合わせようと思う。家族の連絡がとれないのはどうしようもないので離れたところにいる時は1つの場所に集合するようにしようと思う。
震度 6 強	女性	30 代	家具の固定。寝室には倒れそうな家具を置かない。
震度 6 強	女性	30 代	近所のかたと地域の避難場所を確認しあったりしたのですが普段から助けあったりするのが大切だと思いました。
震度 6 強	女性	30 代	保険会社との細かい部分の契約の確認（建物に塀は含まれないと言われていたため）
震度 6 強	女性	30 代	心構え
震度 6 強	女性	30 代	連絡手段を持つこと
震度 6 強	女性	30 代	一致団結。誰かが手を差し伸べてくれるのを待つばかりではいけない。地域の人と連携してみんなで知恵を出し合って皆が協力していかなければいけない。
震度 6 強	女性	30 代	近所の人とのコミュニケーション
震度 6 強	女性	30 代	今まで非常時袋の必要性を感じていたが、まさか自分の身に起こると思っていなかったが、非常時の備えは本当に大切だと感じています。実際、災害時はパニックになり、どうしたらよいかわからなくなってしまったけれど、日頃から防災に関する知識を高めることが必要だと思います。今回のことで得た教訓は大きいと感じています。
震度 6 強	女性	30 代	しっかりした道路や家をつくること
震度 6 強	女性	30 代	家具を固定したり、落下物が無いようにしなくてはいけない
震度 6 強	女性	30 代	家の補強と、荷物は積み上げないようにしないといけないと思った。
震度 6 強	女性	40 代	報告、連絡、相談
震度 6 強	女性	40 代	家具を固定する。寝室に背の高いたんすを設置しない。
震度 6 強	女性	40 代	地震に対してもっと危機感をもつこと
震度 6 強	女性	40 代	地震保険
震度 6 強	女性	40 代	家具類の固定、連絡手段の確認等
震度 6 強	女性	40 代	高い所に物を置かない。家具を固定する。家族との連絡、または避難場所を決めておく。非常用持出袋の準備。
震度 6 強	女性	50 代	タンスや食器棚が倒れて下敷きにならないように転倒防止対策をすることが大切だと感じた。
震度 6 強	女性	50 代	周りが田んぼで、高台にあるので、火の元と、脱出の確保だけは、しようと思う。家の中に関しては、倒れるようなものと言ってもたいしてなく（冷蔵庫とテレビ）30 畳ほどのリビングダイニングの片隅にあるだけなので、家がつぶれない限り、大丈夫だとおもう。たんすなど家具は、一体型にしてあったのも良かったと思う。
震度 6 強	女性	50 代	安否の確認、火の元、ショーウィンドーとか、大きな窓ガラスの飛び散り、高さの高い家具類より、押入れクローゼット、またはウォークインクローゼット、またはタンス部屋を作り1カ所に固める、食器棚は横開きの方が安全

震度	性別	年齢	文字回答
震度 6 弱	男性	30 代	家電の転倒防止、家屋周辺の弱い部分の補強
震度 6 弱	男性	30 代	ご近所との声の掛け合い
震度 6 弱	男性	30 代	地域の連携が大切
震度 6 弱	男性	40 代	落ち合う場所を決めておく
震度 6 弱	男性	40 代	的確な情報伝達と行動指針
震度 6 弱	男性	40 代	家具の配置方、連絡の手段
震度 6 弱	男性	40 代	家具などの固定
震度 6 弱	男性	40 代	連絡方法
震度 6 弱	男性	50 代	いつ災害が来るか分からないなあと思う。
震度 6 弱	女性	20 代	家具が倒れないように固定しておくこと。
震度 6 弱	女性	20 代	地震時の避難場所など
震度 6 弱	女性	20 代	防災グッズはあるに越したことはないと思いました。災害は何処でも起こりうるかもしれないという意識を持っていることが大事です。
震度 6 弱	女性	20 代	安否確認。
震度 6 弱	女性	20 代	まずは一人暮らしのお年寄りや体の不自由な人を優先して助ける。
震度 6 弱	女性	20 代	避難経路と場所の確認。家族との連絡方法や落ち合う場所を決めること。非常持ち出しの荷物をまとめておくこと。今回の地震で、門前町が独自に作っていた「高齢者マップ」が役立つという報道を見た。能登方面は過疎化が進み、高齢者が多い地域なのでとても良い取り組みだったと思った。普段から訓練を重ねていて、それが役立ち、今回の地震での行方不明者は 0 だった、ともあった。素晴らしいなあと本当に感心させられた。子供と高齢者が一緒に暮らす 3 世代以上の家庭も多いので、「高齢者マップ」と併せて、「乳幼児マップ」なる物も必要だと思う。一人で小さい子供を抱え留守番しているお母さんも多くいると思うので、とても不安だったと思う。
震度 6 弱	女性	20 代	連結
震度 6 弱	女性	30 代	連絡手段と避難場所を決めておく事
震度 6 弱	女性	30 代	近隣住民との円滑なおつきあい
震度 6 弱	女性	30 代	家具などの転倒防止策を取る。なるべく高く物は積み上げないようにすること。
震度 6 弱	女性	30 代	家族との落ち合い場所の確認、保育園や学校との連絡の取り方や災害時の避難場所の確認。
震度 6 弱	女性	40 代	今回私の住む地域は被害が少なかったし、地震の速報も地域の放送ですぐに入ったので良かったと思う。ただ、もっと大きな地震でもっと深刻な被害があったとき、どんな対応をとるか何も相談していなかったので、今後の課題となると思う。高齢者の多い地域なのでその対策も必要だと思った。
震度 6 弱	女性	40 代	家族間の連絡方法の徹底
震度 6 弱	女性	50 代	災害は忘れたころにやってくる。
震度 5 強	男性	40 代	避難所の確認
震度 5 強	男性	60 代以上	津波情報が迅速に入手出来る事とその対応の仕方について話しあって決めておく。
震度 5 強	女性	20 代	家財の設置方法により被害が変わる。そして、家族の集合場所確認も大切だ...と改めて実感。
震度 5 弱	男性	20 代	備えが必要!
震度 5 弱	男性	20 代	災害がいつ起きてもいいように非常食などの蓄えが必要だと思った
震度 5 弱	男性	20 代	運が大切
震度 5 弱	男性	20 代	防災用品等を準備しておいたほうがいいと思った
震度 5 弱	男性	20 代	普段から落下するものをなるべく高いところへおかないこと。
震度 5 弱	男性	20 代	連絡手段
震度 5 弱	男性	20 代	命
震度 5 弱	男性	20 代	日頃の準備
震度 5 弱	男性	20 代	避難場所の確認や、地震時の行動をもっと勉強するべきだと思いました。
震度 5 弱	男性	20 代	避難経路、集合場所の確認
震度 5 弱	男性	20 代	目を覚ますこと
震度 5 弱	男性	20 代	対策が必要
震度 5 弱	男性	20 代	落ち着いて、出来るだけ情報を集めること。
震度 5 弱	男性	20 代	ニュースなので災害はあまり自分の所は関係ないと思っていた。天災は忘れたころにはというが、危機感を日常持つ必要があると感じた。
震度 5 弱	男性	20 代	地域でのコミュニケーションを日常的にとっておく必要があると感じた。
震度 5 弱	男性	20 代	災害が発生した場合の避難場所の確認や家具などに地震対策を行うこと
震度 5 弱	男性	20 代	運次第だなと
震度 5 弱	男性	20 代	家具の固定
震度 5 弱	男性	20 代	普段から防災の意識を高めておく必要がある
震度 5 弱	男性	20 代	防災グッズを用意しておく必要があると思った
震度 5 弱	男性	30 代	北陸は比較的地震の少ないところなので、地震に対してあまり関心がなかったが、これからはもっと真剣に防災対策について話あったりすることが大切だと思いました。
震度 5 弱	男性	30 代	正確な情報の把握
震度 5 弱	男性	30 代	情報収集
震度 5 弱	男性	30 代	連絡手段の確保。
震度 5 弱	男性	30 代	落ち着く
震度 5 弱	男性	30 代	防災用具を身近なところに備えておく事
震度 5 弱	男性	30 代	非常食の確保
震度 5 弱	男性	30 代	非常持ち出し品の準備、突発時の安全役割分担
震度 5 弱	男性	30 代	連絡方法を確認しようと思う。(災害用伝言ダイヤルなど)
震度 5 弱	男性	30 代	机の下に隠れるなどを子供達がしっかりと実践できるように訓練すること。



## VI. 文字回答一覧

震度	性別	年齢	文字回答
震度 5 弱	男性	30 代	避難用グッズ一式の準備
震度 5 弱	男性	30 代	家族が離れていたときの安否の確認方法
震度 5 弱	男性	30 代	保険などの加入
震度 5 弱	男性	30 代	避難場所の確認
震度 5 弱	男性	30 代	転倒防止
震度 5 弱	男性	30 代	慌てずに、行動すること。
震度 5 弱	男性	30 代	家族の連絡手段を話し合う
震度 5 弱	男性	30 代	地震保険への加入
震度 5 弱	男性	30 代	物の置き方
震度 5 弱	男性	30 代	地域住民との連携
震度 5 弱	男性	30 代	常に行動できる冷静な判断が必要。家がつぶれそうならすぐに脱出したほうがよい。
震度 5 弱	男性	30 代	震源が能登半島の反対側なので、津波の心配は無いとすぐにわかったが、震源が富山湾の中であった場合、津波の危険に対してどう対応したんだろうかと考えた。
震度 5 弱	男性	30 代	防災グッズの準備
震度 5 弱	男性	30 代	連絡網の確保（電話以外）、集合場所や役割の設定
震度 5 弱	男性	30 代	この地域でも地震が起きるということをもっと認識し、防災対策をしっかりと意識し対策することが必要と感じた。
震度 5 弱	男性	30 代	もっと近所との付き合いをし、災害時に協力しあえるようにしておきたい。
震度 5 弱	男性	30 代	地震に強い家
震度 5 弱	男性	30 代	家の耐震
震度 5 弱	男性	30 代	避難場所の確保
震度 5 弱	男性	30 代	運。
震度 5 弱	男性	30 代	年に一回くらいは地域（地区単位）で地震対策の話し合いをするべきだと思う。実際大規模な地震では冷静に行動できるのは困難なので、最低身の安全を守る方法ぐらい常に意識することが必要。
震度 5 弱	男性	30 代	事前準備や対処、避難方法などの検討
震度 5 弱	男性	30 代	以前より、メディアの情報が良くなったが、では外の畑にいたらどうなるのでしょうか。その地域、地域で町内の何処にいても緊急町内放送を聞くことが出来る設備なども考えてほしいですね。
震度 5 弱	男性	30 代	日ごろの心構え
震度 5 弱	男性	30 代	最低限の対策はしなければならない
震度 5 弱	男性	30 代	避難場所の確認など
震度 5 弱	男性	30 代	避難場所を確保すること
震度 5 弱	男性	30 代	家具などは倒れないように、転倒防止器具などをつける。
震度 5 弱	男性	30 代	耐震設計
震度 5 弱	男性	30 代	連絡
震度 5 弱	男性	30 代	近所の連携。地震がおきたとき、避難する場所の確認。
震度 5 弱	男性	30 代	地震が起きたときの対処法を、しっかり頭に入れておくこと
震度 5 弱	男性	30 代	冷静に対処する事
震度 5 弱	男性	30 代	声の掛け合い
震度 5 弱	男性	30 代	避難場所の把握
震度 5 弱	男性	30 代	冷静になること
震度 5 弱	男性	30 代	家の耐震検診
震度 5 弱	男性	30 代	家が新しくても古くても地震の発生の仕方によって対策が無いのではと思った。（地盤の強さや振動の伝わる方向にもよる）
震度 5 弱	男性	30 代	非常用のアイテム袋があればいいと思った。
震度 5 弱	男性	30 代	地震があまり無いので安心してはダメだと思った。
震度 5 弱	男性	30 代	水や食料等の確保
震度 5 弱	男性	30 代	落ち着いて行動すること
震度 5 弱	男性	30 代	連絡方法の確立
震度 5 弱	男性	30 代	普段から防災の意識を高めておくこと
震度 5 弱	男性	30 代	水槽の水がこぼれるので気を付けたい。家具などに少し角度を付ける。
震度 5 弱	男性	30 代	備え
震度 5 弱	男性	30 代	とっさに身を隠す場所を確保しておかないとダメだと思いました。
震度 5 弱	男性	30 代	連絡方法の決め事
震度 5 弱	男性	30 代	連絡の取り方を考えなくてはならない。
震度 5 弱	男性	30 代	落下対策
震度 5 弱	男性	30 代	落ち着くこと
震度 5 弱	男性	30 代	防災袋ぐらいは用意しておけばいいと思った
震度 5 弱	男性	30 代	いざというときの備え。
震度 5 弱	男性	30 代	比較的、地震の被害が少ない県だと思っていたが、前もって対策（非常食とか）をしておくことが大事だと思った
震度 5 弱	男性	30 代	避難用具の準備
震度 5 弱	男性	30 代	家具が倒れないようにしたり、物が落ちてこないようになるべく高いところには物を置かないようにするべきだと思った。貴重品等を持ち出しやすくしておくべきと思った（ただし、盗難等の被害が起きる可能性が出てくる）
震度 5 弱	男性	30 代	日頃からの防災意識。
震度 5 弱	男性	30 代	水が必要
震度 5 弱	男性	30 代	家具の固定が必要
震度 5 弱	男性	30 代	必ずくるものと想定して生きていくこと

震度	性別	年齢	文字回答
震度 5 弱	男性	30 代	ガス元栓を閉めることを徹底する。ライフラインの確保。近所の方の安否を確認する。
震度 5 弱	男性	30 代	地域住民の連携
震度 5 弱	男性	30 代	地震に対する危機感が薄い
震度 5 弱	男性	30 代	連絡の仕方。電話が全くつながらないとは思っていなかった。
震度 5 弱	男性	30 代	避難場所の周知と確認
震度 5 弱	男性	30 代	安否確認のシステムの見直し（携帯以外で）
震度 5 弱	男性	30 代	公園など避難場所はあるが電信柱が倒れないか心配だった。
震度 5 弱	男性	40 代	避難先を認識しておく。
震度 5 弱	男性	40 代	避難場所の確認
震度 5 弱	男性	40 代	普段からの備えと地震保険の加入。
震度 5 弱	男性	40 代	家族での連絡手段、方法を決めておくことが大切であると思った。
震度 5 弱	男性	40 代	地震のないところだとだと思っていたが、今回初めて怖い思いした。家が崩れるかと、整理整頓し点検します
震度 5 弱	男性	40 代	高いところに物を置かない。
震度 5 弱	男性	40 代	火の用心
震度 5 弱	男性	40 代	普段からの話し合い
震度 5 弱	男性	40 代	新しく耐震構造の家に住む
震度 5 弱	男性	40 代	準備が必要。
震度 5 弱	男性	40 代	地震への危機管理を認識すべきだと思った
震度 5 弱	男性	40 代	家庭内では整理整頓と落下防止措置を充分にとる事、非常食料と水の備蓄の重要性。地域では地区周辺住民の把握と避難場所の確認の必要性を感じた。
震度 5 弱	男性	40 代	避難場所と避難方法の確認
震度 5 弱	男性	40 代	落ち着いて行動すること、落下物への注意が大事と感じた
震度 5 弱	男性	40 代	発生後の地域住民の協力体制
震度 5 弱	男性	40 代	緊急避難場所
震度 5 弱	男性	40 代	パニックに陥らないこと。
震度 5 弱	男性	40 代	冷静に対応すること
震度 5 弱	男性	40 代	家具等の固定の必要性
震度 5 弱	男性	40 代	避難経路の確保
震度 5 弱	男性	40 代	日頃の防災準備
震度 5 弱	男性	40 代	何かあったとき、どうするかということを決めておくこと。
震度 5 弱	男性	40 代	通信回線が使用できなくなるので家族と避難場所を決めておくことが大切なことだとわかった。
震度 5 弱	男性	40 代	避難場所の確認と落ち合う場所
震度 5 弱	男性	40 代	家族や近隣人の安否。
震度 5 弱	男性	40 代	大きいものが倒れないように固定すること
震度 5 弱	男性	40 代	連絡の取り方を決めておく
震度 5 弱	男性	40 代	高い所に物をおかないこと
震度 5 弱	男性	40 代	避難場所の確認、連絡方法
震度 5 弱	男性	40 代	火災の防止
震度 5 弱	男性	40 代	転倒防止および連絡方法の事前確認
震度 5 弱	男性	40 代	少しでも地震対策をしておくべきだと思った
震度 5 弱	男性	40 代	家族が離れ離れの場合についてこ行動、とっさ行動、連絡のとり方、どこに避難するのか等地震についてしっかりと話し合う事。
震度 5 弱	男性	40 代	情報収集の大切さを感じた。デマなどが飛び交わなかった
震度 5 弱	男性	40 代	地震はどこでも起こりうることを念頭に置く必要があると感じた。
震度 5 弱	男性	40 代	冷静さ
震度 5 弱	男性	40 代	地震に対する備えは自治体任せではなく自ら行う
震度 5 弱	男性	40 代	テーブルなどに下に入って身を守ること。
震度 5 弱	男性	40 代	慌てないこと
震度 5 弱	男性	40 代	連絡の確立
震度 5 弱	男性	40 代	避難場所等確認が必要
震度 5 弱	男性	40 代	避難場所
震度 5 弱	男性	40 代	食器棚等の開閉ロックも取り付けが必要。
震度 5 弱	男性	40 代	助け合う。
震度 5 弱	男性	40 代	自分のことは自分で守る
震度 5 弱	男性	40 代	水等の備蓄
震度 5 弱	男性	40 代	家具の固定
震度 5 弱	男性	40 代	家具を固定すること、部屋の中に机の下など、安全な場所を確保すること
震度 5 弱	男性	40 代	隣近所のコミュニケーションを図るべきだと思った。
震度 5 弱	男性	40 代	教訓として備えをすること。
震度 5 弱	男性	50 代	連絡体制の再確認
震度 5 弱	男性	50 代	近所づきあいの大切さを感じました
震度 5 弱	男性	50 代	ガスの元栓を締めなければいけなかった。
震度 5 弱	男性	50 代	自宅に関しては、耐震性を考慮してあるので、この程度の地震では大きなダメージはないと考えている。地震が少ない地域なので、地域住民は揺れに対する慣れがないと感じた。
震度 5 弱	男性	50 代	スピーディな情報伝達
震度 5 弱	男性	50 代	安否の確認と病気や怪我に遭った場合の対処方法
震度 5 弱	男性	50 代	地震に直面して一瞬、何をすれば良いのかわからなくなったので、地震があった場合にすべき事を紙に書いて貼っておきたいと思います。

VI. 文字回答一覧

震度	性別	年齢	文字回答
震度 5 弱	男性	50 代	水食料の備蓄
震度 5 弱	男性	50 代	落ち着いて行動する
震度 5 弱	男性	50 代	高齢者マップが役に立ったと聞いて市町村でつくるべきだと思った。
震度 5 弱	男性	50 代	近所の協力
震度 5 弱	男性	50 代	地域の助け合い
震度 5 弱	男性	50 代	棚の上に、軽い物をしっかり置く事
震度 5 弱	男性	50 代	自宅は古いので、この地域を含めて、この震度まで耐えれそうだと思った。
震度 5 弱	男性	50 代	自己防衛
震度 5 弱	男性	50 代	地震は、他人事ではなく身近におき得るものと認識し、備えること
震度 5 弱	男性	50 代	家族や会社との連絡方法を打ち合わせておく必要を感じました。
震度 5 弱	男性	50 代	ライフラインが不確実だ
震度 5 弱	男性	60 代以上	避難場所の確認
震度 5 弱	男性	60 代以上	妻のみ携帯電話を持っていないが、安否の確認の為に持たせるべきではないか切実に感じた。家族の安否が簡単に安価に判るシステムが最低限必要
震度 5 弱	女性	20 代	家族で落ち合う場所等を決めておく。
震度 5 弱	女性	20 代	被害にあった方には大変申し訳ないが、事前の備えが重要で、しっかり家族とも話し合っておくことが大切だと実感した。是非、今後に備えたい。今まで地震の少ない地域のため、地震に対して軽い気持ちでいた。怖いものだと再認識できたのが一番おおい。
震度 5 弱	女性	20 代	固定
震度 5 弱	女性	20 代	子供の安全
震度 5 弱	女性	20 代	車の鍵の場所や貴重品は置き場所を決める
震度 5 弱	女性	20 代	水を非常時のために常備しておくこと。水が一番不足するから。
震度 5 弱	女性	20 代	家具の配置など
震度 5 弱	女性	20 代	すぐに逃げられるように、大切なものはまとめておかないと・・・。
震度 5 弱	女性	20 代	家での地震対策、いざというときの対応をしっかりとっておかなくてはならないと思いました。特に子供がいるのでその場合はどうすればいいか考えてみたいと思いました
震度 5 弱	女性	20 代	安全だと思っても危険
震度 5 弱	女性	20 代	大事なものの保管場所
震度 5 弱	女性	20 代	避難経路の確認。非常食など必要な道具をそろえておく。家族との連絡がすぐ取れるようにする。
震度 5 弱	女性	20 代	乳幼児がいるので、粉ミルク、離乳食等の確保が心配になった。
震度 5 弱	女性	20 代	避難場所の確認、非常時に持ち出す荷物の確認などしないといけないと思った。また、タンスなど大きな家具の固定などもしないといけないと思った。
震度 5 弱	女性	20 代	食料・防寒具などなどの準備をしておく必要があると思った。今回地震が起きたときは、家族と一緒にいたのでよかったが、バラバラだった時にどうするかを決めておく必要があると思った。
震度 5 弱	女性	20 代	冷静に判断し、現実をいち早く受け止めること。
震度 5 弱	女性	20 代	連絡方法を決めておく。
震度 5 弱	女性	20 代	地震発生時の行動についてもっと学んでおくことが必要だと思いました。
震度 5 弱	女性	20 代	近くにスリッパを置いておいて、割れたガラスなど踏まないようにしようと思った。
震度 5 弱	女性	20 代	家族内で離れ離れになったときの対応を事前に決めておく。171 の使い方を知っておく。
震度 5 弱	女性	20 代	避難場所・非常用袋の準備
震度 5 弱	女性	20 代	いざ地震がおきたときのとるべき行動を周知すべきだと思った
震度 5 弱	女性	20 代	地震に対する心構えを常にもっていることが大切だと思った。地域の防災訓練など、積極的に参加しないといけないと思う。
震度 5 弱	女性	20 代	安否確認
震度 5 弱	女性	20 代	自分の地域は地震があまりないから大丈夫と思っていたけれど、どこででも地震は起こる可能性があるということを認識した。なので、普段家の中で人が居ることが多い場所には物をごちゃごちゃ置いたり倒れてくる危険性のあるものは置かないようにすることが大切だと思った。
震度 5 弱	女性	20 代	整理整頓
震度 5 弱	女性	20 代	いつもは人事のように感じていましたが、今回の地震でいつどうなるかわからない事を痛感しました。いつでも避難できるように準備や避難場所の確認は大事だと思いました。
震度 5 弱	女性	20 代	家具の防災対策、通路の確保
震度 5 弱	女性	20 代	旦那の教育
震度 5 弱	女性	20 代	家族との連絡方法や避難場所などをしっかり確認しておくべきだと感じました。
震度 5 弱	女性	20 代	地震に備える準備も必要
震度 5 弱	女性	20 代	地震保険などを検討する
震度 5 弱	女性	20 代	津波対策
震度 5 弱	女性	20 代	防災グッズをそろえる
震度 5 弱	女性	20 代	今までは誰もこんなに大きな地震が起こるとは思っていなかったと思うので、これからは地震について基本的な行動や避難方法、救助方法から身につけていく必要があると思った
震度 5 弱	女性	20 代	動けない高齢者や乳幼児の安全確保
震度 5 弱	女性	20 代	地震が起きたときの避難場所の確認
震度 5 弱	女性	20 代	冷静な判断
震度 5 弱	女性	20 代	パニックで落ち着いて行動できないことがよくわかった。災害グッズをじゅんぴしとくべき
震度 5 弱	女性	20 代	地震が発生した直後の対応
震度 5 弱	女性	30 代	落ち着くこと

震度	性別	年齢	文字回答
震度 5 弱	女性	30 代	富山は地震が少ないという漠然とした考えがあったがこれからは、また起きるかもしれないという気持ちになった。なんの準備もしていなかったので防災用品を用意しておかなくてはいけないと思いました
震度 5 弱	女性	30 代	地震時やその後どのような行動をとるべきなのかを考え行動できるようにするかを家族で話し合うこと
震度 5 弱	女性	30 代	家具などの固定、家族間の連絡の方法と集合場所を決めておくこと
震度 5 弱	女性	30 代	地域の連携
震度 5 弱	女性	30 代	避難場所の確認
震度 5 弱	女性	30 代	どの地域の被害が予想されるかのマップ作成（寸断されそうな道路、元は海だった土地、盛り土で形成された土地等）
震度 5 弱	女性	30 代	すぐに連絡の取れた携帯は必需品だと感じました。
震度 5 弱	女性	30 代	家具などをきちんと固定して、あまり高く物を積み上げない。
震度 5 弱	女性	30 代	日頃から緊急時の連絡方法などを考えておくこと。
震度 5 弱	女性	30 代	離れ離れになっていたらの集合場所
震度 5 弱	女性	30 代	家族との連絡
震度 5 弱	女性	30 代	家具の固定や配置、非常持ち出し袋等震災に備える準備や心構えが必要と感じた
震度 5 弱	女性	30 代	タンスや棚を固定するようにしたい
震度 5 弱	女性	30 代	今回はたまたま休みで子供たちが自宅にいたが、被災したときどういう風に連絡を取り合うか、話し合いが必要だと感じた。食料、水などの確保。
震度 5 弱	女性	30 代	安否確認の方法を話し合っておく
震度 5 弱	女性	30 代	家具の転倒防止処置
震度 5 弱	女性	30 代	貴重品や非常持ち出し袋の準備が必要だと思うので、近いうちに準備する予定です。いざと言うときの避難場所や家族の集合場所を決めておかなければいけないと思いました。家の中の家具の転倒防止具の取り付けやガラス飛散防止シートの貼り付けなど、地震対策がほとんどとれていないので、必要だと思いました。
震度 5 弱	女性	30 代	避難場所の確認や、家族との連絡方法の確認。避難する時に持っていく荷物の確認。
震度 5 弱	女性	30 代	普段地震のない地域だけど、それなりに家具を固定したり高いところに物を置かないことにしたりと対策をしなければと思った
震度 5 弱	女性	30 代	家族で安否確認の方法を決めておく
震度 5 弱	女性	30 代	連絡の取り方を決めておく。地震がおきたらすることを壁に貼っておく。
震度 5 弱	女性	30 代	隣の家がガス・燃料店さんなので、延焼するわけにはいかないとしました。居住区には高齢者も多いため地域との密着性や助け合いがとても大事だと思いました
震度 5 弱	女性	30 代	いつ、わが身に起こるか分からないので、家具固定などもう少し地震対策をしなければいけないと思いました。
震度 5 弱	女性	30 代	危機感が大切だと感じた
震度 5 弱	女性	30 代	まず何をすればよいかさっぱりわからなかったので、家族の役割分担を決めておいたり、正しい知識を身につければと思った。
震度 5 弱	女性	30 代	私の居住地域は、アパートやマンションなど、集合住宅の多い地域なので、私を含め、一人暮らしの人も多いと思います。近所付き合いもほとんど無いので、町内や校下単位での避難場所や避難経路の指示や指導を受けたことがなく、そういった面で不安を感じました。ですので、日ごろから個人的に被災したときに備えて、避難場所のチェックや、防災グッズの準備をしようと思いました。
震度 5 弱	女性	30 代	普段からの備え
震度 5 弱	女性	30 代	防災について話し合うべきだと思った。（避難場所など）
震度 5 弱	女性	30 代	家族間で連絡の取り方、自信に対する話し合いをするべきだと思った。
震度 5 弱	女性	30 代	あわてて外に飛び出したりしないで自分のまわりをきちんと確認することが大切だと思った。
震度 5 弱	女性	30 代	避難方法や安全確認など日頃から気をつけるべきだと思った。
震度 5 弱	女性	30 代	普段からの備え
震度 5 弱	女性	30 代	各部屋で隠れられる場所を作る。出入口は常に開けておく。うち履き用の靴の準備など
震度 5 弱	女性	30 代	情報の早期認知と地域との連携
震度 5 弱	女性	30 代	携帯電話も持たずに外に飛び出して、興奮状態のまま近所の人と安否を確認しあい、連絡が取れない!と騒動になった親族がいる。連絡の取り方を一考すべきだと思った。
震度 5 弱	女性	30 代	子ども部屋の本棚などの固定をしておくべきだと思った
震度 5 弱	女性	30 代	基本的な防災の知識
震度 5 弱	女性	30 代	災害対策
震度 5 弱	女性	30 代	大きな被害が富山ではなく、とにかく良かったと感じた。
震度 5 弱	女性	30 代	家具の固定
震度 5 弱	女性	30 代	子供にもっと知識を与えるべきだと思った。
震度 5 弱	女性	30 代	備え
震度 5 弱	女性	30 代	取りあえず落ち着くこと。
震度 5 弱	女性	30 代	自分の周りでは災害は起こらないだろうという考えをなくすこと。常日頃からの備えが大切。
震度 5 弱	女性	30 代	事前の相談
震度 5 弱	女性	30 代	備え
震度 5 弱	女性	30 代	地震があった時の集合場所などを決めておくべきと感じた。
震度 5 弱	女性	30 代	非常用に用意しておく。避難場所を知っておく
震度 5 弱	女性	30 代	避難する場所、連絡方法
震度 5 弱	女性	30 代	普段から部屋の中を片づけておく...倒れては困るものは固定する、水の確保
震度 5 弱	女性	30 代	家具に転倒防止をしたほうが良いと思った
震度 5 弱	女性	30 代	ご近所で助け合うこと

VI. 文字回答一覧

震度	性別	年齢	文字回答
震度 5 弱	女性	30 代	常に危険だという意識を持っていること
震度 5 弱	女性	30 代	まだゆっくり考えていない。
震度 5 弱	女性	30 代	家の耐震強度を知ることが大切だと思った。
震度 5 弱	女性	30 代	家の中でも役割分担をしっかりとすとか、いざという時の持ち出し物をしっかりとしなければと思った。
震度 5 弱	女性	30 代	水確保
震度 5 弱	女性	30 代	避難場所と連絡先の確保。
震度 5 弱	女性	30 代	それぞれの役割を考えておくこと。
震度 5 弱	女性	30 代	いつ起こるかかわからない災害に備えて、家族の役割分担・供え・避難の仕方など話し合うことができた。子供所帯であるため怖がってばかり入れられないということ、生きるということ、助け合わなければいけないことをわかりやすいように話した。
震度 5 弱	女性	30 代	備えが必要と感じた。
震度 5 弱	女性	30 代	万が一のための備えが必要だと感じた
震度 5 弱	女性	30 代	緊急時にどのような対処をすべきか、また、災害が発生する前に様々な案件を家族内で相談し合い、迅速かつ的確な判断をできるように準備しておく必要がある。
震度 5 弱	女性	30 代	とにかく、日頃からの備えと、緊急時の連絡手段についての徹底が大切だと感じた。
震度 5 弱	女性	30 代	連絡手段。非常時の物品や食料の準備など。
震度 5 弱	女性	30 代	今回は休日だったので家族ともすぐ連絡が取れたが、平日ばらばらになっている時の確認方法をもう 1 度家族で確かめる必要を感じた。自宅での家具の配置や固定なども確認の必要を感じた。
震度 5 弱	女性	30 代	防災グッズの備え、安否確認サービスの使い方
震度 5 弱	女性	30 代	非常袋を常備していないと駄目だと感じた
震度 5 弱	女性	30 代	いつ何が起きるかかわからないので、しっかり地震対策が必要だと感じました。
震度 5 弱	女性	30 代	高い所に物を置かない。災害用の電話をしっかりと覚えておく。
震度 5 弱	女性	30 代	連絡手段の確認と避難場所や持ち出し物の確認が必要だと思いました。
震度 5 弱	女性	30 代	今回、外出中に地震を知ったのですが、私の携帯電話はすぐに繋がりましたが、一緒に居た友人たちの携帯は繋がらない状況でした。家族、知人の安否はすぐ心配で携帯電話などが繋がりにくい場合の緊急連絡の仕方など日頃より確認しておくべきだと思いました
震度 5 弱	女性	30 代	自分の住むところでは、地震は起きないと思いきりでいてはいけないと思った
震度 5 弱	女性	30 代	地震が起きたときにどうするかの対策をたてること。
震度 5 弱	女性	30 代	防災について家族だけでなく地域で取り組むことが大切。
震度 5 弱	女性	30 代	あまりにも無防備だった
震度 5 弱	女性	30 代	避難後の落ち合い先。
震度 5 弱	女性	30 代	普段からいざというときのことを話し合っておくこと
震度 5 弱	女性	30 代	連絡が取れない場合の集合場所を確認する必要があると感じた
震度 5 弱	女性	30 代	避難経路など家族で話し合うことが大切だと思いました。
震度 5 弱	女性	30 代	家具の揺れが大きかったので、家具をとめておくものが必要だと思った
震度 5 弱	女性	40 代	お年寄りの世帯の避難・健康が問題だと思う。
震度 5 弱	女性	40 代	防災用品を準備しなければならないと思った
震度 5 弱	女性	40 代	とにかく、命を守る大切さや家族間の、(避難場所) 再確認をした。
震度 5 弱	女性	40 代	非常袋などの準備が必要。
震度 5 弱	女性	40 代	決して人事ではなく、備えが大事。
震度 5 弱	女性	40 代	避難袋の準備や避難場所の確認
震度 5 弱	女性	40 代	家具の転倒防止対策が必要
震度 5 弱	女性	40 代	もしも、被害に会った時の対策 (持ち出す物の点検など)
震度 5 弱	女性	40 代	近隣とのコミュニケーション
震度 5 弱	女性	40 代	安否確認の連絡方法
震度 5 弱	女性	40 代	お互いの連絡のとりかた (安否確認)
震度 5 弱	女性	40 代	声を掛け合うことが大事だと感じた。
震度 5 弱	女性	40 代	情報、家族のすべき行動の把握
震度 5 弱	女性	40 代	自然災害はいつくるかわからないので、準備が必要
震度 5 弱	女性	40 代	外出先の把握と安否の連絡をすること。各地域での高齢者世帯や独り暮らし家庭の安否確認。
震度 5 弱	女性	40 代	最低限度の知識と心構え
震度 5 弱	女性	40 代	連絡網、水、食料などの備蓄、家具の固定などの大切さを痛感。及び地震保険の必要性も感じました。
震度 5 弱	女性	40 代	人と人との思いやりが (行政も含めて) 大切だと感じました。
震度 5 弱	女性	40 代	身の回りの備えなど自分のことは自分で守れるようにしようと思うと強く思った。
震度 5 弱	女性	40 代	家族の役割
震度 5 弱	女性	40 代	慌てず冷静に行動する事。
震度 5 弱	女性	40 代	連絡方法
震度 5 弱	女性	40 代	万が一の時の避難落ち合い場所の家族での確認
震度 5 弱	女性	50 代	食料品など持ち出すものを決めてわかりやすいところに常備しておく事と家族との落ち合う場所を決めておく
震度 5 弱	女性	50 代	家具の固定、避難場所の確認
震度 5 弱	女性	50 代	怖い思いをした割には、今後又あるだろうという実感が無く、少しは考えないといけない。呑気すぎると人には言われるがまだ、正直そんなところです。
震度 5 弱	女性	50 代	普段からの訓練が必要
震度 5 弱	女性	50 代	避難用品を準備しなければならないと思った
震度 5 弱	女性	50 代	地域が協力して高齢者宅などの安否を確かめる事。一人暮らしの際の災害に遭ったときの連絡方法など大切だと感じた。

震度	性別	年齢	文字回答
震度 5 弱	女性	50 代	まず、家の補強、ガラス戸が多すぎ、筋交いも入って無く、見栄えばかりを考えていたので、今後、検討課題です。瓦屋根も重く、不安です。老人だけの所帯も多いので、地域の連帯感を密にする事。
震度 5 弱	女性	50 代	今回の地震では昔から言われているように、災害は忘れた頃にやってくる。ということ。を改めて感じた。また、独立している子供達や、親戚・知人が心配をして連絡をとろうとしていたが、繋がらなかったと後で知り、通話規制を出来るだけ早く解いていただけるよう、お願いしたい。
震度 5 弱	女性	50 代	慌てず冷静に成る事が必要でした。
震度 5 弱	女性	50 代	家庭内では火を消すこと、玄関の戸を開けること。地域では近所の方達の安全。
震度 5 弱	女性	50 代	すぐに連絡をとる
震度 5 弱	女性	50 代	持ち出しものを準備しても、いざとなったら何にもならないと思う。
震度 5 弱	女性	50 代	津波・火災・倒壊の被害についてそれぞれ適切な対策を考えておかないといけないと思いました。
震度 5 弱	女性	50 代	普段からの備え
震度 5 弱	女性	50 代	空地の広い場所に逃げる
震度 5 弱	女性	50 代	揺れがおさまってすぐ外に出たが、近所の人は誰も家から出たはおられなかった。温度差を感じた、周りの人とコミュニケーションがとれなかった。
震度 5 弱	女性	50 代	地震起こった直後すぐ、きっと電話つながらなくなると思い、離れて住んでいる娘にメールと電話してつながった時、他への、連絡を無事であることを知らせてくれるように頼んでおくべきだった。その後すぐ、夜までつながらなくなった。家の中での避難場所を探しておくべきだと感じた。
震度 5 弱	女性	60 代以上	安否の確認方法を決めておこうと思う。
震度 5 弱	女性	60 代以上	転倒家具の防止のため固定の必要性。
震度 5 弱	女性	60 代以上	大きいなと思ったらすぐに何とか情報収集する。

Q31.もし、大揺れの 10 秒くらい前に、大地震が来るという情報を入手できたら、あなたは何かできたとお思いますか。(その他)

震度	性別	年齢	文字回答
震度 6 強	男性	30 代	心の準備ができていいと思う
震度 6 強	女性	20 代	慌てて何もできないと思う
震度 6 強	女性	30 代	何もできないと思う。
震度 6 強	女性	40 代	貴重品等の持ち出し
震度 6 強	女性	50 代	ベットを避難させる
震度 6 弱	男性	30 代	事実か真実か真相を確かめるまで何もしない
震度 6 弱	男性	40 代	どこにいるかによる
震度 6 弱	女性	20 代	何もできないかも
震度 5 弱	男性	20 代	窓を開ける
震度 5 弱	男性	30 代	10 秒程度では何も出来ない
震度 5 弱	男性	30 代	家電が転倒しないように押さえる。
震度 5 弱	男性	30 代	何も出来ないと思う
震度 5 弱	男性	30 代	非常用の持ち出し
震度 5 弱	男性	30 代	逃げ道を確保する
震度 5 弱	男性	40 代	テレビの転等を防ぐ
震度 5 弱	女性	20 代	ドアを開ける
震度 5 弱	女性	30 代	落ちそうな物を押さえる
震度 5 弱	女性	30 代	大事なものを持って出る
震度 5 弱	女性	30 代	外に出る準備
震度 5 弱	女性	30 代	非常用持ち出し袋を確実に持ち出す
震度 5 弱	女性	30 代	ドアを開け逃げ道の確保
震度 5 弱	女性	40 代	火、ガスの確認
震度 5 弱	女性	50 代	戸と窓をあけ、大事なものを手元にもってきておく

**付 サーベイリサーチセンターの業務案内**

## 会社概要

商号 株式会社サーベイリサーチセンター  
設立 昭和50年2月  
資本金 6,000万円  
年商 50億円（平成18年度）  
代表者 代表取締役 藤澤士朗  
社員数 176名  
顧問 竹内郁郎（東京大学名誉教授）  
取引銀行 三井住友銀行 赤羽支店  
百十四銀行 東京支店  
みずほ銀行 尾久支店  
三菱東京UFJ銀行 日暮里支店  
商工中央金庫 押上支店  
所属団体 (財)日本世論調査協会  
(社)日本マーケティング・リサーチ協会  
(社)日本マーケティング協会  
(社)交通工学研究会  
日本災害情報学会 他

## 沿革

昭和50年2月 資本金1,000万円にて設立  
昭和51年6月 大阪事務所開設  
昭和54年1月 静岡事務所開設  
昭和61年9月 名古屋事務所開設  
昭和63年4月 本社社屋竣工  
平成2年4月 東北事務所開設  
平成4年1月 広島事務所開設  
平成5年6月 資本金を4,000万円に増資  
平成9年3月 本社社屋増築  
平成9年4月 九州事務所開設  
平成10年4月 岡山事務所開設  
平成12年7月 資本金を6,000万円に増資  
平成15年4月 四国事務所開設

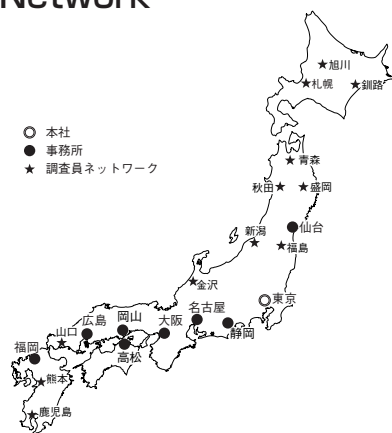
## 取得認証・登録資格

ISO9001 (JMAQA-676)  
プライバシーマーク (C820008 (04))  
建設コンサルタント (道路部門 建13第7120号)

## 組織図



## Network





マスコミに掲載された防災・災害の自主調査

● 能登半島地震に関するアンケート調査

平成 19年 4月 8日



能登半島地震  
「予想外」8割  
住民500人を調査

3月末の能登半島地震の体験者のうち、大きな地震がこの地域で起こるとは思っていなかった人が8割を占めていることが、民間調査会社のインターネット調査でわかった。7割が家具の固定をしておらず、地震が少ないとされてきた地域の危機感の薄さが改めて浮き彫りになった。

サーベイリサーチセンター(東京都荒川区)が

地震直後の3月29日から4月2日まで、石川、富山両県で震度5弱以上を記録した市町村にいる登録者504人にネットを通じてアンケートした。この地域で大地震が起きると「思っていた」のは4%、「ある程度思っていた」のは15%に過ぎず、「あまり思っていなかった」は44%、「全く思っていなかった」は38%だった。家具を固定していないと答えたのは74%。備えが不十分だったと思う人は9割に達した。

平成 19年 5月 9日



地震中、67%が「何もできず」  
能登で住民アンケート

能登半島地震で民間調査会社が住民を対象に実施したアンケートで、地震発生中に「様子をみていた」「動けなかった」など約六七%の人が事実上、何もできなかったと回答していることが分かった。

調査は「サーベイリサーチセンター」(東京)が地震直後の三月二十九日―四月二日、石川、富山両県で震度5弱以上の揺れを記録した市町村に住む同社の登録者五百四人に、インターネットを通じてアンケートした。

「地震発生中にできなかった」の質問に「じっと様子を見ていた」との回答が最多の四八・六%、「動けなかった」が一・五%、「何もできなかった」が七・一%で計六七・二%。震度6強だった地域では「動けなかった」が二六・四%に達した。

平成 19年 5月 15日



### 二輪レース不人気

三宅島民、集客期待は17% 民間アンケート

石原慎太郎・東京都知事の肝いりで三宅島(三宅村)の噴火災害復興策として計画されているオートバイレースについて、観光客の増加につながるかと考える帰島世帯は2割弱にとどまることだが、民間調査会社「サーベイリサーチセンター」(荒川区)が行ったアンケート調査で分かった。レースは11月に開催予定だが、都の思惑と島民の意識の違いが浮かんた。調査は4月に行われ、全世帯の約3分の1に当たる520世帯から回答を得た。

集客が望める観光事業を尋ねた質問で、「『三宅島オートレース』を成

功させ、定着させる」は17%。「定期航空路が再開できないのであれば、軽飛行機や大型ヘリコプターを就航させる」の74%がトップで、「目玉となる観光名産品を作る」38%、「民宿など宿泊施設を増やす」24%、「ゴルフ場や温泉などレジャー施設を造る」21%の順だった。

レースは当初、周回都道(延長30・4キロ)で計画されたが、ライダーや二輪車メーカーから「安全確保が困難」との意見が相次ぎ断念。別の方法で検討している。石原知事は「形を変えてでも、ぜひ実施したい」と述べている。【木村健二】

平成 19年 5月 18日



### 「観光客増」は2割弱

民間アンケート調査で

石原慎太郎都知事がトップダウンで進める三宅島(三宅村)の公道オートバイレース計画について、観光客を増やすと考えている村民は17%しかいないことが、民間の調査機関「サーベイリサーチセンター」(本社・荒川区)が行ったアンケート調査で分かった。

「目玉となる観光名産品を作る」が38%、「民宿など宿泊施設を増やす」が24%だったのに対し、「三宅島オートバイレースを成功させ、定着させる」は17%にとどまりました。このような状態に

なったら村が復興したと感ずるか」については、「空路が再開された時」が62%、「立ち入り規制が解除された時」が48%でした。また、行政が行う復興支援策として必要なものについては、「医療費への補助」が50%を占め、次いで「健康保険や年金などの保険料免除の支援」が39%、「税の減免」が37%、「住宅の補修や再建への補助」が32%などとなっています。

# 防災、防災計画関係の実績一覧

平成19年5月

## 防災

阪神・淡路大震災に関する調査<第1回目>	自主企画調査	7年
阪神・淡路大震災に関する調査<第2回目>	自主企画調査	7年
阪神・淡路大震災に関する調査<第3回目>	自主企画調査	9年
芸予地震に関する住民意識調査	自主企画調査	13年
静岡県中部地震に関する住民意識調査	自主企画調査	13年
H15宮城県沖の地震に関するアンケート調査	自主企画調査	15年
宮城県北部を震源とする地震についてのアンケート調査	自主企画調査	15年
H17宮城県沖の地震に関するアンケート調査	自主企画調査	17年
福岡県西方沖地震についての住民調査	自主企画調査	17年
三宅島帰島住民についての調査<第1回目>	自主企画調査	17年
三宅島帰島住民についての調査<第2回目>	自主企画調査	18年
新潟県中越地震に関する調査	茨城大学	18年
自動販売機の転倒防止に係る実態調査	埼玉県	15年
防災に関する世論調査	東京都	17年
市町村防災研修事業に資するためのアンケート	(財)消防科学総合センター	18年
地下街利用者の災害に関する意識調査	(財)河川情報センター	11年
集中豪雨による水害についての住民調査	(財)河川情報センター	17年
砂防施設計画検討調査	(財)砂防・地すべり技術センター	11年
浅間山噴火についての住民アンケート	(財)砂防・地すべり技術センター	16年
台風14号地すべり災害についての住民調査	(財)砂防・地すべり技術センター	17年
平成18年7月豪雨による土砂災害警戒避難に関する調査	(財)砂防・地すべり技術センター	18年
桜島島民の防災意識に関するアンケート調査	(財)砂防・地すべり技術センター	18年
活断層長期予測デルファイ調査	(財)地震予知総合研究振興会	12年
地震調査研究推進本部の活動に関するアンケート調査	(財)地震予知総合研究振興会	17年
ナウキャスト地震情報の活用に関する調査	(財)日本気象協会	12・13年
ナウキャスト地震情報の社会的影響調査	(財)日本気象協会	15年
富士山噴火情報についての自治体調査	(財)日本気象協会	15年
緊急地震速報についての企業ヒアリング調査	(財)日本気象協会	16年
災害体験についての「ヒヤリハット」調査	(独)防災科学技術研究所	14年
水害ハザードマップ調査	(独)防災科学技術研究所	15年
福岡市博多区におけるヒヤリ・ハット体験および災害体験アンケート調査	(独)防災科学技術研究所	15年
名古屋市西部および西枇杷町における住民の防災意識と防災対策の実態調査	(独)防災科学技術研究所	16年
新潟豪雨についての住民アンケート	(独)防災科学技術研究所	16年
東海豪雨災害に関する被災者の意識調査	NHK放送文化研究所	12年
有珠山避難者アンケート調査	NHK放送文化研究所	12年
東京都民の災害に関するアンケート調査	NHK報道局	14年
新潟県中越地震に関する住民調査	NHK放送文化研究所	16年
新潟豪雨災害に関する住民調査	NHK報道局気象災害センター	16年
震災5年後意識調査	NHK大阪局	11年
阪神淡路大震災に関する住民意識調査	NHK神戸局	16年
地方自治体の防災情報システムに関する自治体アンケート	NPO環境防災総合政策研究機構	16年
新潟水害に関する避難及び情報に関する実態調査	NPO環境防災総合政策研究機構	16年
市町村における住民向け防災広報に関するアンケート調査	消防研究センター	18年
市町村における降雨災害時の住民向け対応調査	消防研究センター	18年

日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震に係る地震防災体制の現状および課題に関する調査	消防庁	18年
旧耐震住宅居住者グループインタビュー調査	東京経済大学	14年
家屋の耐震化に関するアンケート調査	東京経済大学	15年
水害・中越地震被災地域グループインタビュー調査	東京経済大学	16年
救急医療と通信システムについての消防本部アンケート調査	東洋大学	16年
台風23号についての兵庫県豊岡市民アンケート調査	東洋大学	16年
東海豪雨における視覚障害者の災害行動についてのアンケート調査	東洋大学	16年
新潟中越についての十日町市民アンケート調査	東洋大学	16年
山古志村の復興に関する住民意識調査	東洋大学	17年
福岡県西方沖地震グループインタビュー	東洋大学	17年
救急医療と通信システムについての災害拠点病院アンケート調査	東洋大学	18年
2004年水害被災地における復興の実態と意識に関する調査	東洋大学	18年
首都圏における通信行動についての住民アンケート調査	東洋大学	18年
原子力事業者アンケート調査	東洋大学	18年
旧山古志村復興意識調査	東洋大学	18年
観光地災害ヒヤリハット調査	常磐大学	18年
緊急地震速報に関する学生アンケート調査	日本大学	18年
災害報道内容分析	日本大学	18年
一人暮らしの若者の防災意識調査	日本大学	18年
「新潟県中越地震」におけるライフラインについての住民アンケート調査	富士常葉大学	16年
消防団員の公務災害・健康増進についての調査	消防基金	9年
消防団員の安全教育・訓練に関する調査	消防基金	10年
消防団の安全装備品等の配備状況に関する調査	消防基金	11年
阪神大震災3年後の住民意識調査	朝日新聞社	9年
阪神大震災に関する住民意識調査	朝日新聞社	13・15・16年
災害等に関する意識調査	朝日新聞社	13年
阪神大震災に関する住民意識調査	朝日新聞社	13年
自衛隊の災害派遣についてのアンケート調査	朝日新聞社	13年
広域連携についてのアンケート調査及び災害NPOアンケート調査	朝日新聞社	14年
阪神・淡路大震災8年後の被災者意識調査	朝日新聞社	14年
自治体復興・被災者支援制度アンケート調査	朝日新聞社	17年
十勝沖地震緊急調査	東京経済大学	15年
過密空間における人間行動意識に関する調査	東京大学社会情報研究所	9年
帰宅難民対応についての事業所調査	東京大学社会情報研究所	10年
大地震発生時の東京都民の避難行動に関する調査	東京大学社会情報研究所	10年
平成10年8月集中豪雨災害についての調査	東京大学社会情報研究所	10年
河川災害情報の高度化及び危機管理に関する意識調査	東京大学社会情報研究所	11・12年
東海村臨界事故時の行動に関する調査	東京大学社会情報研究所	11年
東京都「広域避難所」の管理体制についての調査	東京大学社会情報研究所	11年
防災用語についてのアンケート	東京大学社会情報研究所	11年
災害写真データベース作成	東京大学	12年
三宅島噴火による住民の避難生活に関する調査	東京大学社会情報研究所	12年
東海水害被災者調査	東京大学社会情報研究所	12年
有珠山噴火による住民の避難行動に関する調査	東京大学社会情報研究所	12年
富士山噴火住民アンケート	東京大学	13年

「富士山噴火」についての有識者デルファイ調査	東京大学社会情報研究所	13年
「富士山噴火情報」についての住民アンケート調査	東京大学社会情報研究所	13年
BSE(狂牛病)についての住民アンケート調査	東京大学社会情報研究所	13年
芸予地震に関する住民アンケート調査	東京大学社会情報研究所	13年
火山情報と噴火災害に関する有珠・島原住民調査	東京大学	14年
災害や事故が社会生活に与える影響調査	東京大学	14年
災害情報に対する民間企業の対応調査	東京大学	14年
自治体の火山噴火についての地域防災計画書調査	東京大学	14年
富士山噴火による企業影響調査	東京大学	14年
2003年5月宮城県沖を震源とする地震住民調査	東京大学社会情報研究所	15年
火山周辺自治体の地域防災計画内容分析	東京大学社会情報研究所	15年
火山噴火災害についての観光企業アンケート調査	東京大学社会情報研究所	15年
宮城県北部地震に関するアンケート	東京大学社会情報研究所	15年
富士山噴火についての住民意識調査	東京大学社会情報研究所	15年
富士山噴火自治体調査	東京大学社会情報研究所	15年
東海地震対策強化地域における地震防災の現況調査	東京大学社会情報研究所	15年
平成16年度民間事業所の東海地震の各情報に対する対応調査	東京大学大学院情報学環	16年
「東海地震情報についての防災ビデオ」作成	東京大学大学院情報学環	16年
民間放送局の災害報道に関する調査	東京大学大学院情報学環	16年
新潟県中越地震についての住民調査および自治体調査	東京大学大学院情報学環	16年
インターネットと携帯電話に関するアンケート	東京大学	18年
子供の安全と災害に対する意識調査	東京大学	18年
地震時の地域防災に関するアンケート	東京大学	18年
安全観についての住民アンケート調査	東洋大学	14~16年
北海道駒ヶ岳噴火についての住民意識調査	東洋大学	14年
苫小牧市民の火山防災意識調査	東洋大学	15年
2004年水害被災地における復興の実態と意識に関する調査	東洋大学	17年
災害弱者に関する調査	文教大学	10年
防災についてのアンケート調査	文教大学	10年
集中豪雨に伴う住宅等被害状況調査	世田谷区	17年
街頭設置消火器実態調査	東久留米市	12年
東海地震についての県民意識調査	静岡県	3・5・7・9・11・13・17年
地域防災アンケート	静岡県	10・14・15年
防犯カメラの設置及び利用に関する実態調査	静岡県	15年
防犯まちづくりアンケート調査	静岡県	15年
東海地震県民意識・企業防災実態調査	静岡県	17年
静岡県中部を震源とする地震についてのアンケート	(財)静岡総合研究機構	13年
市町村消防団実態調査	愛知県	18年
津波浸水予想図印刷	二見町	17年
災害情報の提示方法に関する調査	大阪大学	18年
災害情報の提示方法に関する調査	大阪大学デザインセンター	17年
家屋等の耐震化に関する住宅調査	(財)人と防災未来センター	14年
東海・東南海・南海地震防災対策推進地域市町村における津波対策調査	(財)人と防災未来センター	16年
風水害時における自治体の災害対応に関する調査	(財)人と防災未来センター	16年

## 防災計画

地域防災計画修正	騎西町	17年
地域福祉計画	北杜市	18年
地域防災計画策定	豊富村	9年
地域防災計画	西桂町	18年
地域防災計画	忍野村	18年
地域防災計画	鳴沢村	18年
地域防災計画修正	掛川市	12年
掛川新市地域防災計画及び行動マニュアル策定	掛川市	16年
地域福祉計画	御殿場市	18年
伊豆市地域防災計画策定	伊豆市	16年
防災パンフレット作成	伊豆長岡町	9年
地域防災計画修正	伊豆長岡町	14年
地域防災計画修正	土肥町	15年
地域防災計画策定	榛原町	8・13年
域防災計画修正	榛原町	14年
地域防災計画修正	吉田町	12年
地域福祉計画	川根本町	18年
地域防災計画策定	安曇野市	18年
地域防災計画策定	中津川市	17年
地域防災計画策定	伊豆の国市	17年
特殊災害救助活動計画策定	愛知県	18年
職員初動マニュアル作成	東郷町	14年
地域防災計画策定	東郷町	13・14年
防災マップ作成	東郷町	14年
避難誘導計画策定	東郷町	17年
地域防災計画策定	西春町	15年
防災新聞作成	西春町	15年
地域防災計画等修正	甚目寺町	14・15年
防災に関する講演会	甚目寺町	15年
洪水ハザードマップ作成	甚目寺町	16年
新市地域防災計画策定	津市	17年
地域防災計画策定	いなべ市	17年
地域防災計画	伊賀市	17年
自主防災組織活動マニュアル作成	二見町	15年
職員災害初動マニュアル等作成	二見町	15年
津波ハザードマップ作成	御園村	17年
地域防災計画	江津市	17年
地域防災計画改定	早島町	18年
防災マップ作成	鏡野町	18年
防災対策アクションプラン策定	三原市	18年
地域防災計画	中土佐町	18年

---

## 平成 19 年能登半島地震についてのアンケート調査

平成 19 年 5 月

株式会社 サーベイリサーチセンター

(本 社) 〒116-8581 東京都荒川区西日暮里 2-40-10

TEL 03-3802-6711(代)

FAX 03-3802-6730

(社会情報部) TEL 03-3802-6716

FAX 03-3802-6738

---

本書の記載内容の無断転載を禁ず。

なお、記載内容の照会あるいは詳細資料については、

社会情報部 中島宛(E-mail : naka\_r@surece.co.jp)にお申し出ください。